

身延町
子どもの生活状況に関する実態調査（保護者）
結果報告書

平成 30 年 3 月
身延町

目次

第1章 調査の概要.....	5
1 調査の目的	5
2 調査の方法	5
3 数値等の基本的な取扱いについて	5
4 生活困難世帯の判別・類型化.....	6
第2章 アンケート結果.....	8
1 世帯の状況について.....	8
2 現在の暮らし向きについて	14
3 子どもの教育にかかわる状況について	21
4 子どもの生活にかかわる状況について	32
5 子育てについて.....	42
6 保護者の就労状況について	46
7 子どものよりよい成育環境を実現するために必要なことについて	51
8 アンケートのまとめ.....	65
その他・自由意見等.....	67

第1章 調査の概要

1 調査の目的

近年、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している中、効果的な施策を実施していくためには子どもと子育て家庭の状況を把握していくことが重要であり、子どもたちの学校、家庭での勉強や生活習慣の様子などを把握することを目的に実施しました。

2 調査の方法

(1) 調査対象

18歳以下のお子さんがある世帯

(2) 調査方法

郵送による配布・回収

(3) 調査時期

平成29年10月

(4) 回収状況

	配布数	回収数	回収率
回収状況	643	328	51.0%

3 数値等の基本的な取扱いについて

- 比率は全て百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- 基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。（回答者総数または該当者数）
- 複数回答については、ひとりの回答者が2つ以上の回答を出してもよい設問であり、したがって、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- 文中、グラフ中の設問カテゴリー（選択肢）の文言は、一部簡略化する場合があります。

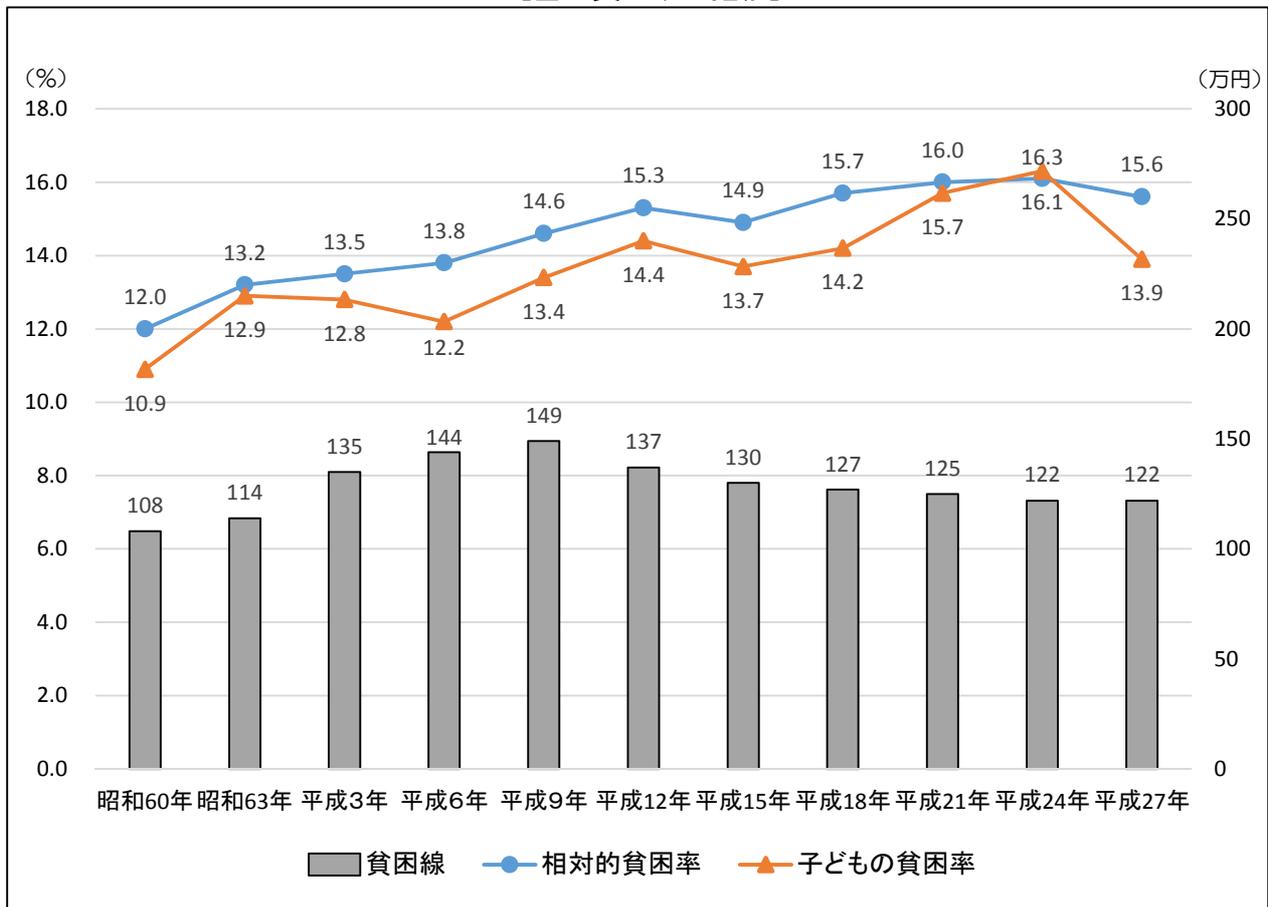
4 生活困難世帯の判別・類型化

本調査の集計・分析にあたっては、子どもたちの学校や家庭での生活習慣だけではなく、子どもの貧困状況を把握するため、「貧困線」の水準について、国が国民生活基礎調査（厚生労働省）により定めている基準を基礎とし、世帯の判別・類型化を行いました。

「貧困線」とは、等価可処分所得の中央値の半分の額のことであり、「等価可処分所得」とは、世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いた、いわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得を言います。

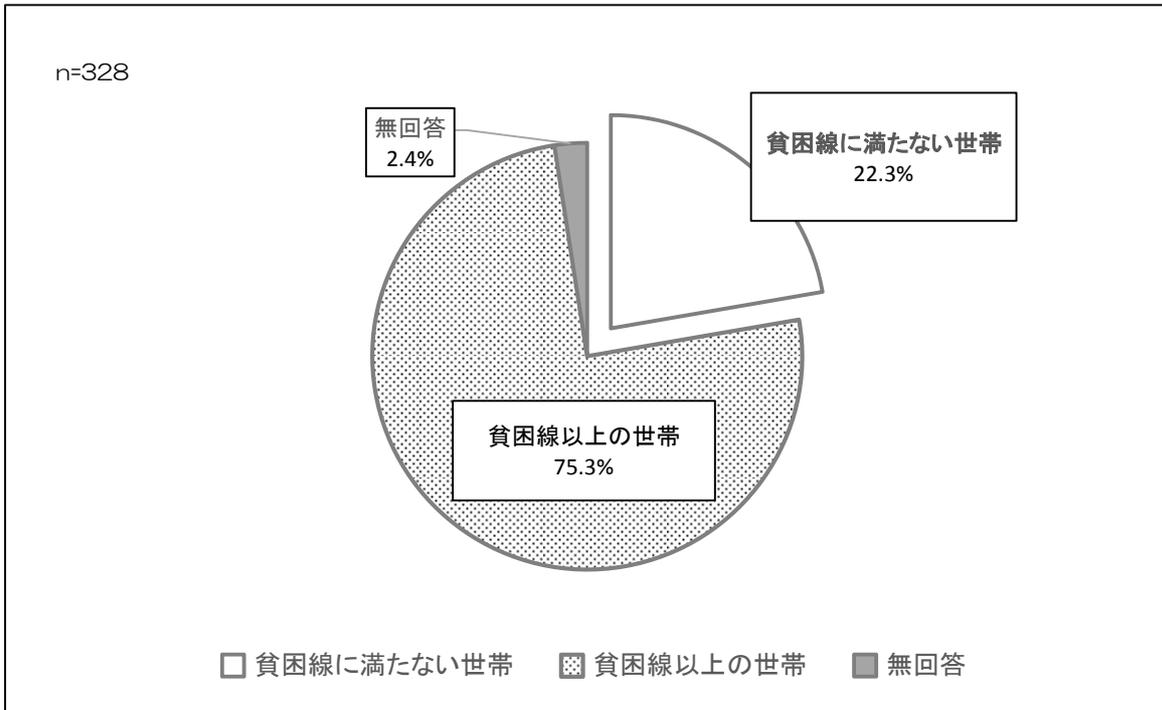
貧困のとらえ方としては、「相対的貧困」（一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない状況）が主に用いられており、国の平成 27 年の貧困線は 122 万円となっています。

【国の貧困率の推移】



アンケート調査結果によると、本町の貧困率は 22.3%と国の貧困率と比較して若干高めとなっています。また、本調査では子どもの貧困状況と生活状況の相関を分析するため、「貧困線に満たない世帯」と各設問とをクロス集計し、分析を行っています。

【本町の貧困率】



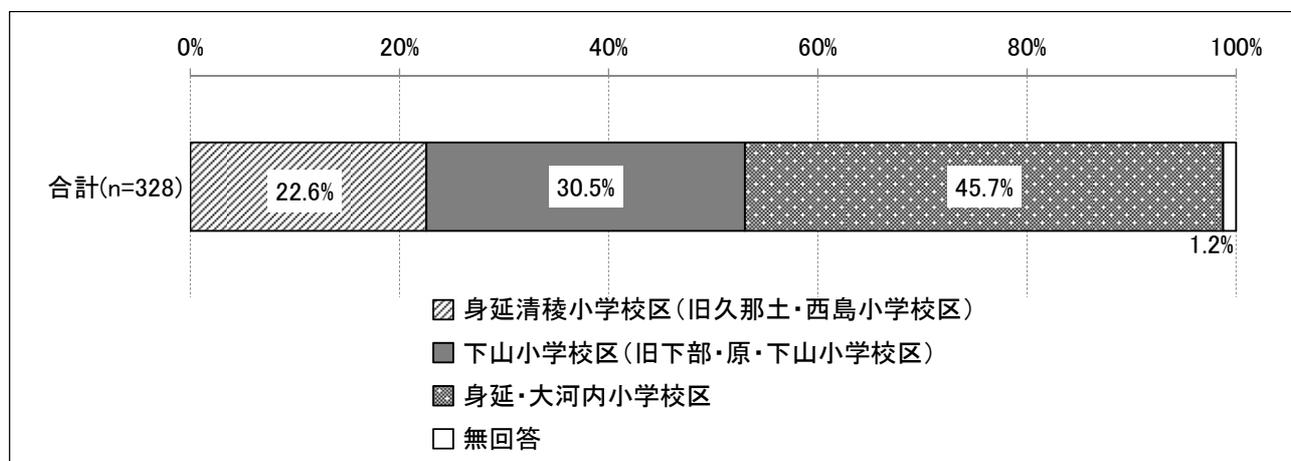
第2章 アンケート結果

1 世帯の状況について

問1 お住まいの地域はどこですか。(〇は1つ)

回答者のお住まいの地域については、「身延・大河内小学校区」が45.7%と最も高く、次いで、「下山小学校区(旧下部・原・下山小学校区)」が30.5%、「身延清稜小学校区(旧久那土・西島小学校区)」が22.6%の順となっています。

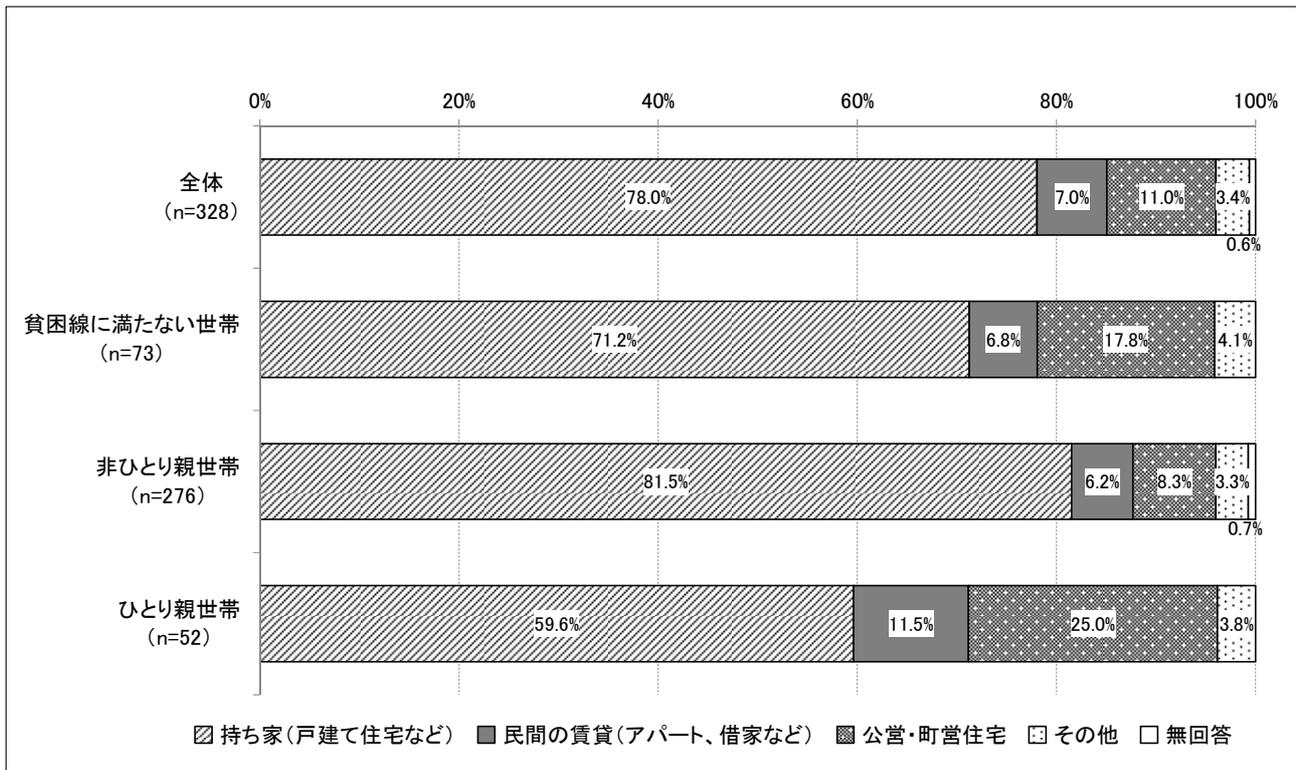
【住んでいる地域】



問2 あなたのお住まいは次のうちどれですか。(〇は1つ)

住まいの種類については、「持ち家(戸建て住宅など)」が78.0%と最も高く、次いで、「公営・町営住宅」が11.0%、「民間の賃貸(アパート、借家など)」が7.0%、「その他」が3.4%の順となっています。

【住まいの種類】



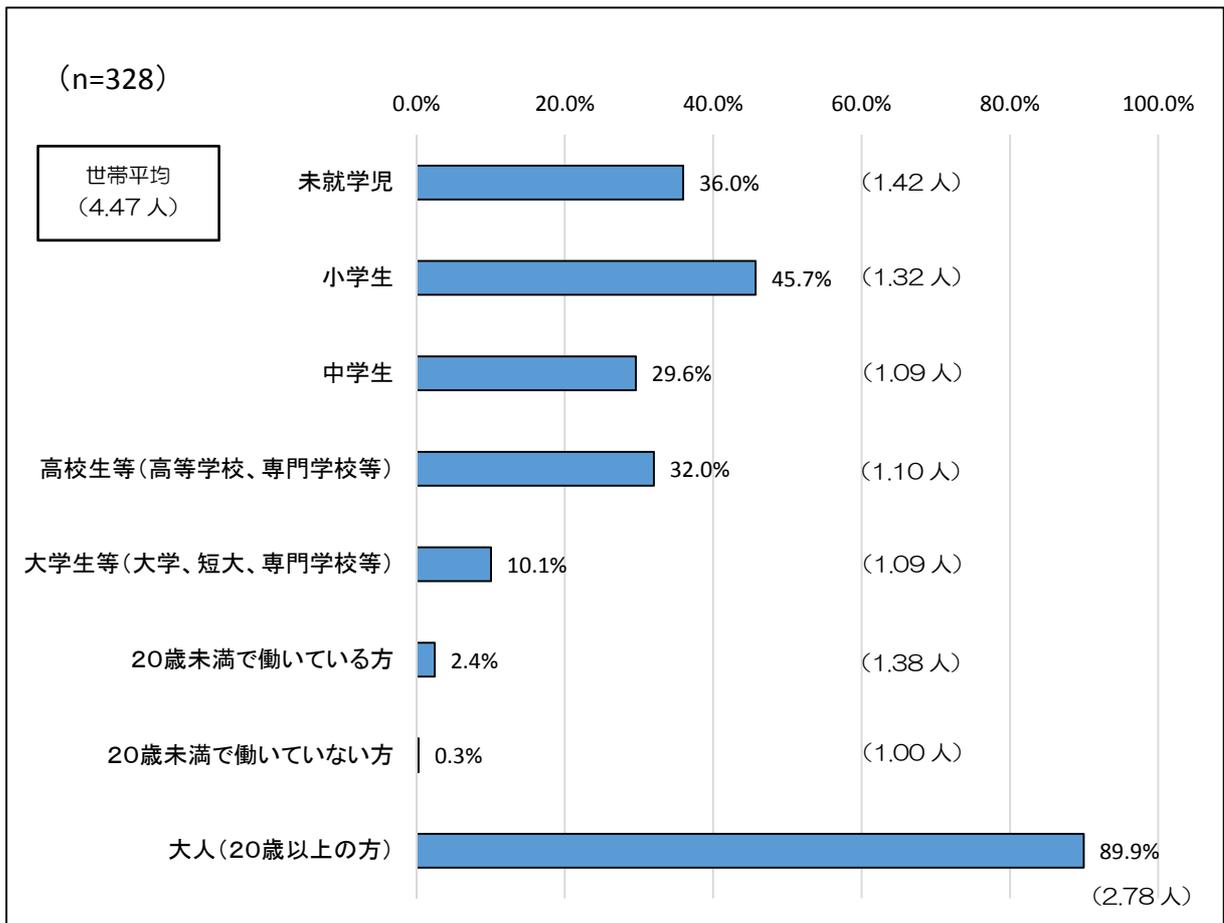
問3

世帯の家族構成について、現在同居されている方（本人を含む）とその人数をお答えください。（複数回答）

世帯の家族構成については、「大人（20歳以上の方）」を除くと「小学生」が45.7%と最も高く、次いで、「未就学児」が36.0%、「高校生等（高等学校、専門学校等）」が32.0%、「中学生」が29.6%、「大学生等（大学、短大、専門学校等）」が10.1%の順等となっています。

また、世帯の子どもの平均人数をみると、子どもの年代が上がるにつれ、人数が少なくなる傾向があります。世帯の平均人数は4.47人となっています。

【世帯の家族構成】



問4

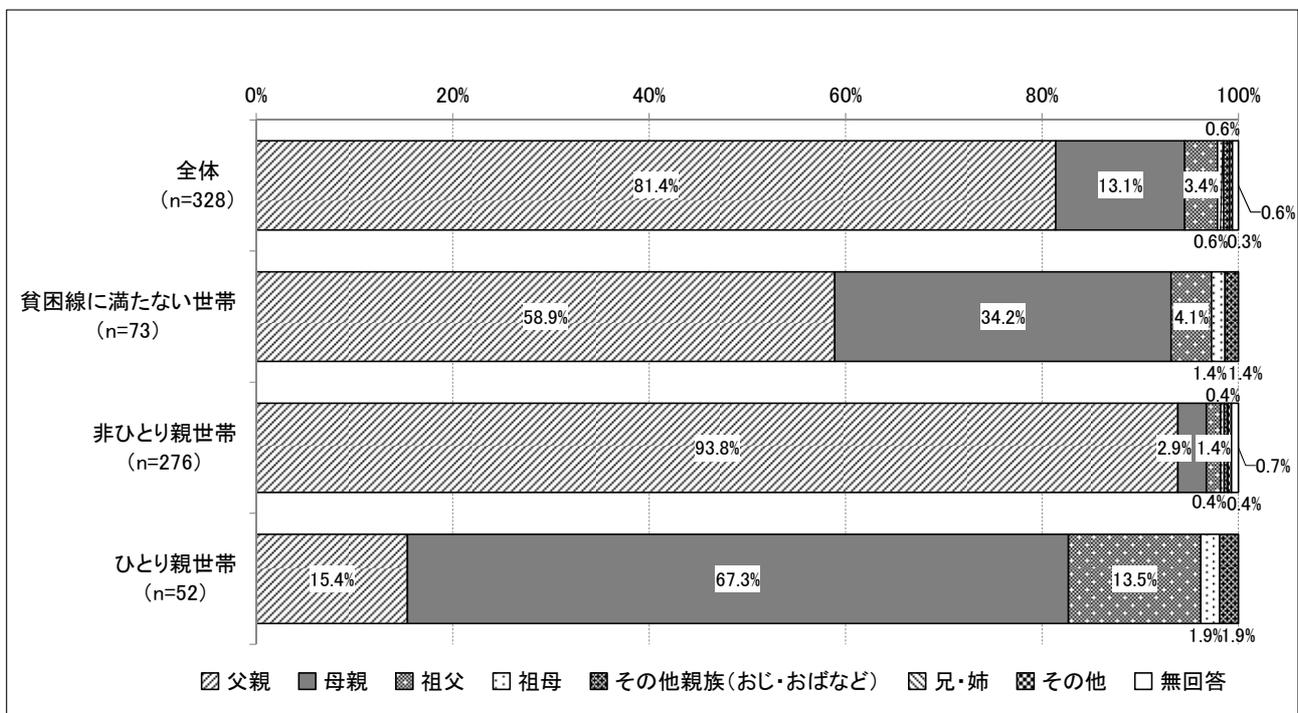
主にご家族の生計を支えている方はどなたですか。
 お子さんからみた続柄でお答えください。(〇は1つ)

家族の生計を支えている方については、「父親」が81.4%と最も高く、次いで、「母親」が13.1%、「祖父」が3.4%の順等となっています。

世帯区別でみると、貧困線に満たない世帯では「父親」が58.9%と最も高くなっていますが、全体と比較すると割合は大きく低下しており、一方、「母親」が全体の13.1%に対して、34.2%と大きく増加しています。

非ひとり親世帯では「父親」が93.8%と最も高く、9割を超えて特に高くなっています。また、ひとり親世帯では「母親」が67.3%と最も高くなっています。

【家族の生計を支えている方】



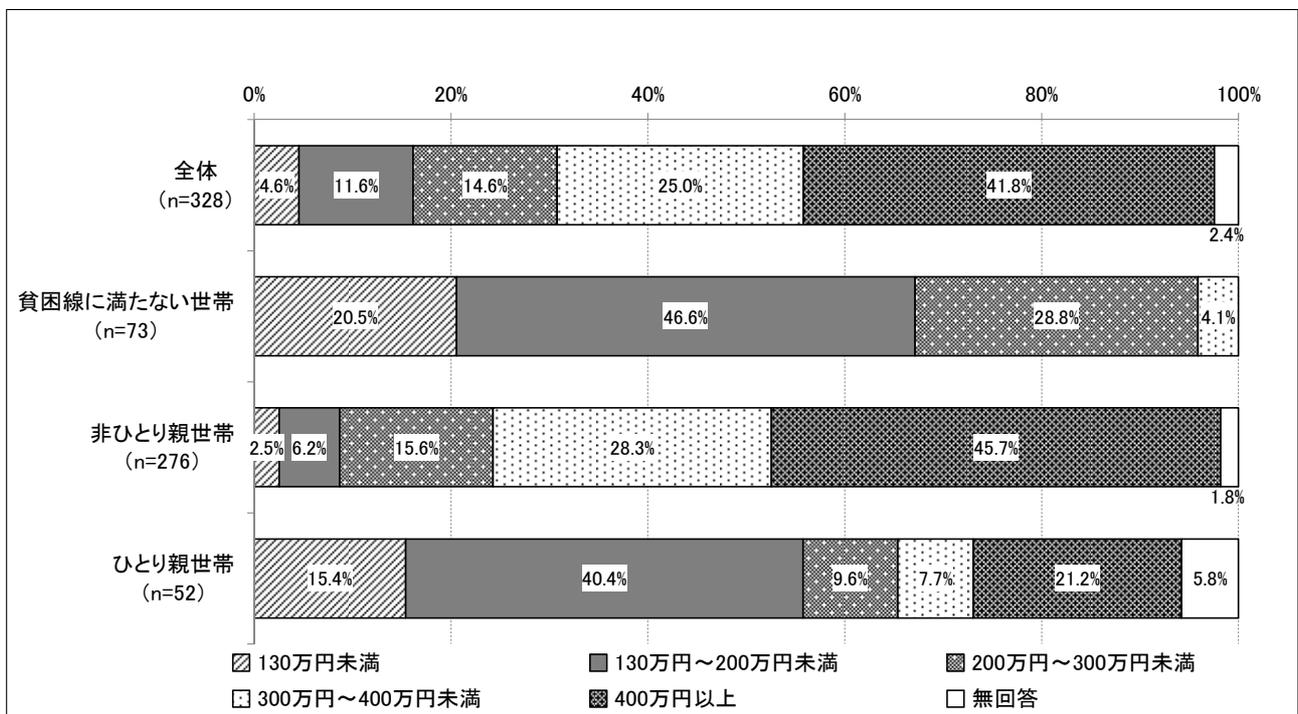
問5 ご家族全体の年間の収入（手取り）はおよそいくらぐらいですか。（〇は1つ）

家族全体の年間の収入（手取り）については、「400万円以上」が41.8%と最も高く、次いで、「300万円～400万円未満」が25.0%、「200万円～300万円未満」が14.6%、「130万円～200万円未満」が11.6%、「130万円未満」が4.6%の順となっています。

世帯区別でみると、貧困線に満たない世帯では「130万円～200万円未満」が46.6%と最も高くなっています。また、2割の方が「130万円未満」となっています。

非ひとり親世帯では「400万円以上」が45.7%と最も高くなっていますが、ひとり親世帯では「130万円～200万円未満」が40.4%と最も高くなっています。

【家族全体の年間の収入（手取り）】



問6 現在の収入は、生活をするためには足りていますか。(〇は1つ)

現在の収入は、生活をするためには足りているかについては、「だいたい足りている」が38.7%と最も高く、次いで、「やや足りない」が31.4%、「足りている」が17.7%、「まったく足りていない」が11.0%の順となっています。

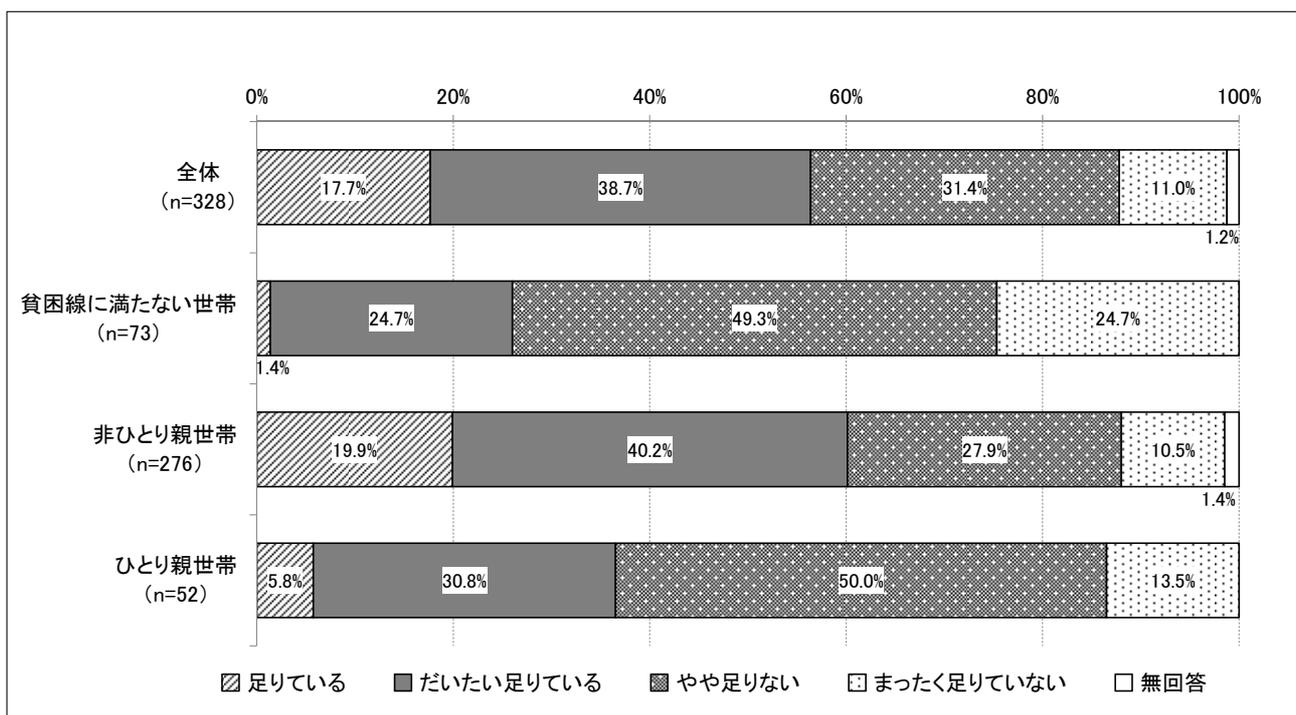
また、「足りている」と「だいたい足りている」をあわせた“足りている”という回答は56.4%と5割を超えています。「やや足りない」と「まったく足りていない」をあわせた“足りていない”という回答は42.4%となっています。

世帯区分別でみると、貧困線に満たない世帯では“足りている”が26.1%、“足りていない”が74.0%となっており、7割以上の方が“足りていない”と感じています。

非ひとり親世帯では“足りていない”が38.4%となっている一方、ひとり親世帯では63.5%と高くなっています。

また、「まったく足りていない」でみると、貧困線に満たない世帯では24.7%となっており、約4人に1人の方が経済的に困難な生活状況となっている現状がみてとれます。

【現在の収入は、生活をするためには足りているか】

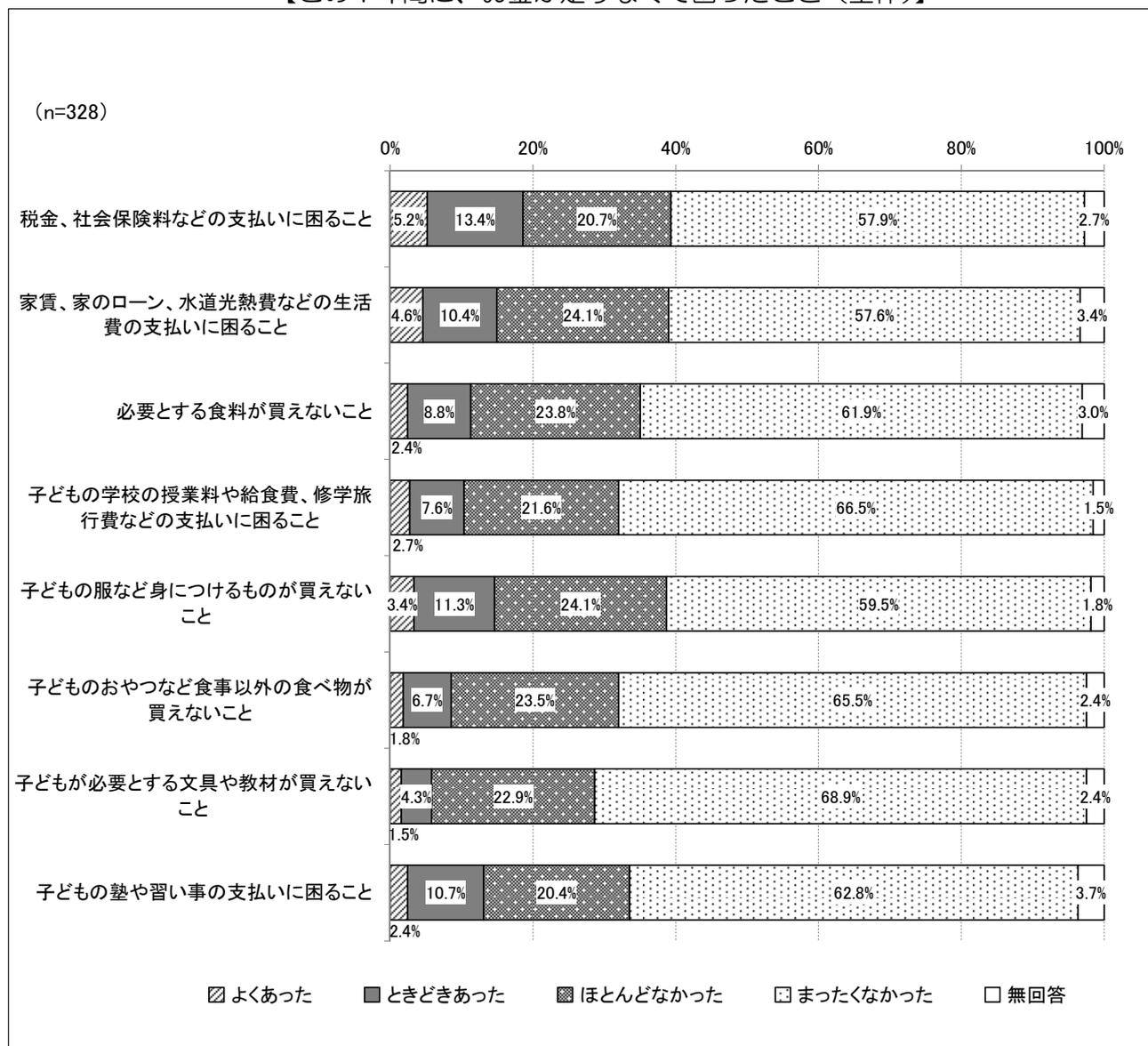


2 現在の暮らし向きについて

問7 この1年間に、お金が足りなくて困ったことはありませんでしたか。(1つに〇)

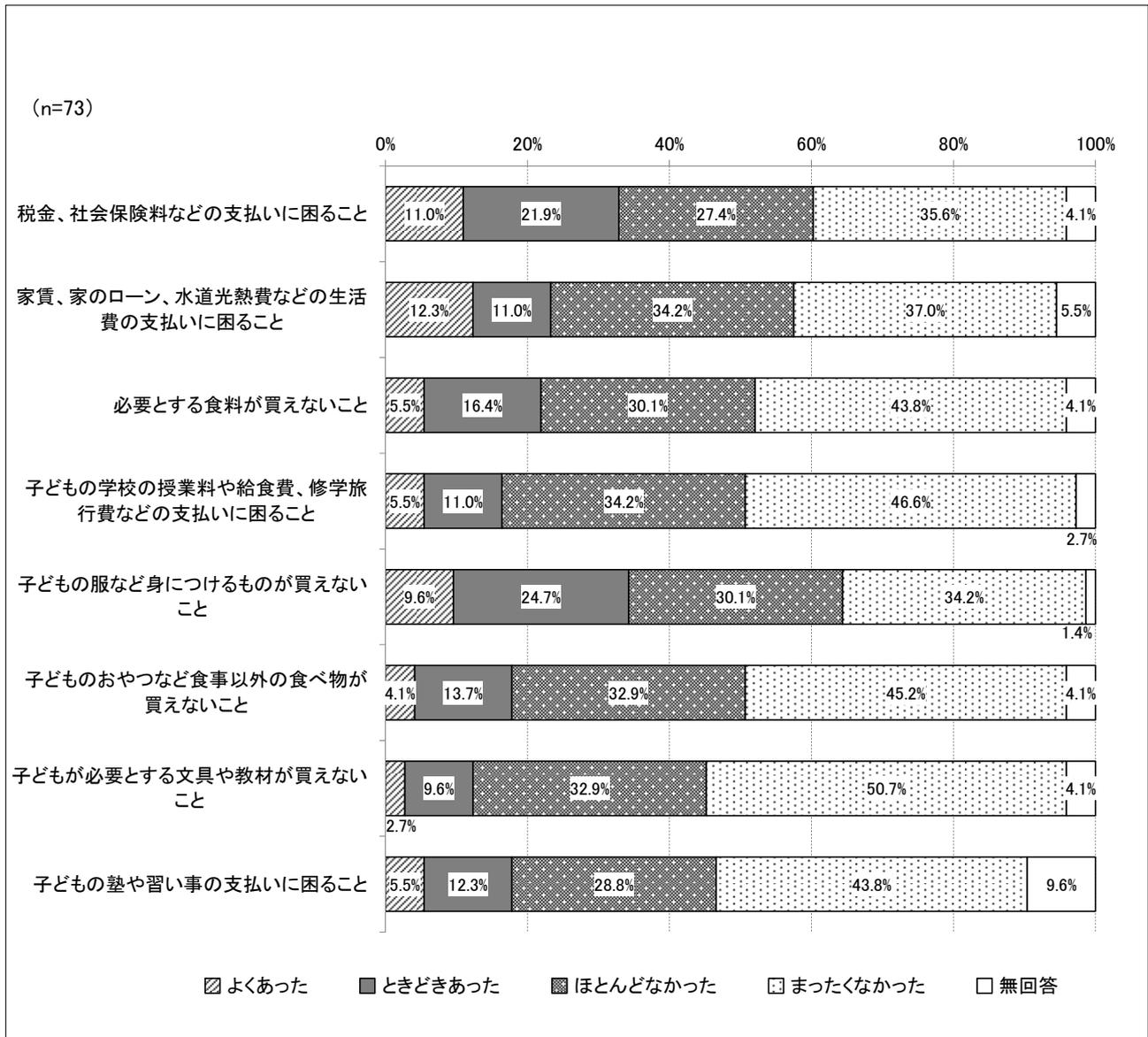
この1年間に、お金が足りなくて困ったことについて、「よくあった」と「ときどきあった」をあわせた“あった”でみると、全ての項目で2割を下回っています。最も高かったのは、「税金、社会保険料などの支払いに困ること」(18.6%)となっています。

【この1年間に、お金が足りなくて困ったこと（全体）】



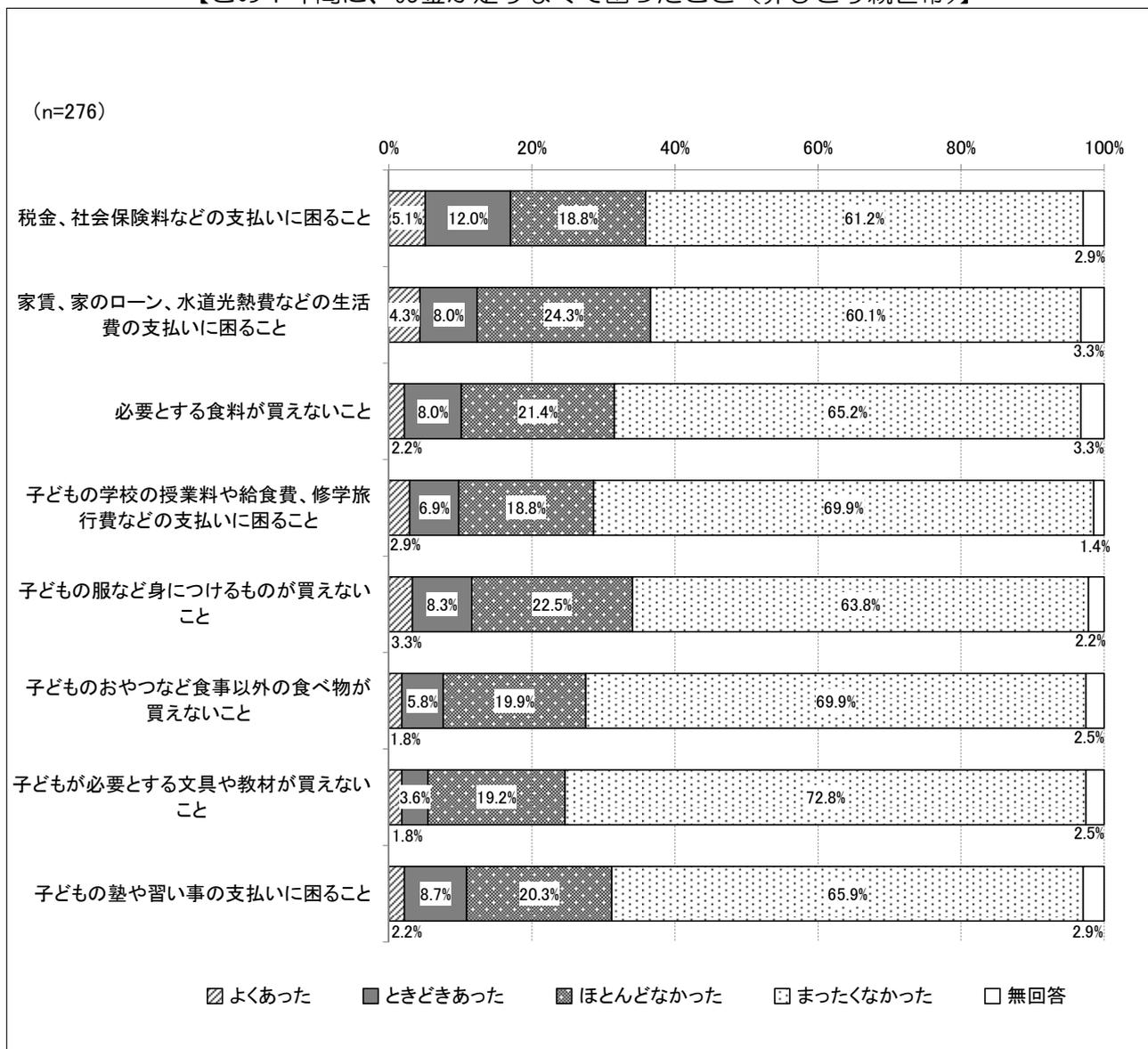
世帯区別で「よくあった」と「ときどきあった」をあわせた“あった”をみると、貧困線に満たない世帯では「子どもの服など身につけるものが買えないこと」(34.3%)と「税金、社会保険料などの支払いに困ること」(32.9%)が特に高くなっており、3割を超えています。

【この1年間に、お金が足りなくて困ったこと（貧困線に満たない世帯）】



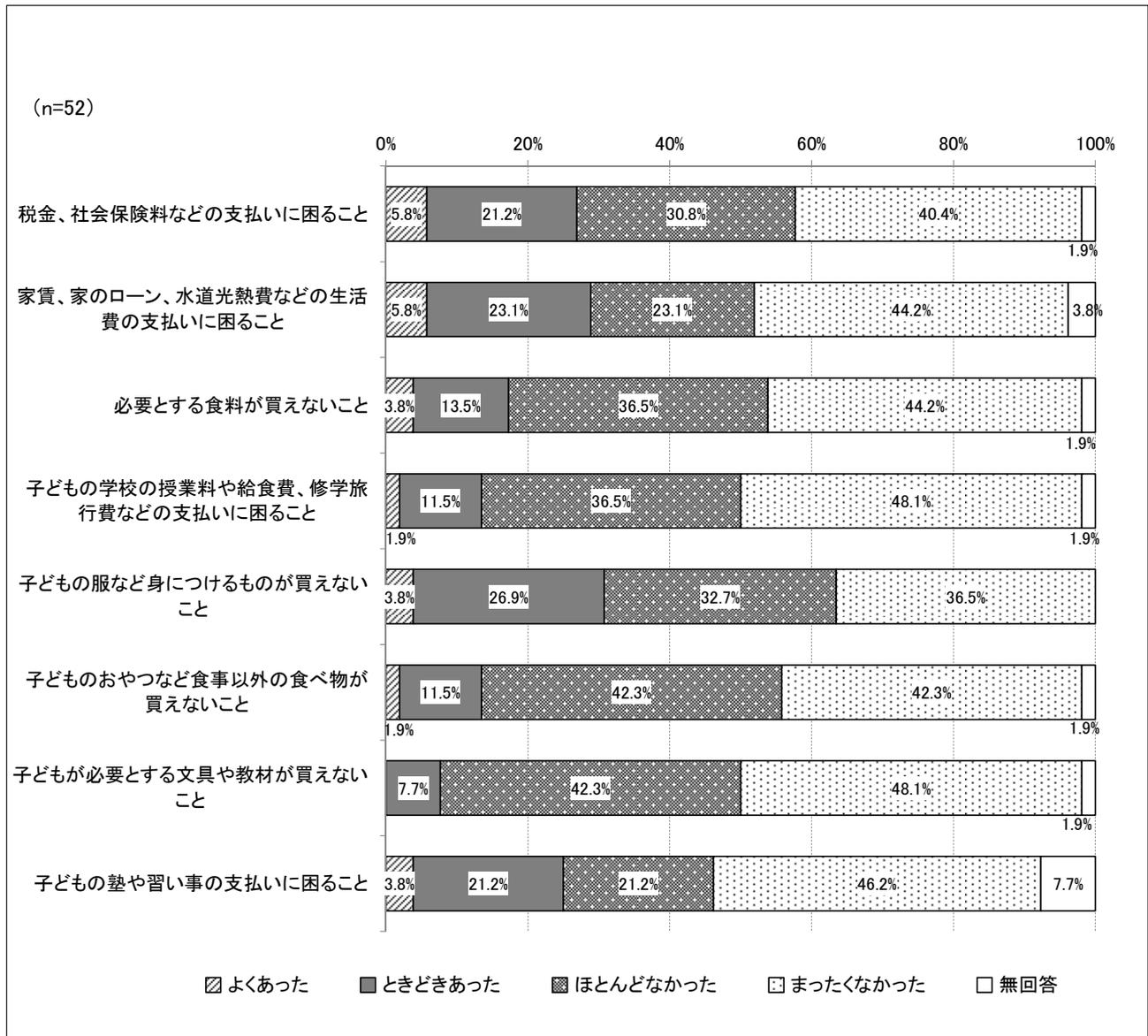
非ひとり親世帯では全ての項目で2割を下回っています。最も高かったのは、「税金、社会保険料などの支払いに困ること」(17.1%)となっています。

【この1年間に、お金が足りなくて困ったこと (非ひとり親世帯)】



ひとり親世帯では「子どもの服など身につけるものが買えないこと」(30.7%)が3割を超えて高くなっているほか、「家賃、家のローン、水道光熱費などの生活費の支払いに困ること」(28.9%)と「税金、社会保険料などの支払いに困ること」(27.0%)、「子どもの塾や習い事の支払いに困ること」(25.0%)が他の項目と比較して高くなっています。

【この1年間に、お金が足りなくて困ったこと（ひとり親世帯）】

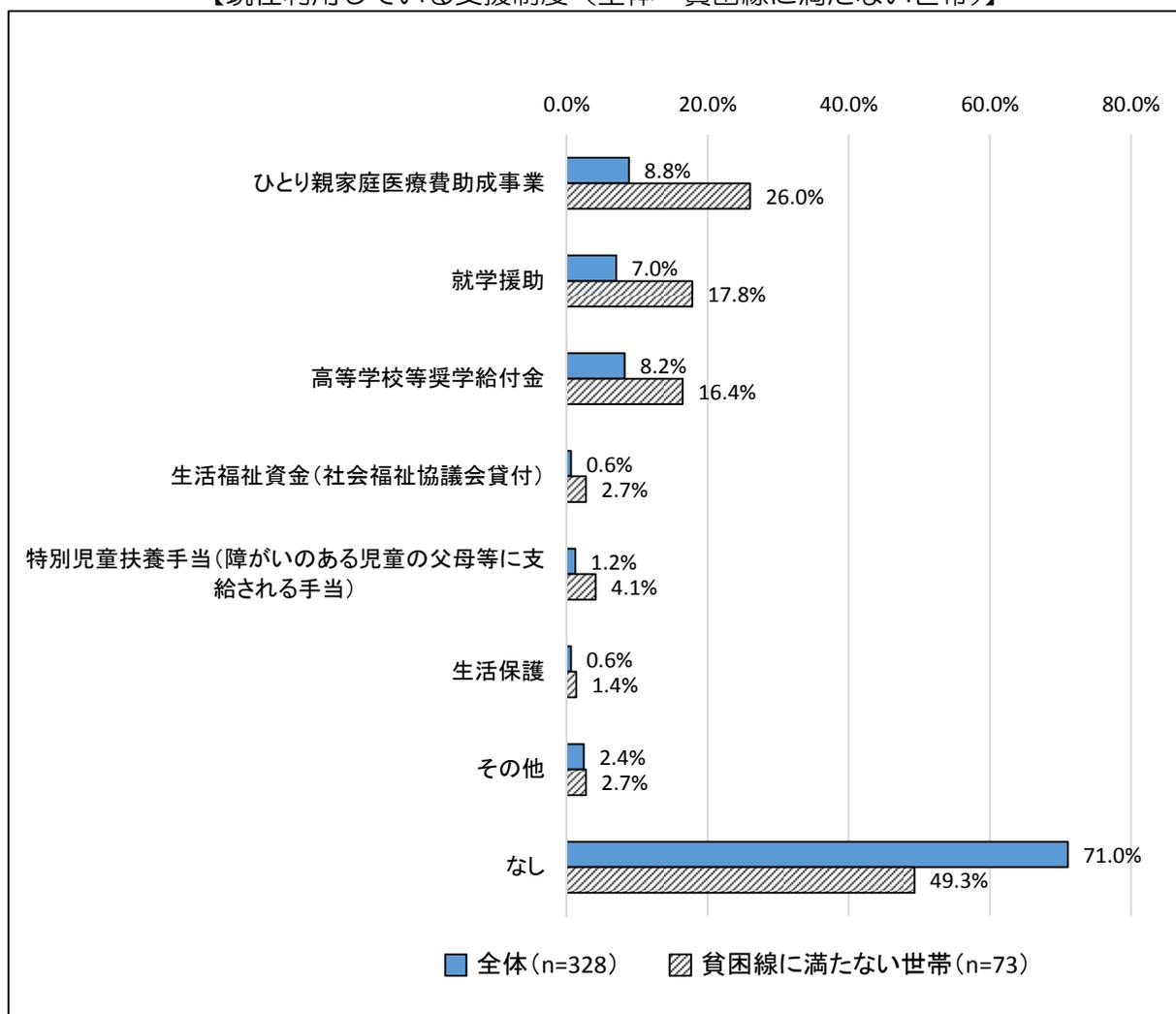


問8 現在利用している支援制度があればお答えください。(複数回答)

現在利用している支援制度については、全体、貧困線に満たない世帯ともに「なし」が最も高くなっていますが、貧困線に満たない世帯では「なし」の割合が5割を下回っており、半数以上の方が何らかの支援制度を利用していることがうかがえます。

また、貧困線に満たない世帯の利用している支援制度については、「ひとり親家庭医療費助成事業」が26.0%と最も高く、次いで、「就学援助」が17.8%、「高等学校等奨学給付金」が16.4%の順等となっています。

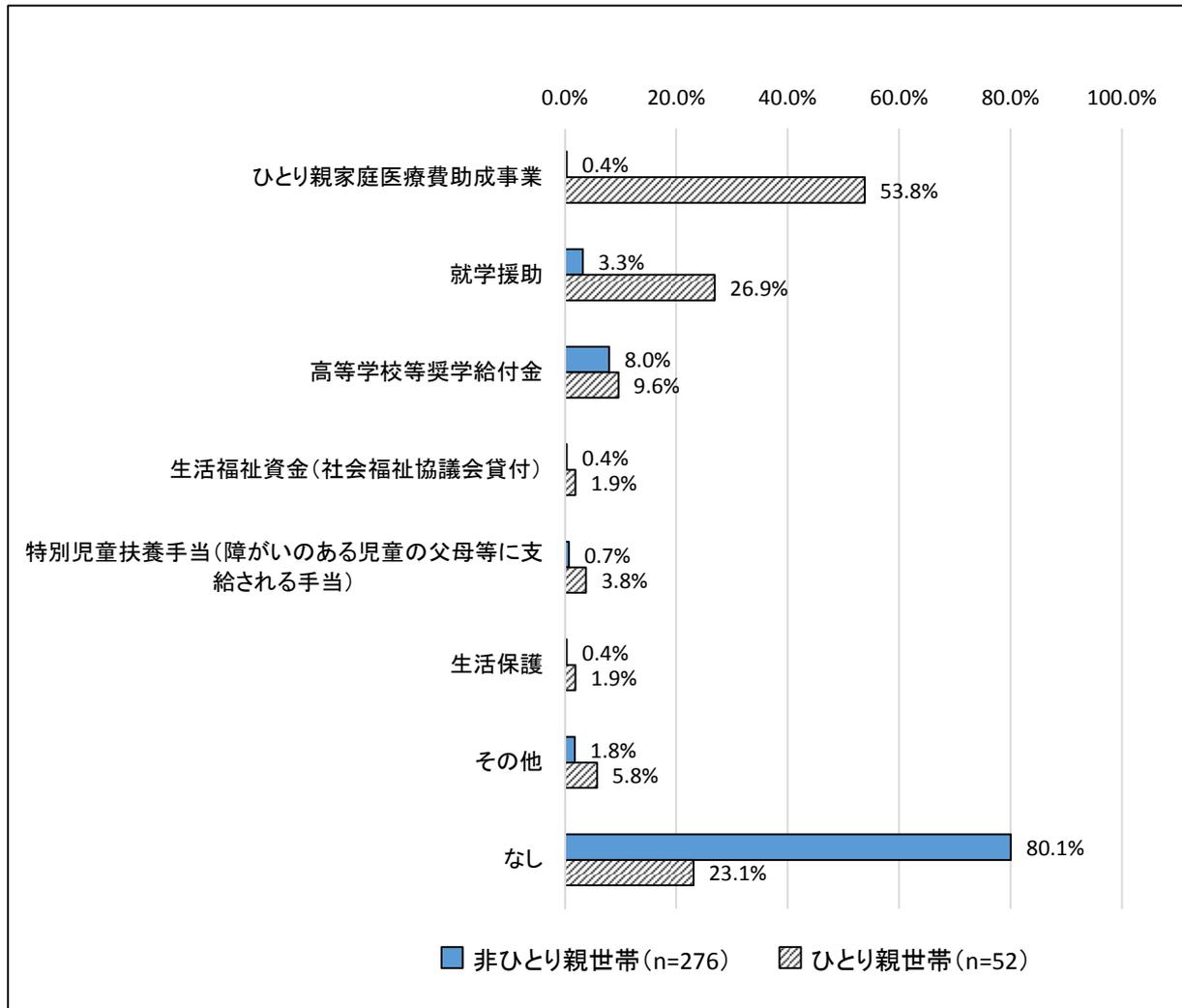
【現在利用している支援制度（全体・貧困線に満たない世帯）】



非ひとり親世帯では「なし」が8割を超えている一方、ひとり親世帯では約2割にとどまっております。約8割の方が何らかの支援制度を利用していることがうかがえます。

また、ひとり親世帯の利用している支援制度については、「ひとり親家庭医療費助成事業」が53.8%と最も高く、次いで、「就学援助」が26.9%、「高等学校等奨学給付金」が9.6%の順等となっています。

【現在利用している支援制度（非ひとり親世帯・ひとり親世帯）】

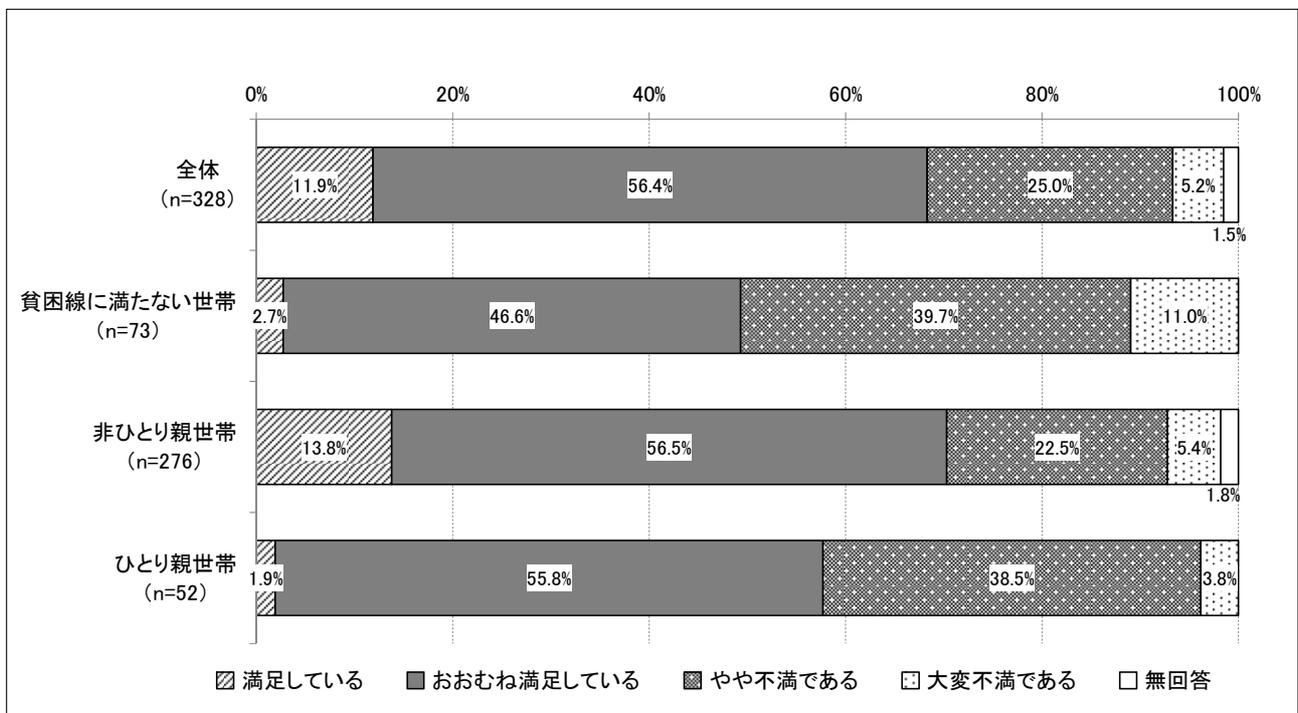


問9 現在の暮らしについて、全般的にみるとどの程度満足されていますか。(〇は1つ)

現在の暮らしに対する全般的な満足度については、「おおむね満足している」が56.4%と最も高く、次いで、「やや不満である」が25.0%、「満足している」が11.9%、「大変不満である」が5.2%の順となっています。

世帯区別でみると、全ての世帯区分で「おおむね満足している」が最も高くなっていますが、「満足している」と「おおむね満足している」をあわせた“満足している”と「やや不満である」と「大変不満である」をあわせた“不満である”でみると、貧困線に満たない世帯では“満足している”（49.3%）を“不満である”（50.7%）が上回っています（全体、非ひとり親世帯、ひとり親世帯では“満足している”が“不満である”を上回っている）。

【現在の暮らしに対する全般的な満足度】



3 子どもの教育にかかわる状況について

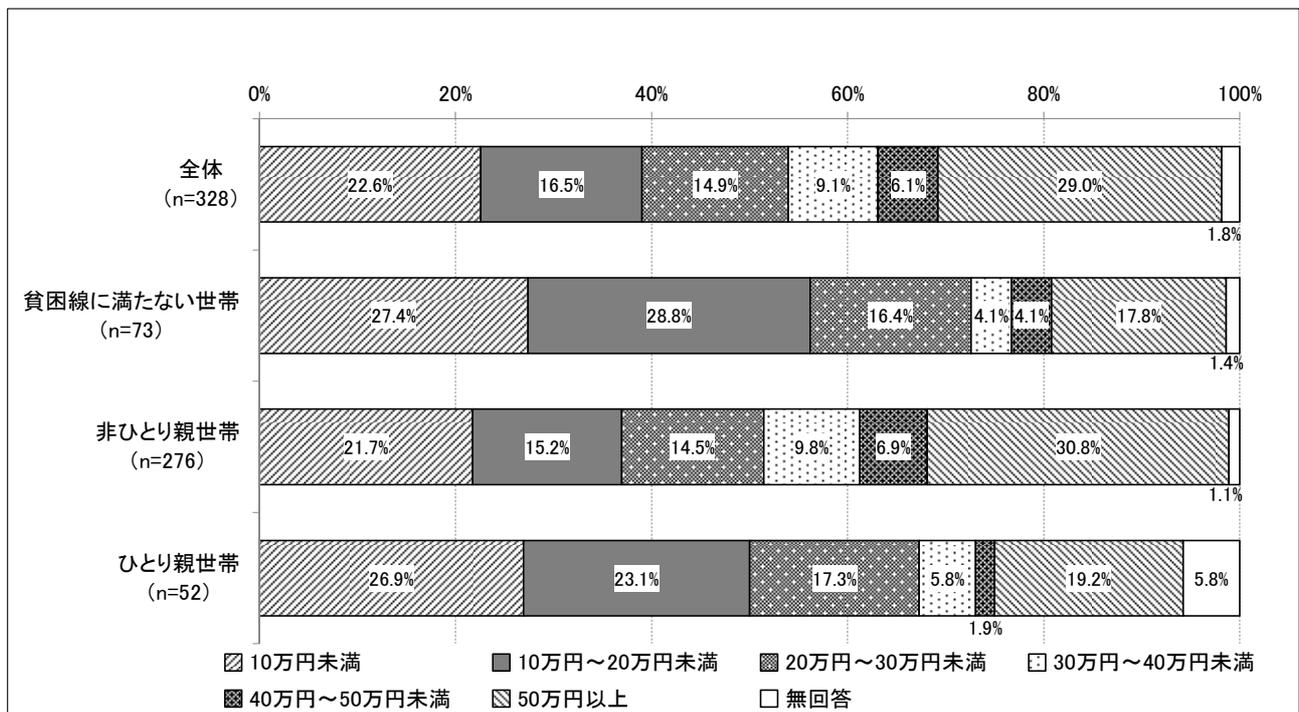
問10 お子さん全員の教育にかかる費用は年間でおよそいくらぐらいですか。(〇は1つ)

お子さん全員の教育にかかる費用については、「50万円以上」が29.0%と最も高く、次いで、「10万円未満」が22.6%、「10万円～20万円未満」が16.5%、「20万円～30万円未満」が14.9%、「30万円～40万円未満」が9.1%、「40万円～50万円未満」が6.1%の順となっています。

世帯区分別でみると、貧困線に満たない世帯では「10万円～20万円未満」が28.8%と最も高く、全体で最も高い「50万円以上」と比較すると教育にかかる費用は半分以下となっています。

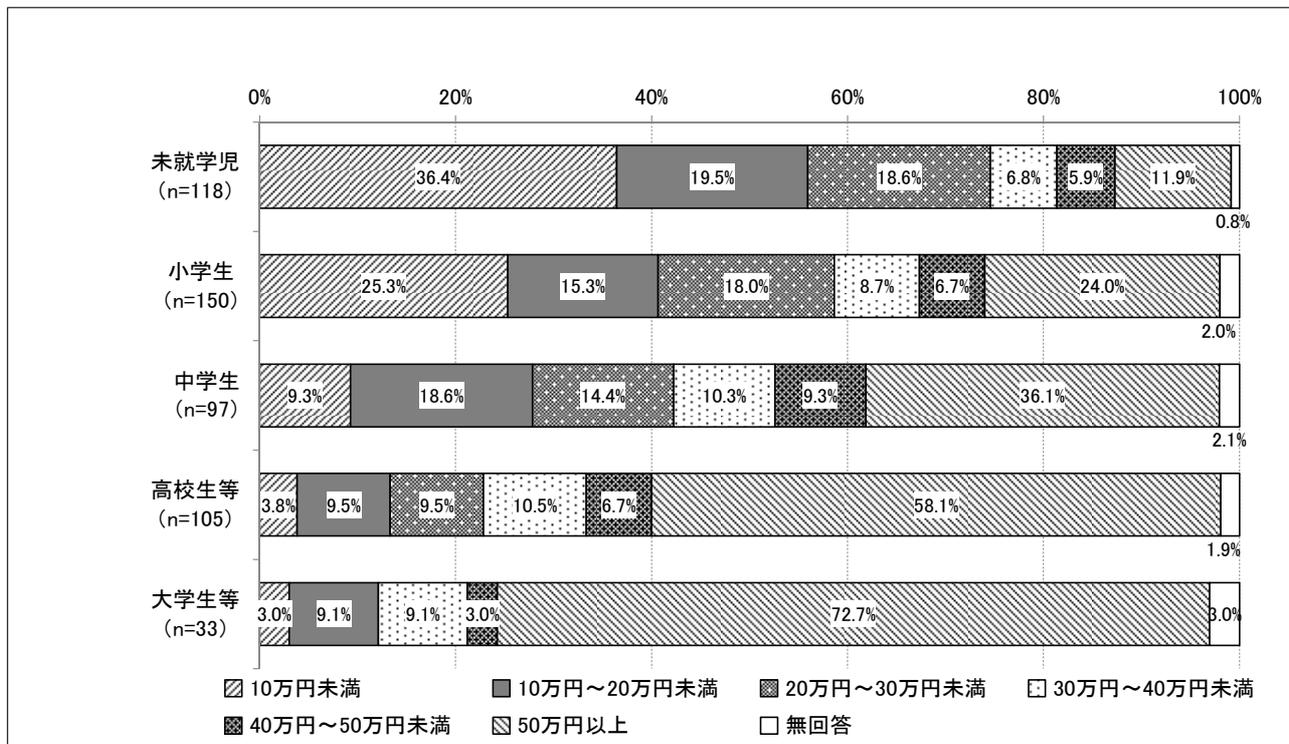
また、非ひとり親世帯では「50万円以上」が30.8%と最も高くなっていますが、ひとり親世帯では「10万円未満」が26.9%と最も高くなっており、非ひとり親世帯とひとり親世帯では教育にかかる費用に大きな差があることがわかります。

【お子さん全員の教育にかかる費用】



子どもの年代別で見ると、子どもの年代が上がるにつれて「50万円以上」の比率が上がり、高校生のいる世帯では5割を超え、大学生のいる世帯では7割を超えます。

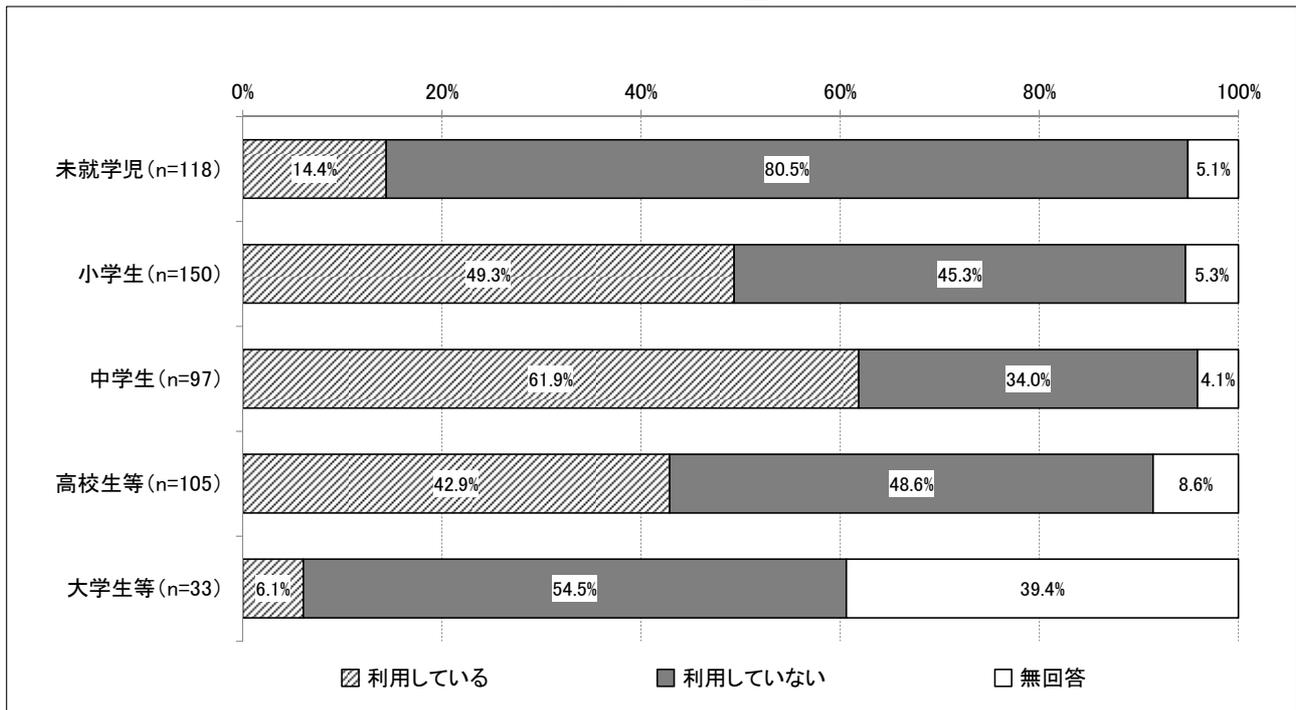
【お子さん全員の教育にかかる費用（子どもの年代別）】



問 11 お子さんの中で塾や通信教育、家庭教師、資格取得のための予備校など
 を利用している人はいますか。(お子さんの年代ごとに〇は1つ)

塾等の利用状況について「利用している」でみると、中学生が61.9%と最も高く、次いで、小学生が49.3%、高校生等が42.9%、未就学児が14.4%、大学生等が6.1%の順となっています。

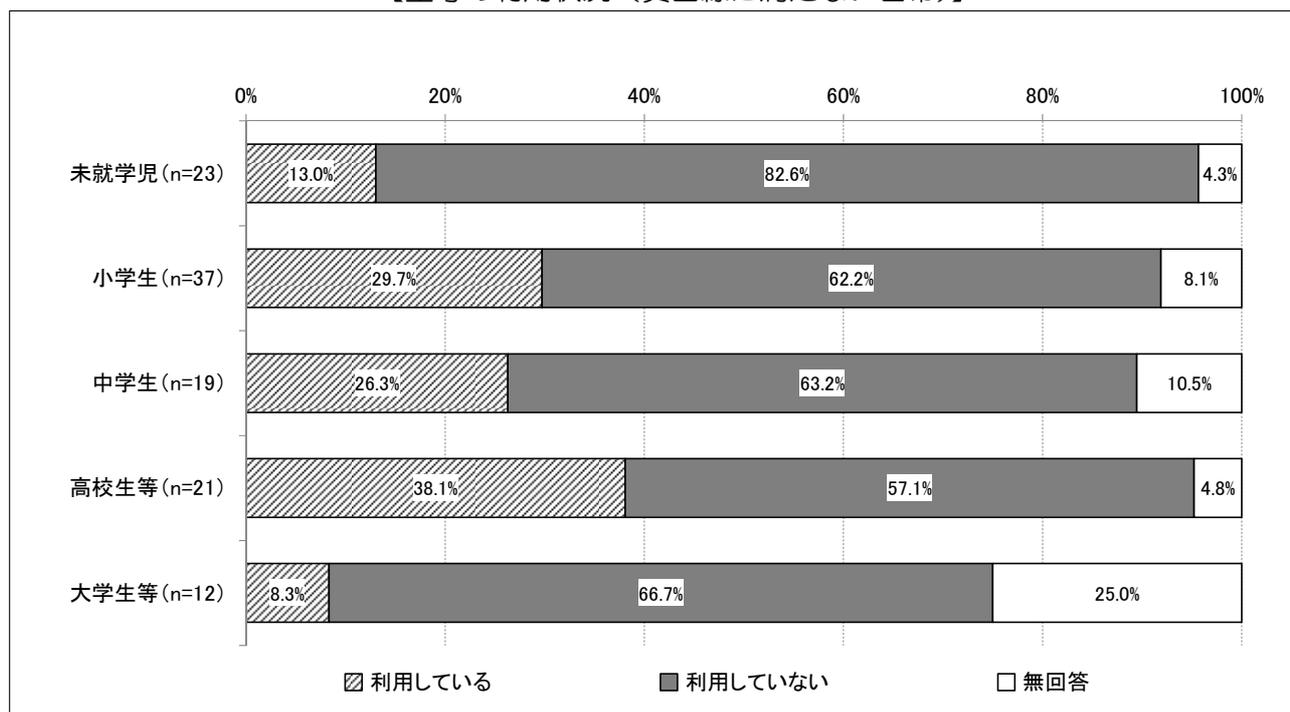
【塾等の利用状況（全体）】



「利用している」について世帯区分別でみると、貧困線に満たない世帯では高校生等が38.1%と最も高く、次いで、小学生が29.7%、中学生が26.3%、未就学児が13.0%、大学生等が8.3%の順となっています。

また、貧困線に満たない世帯では全ての項目について「利用していない」が「利用している」を上回っています。

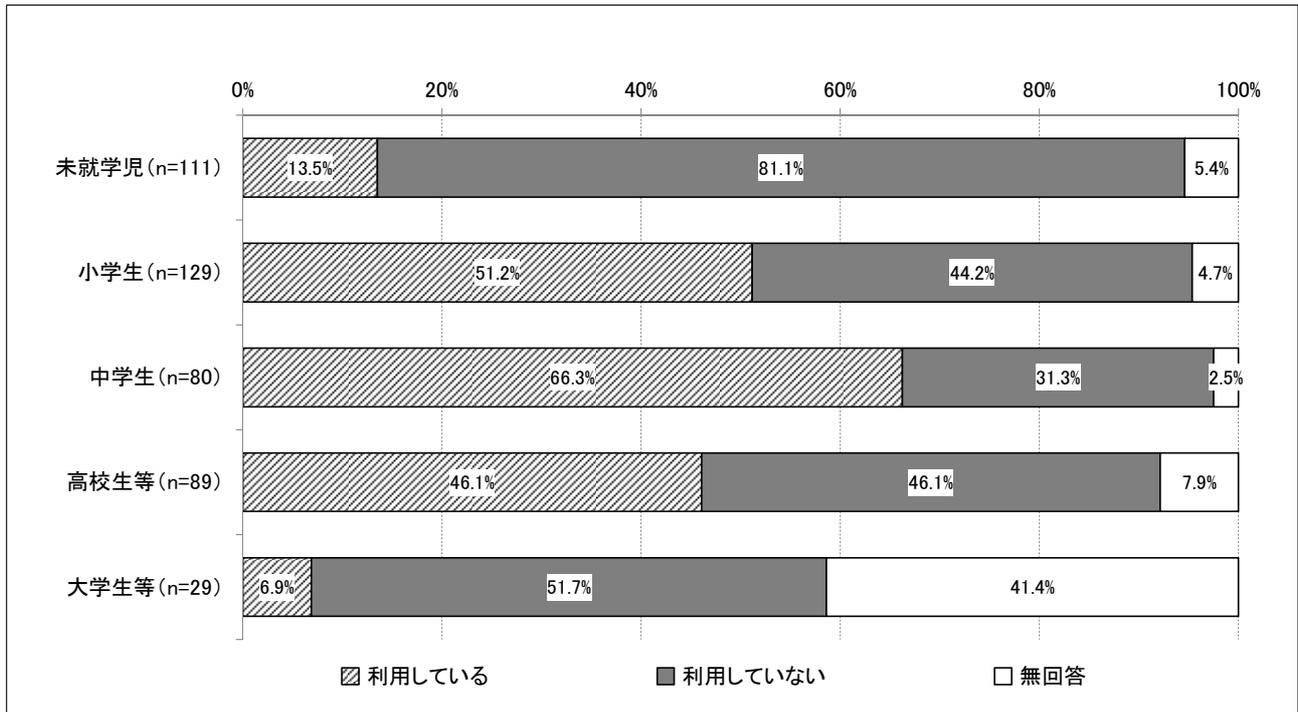
【塾等の利用状況（貧困線に満たない世帯）】



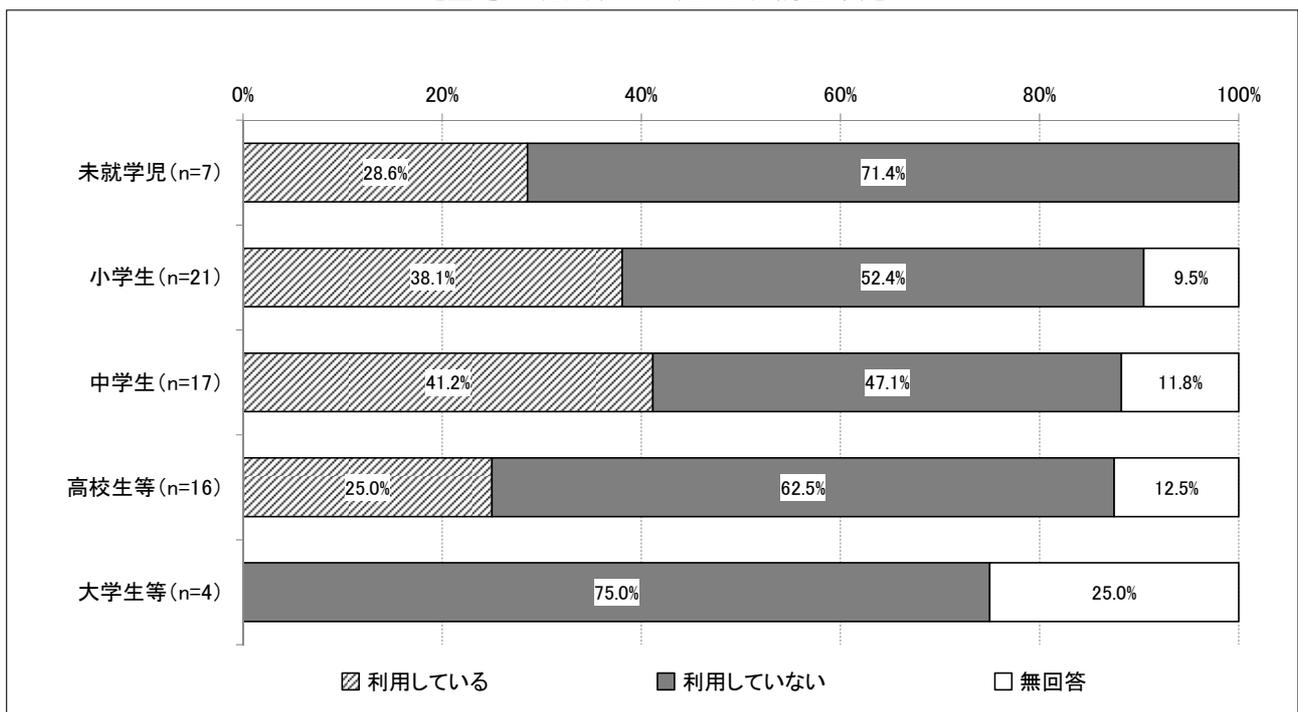
非ひとり親世帯では中学生が 66.3%と最も高く、次いで、小学生が 51.2%、高校生等が 46.1%、未就学児が 13.5%、大学生等が 6.9%の順となっています。

ひとり親世帯では中学生が 41.2%と最も高く、次いで、小学生が 38.1%、未就学児が 28.6%、高校生等が 25.0%の順となっています。大学生等は「利用している」の回答はありませんでした。また、ひとり親世帯では全ての項目について「利用していない」が「利用している」を上回っています。

【塾等の利用状況（非ひとり親世帯）】



【塾等の利用状況（ひとり親世帯）】



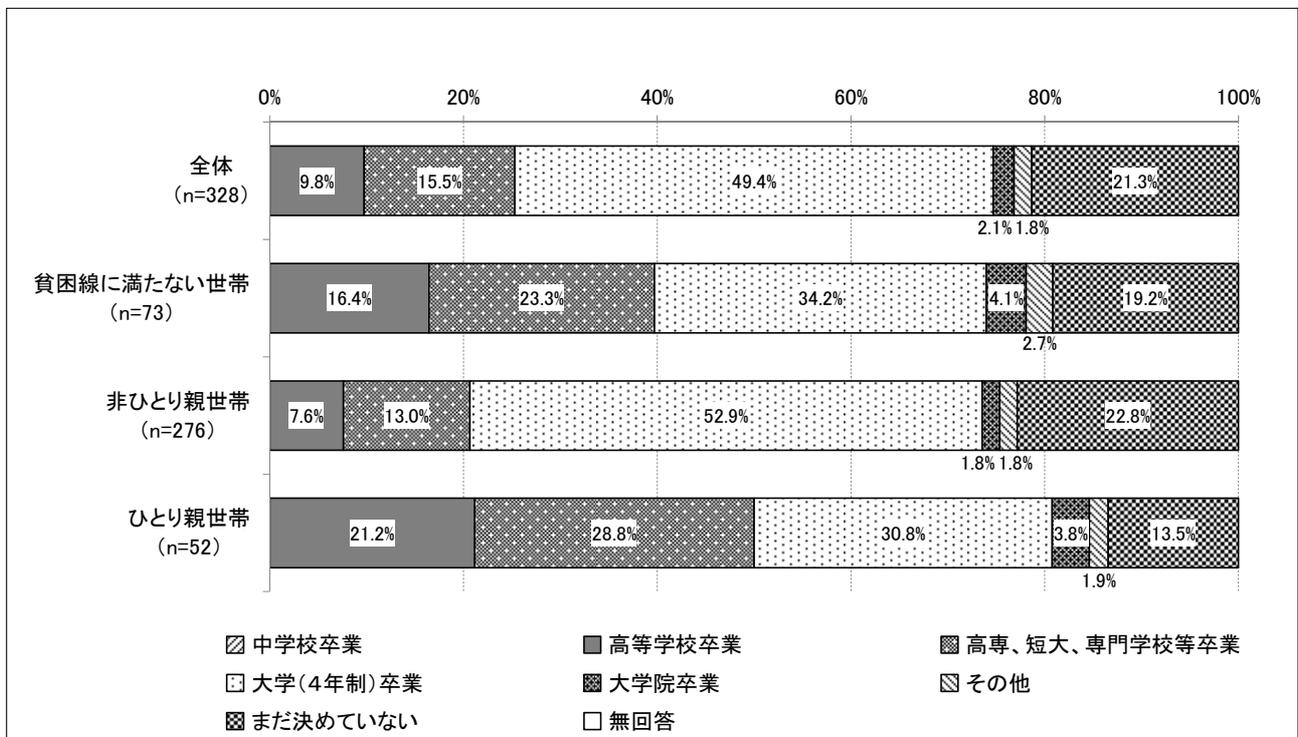
問 12 お子さんに希望する最終学歴はどのようにお考えですか。(〇は1つ)

お子さんに希望する最終学歴については、「大学（4年制）卒業」が49.4%と最も高く、次いで、「まだ決めていない」が21.3%、「高専、短大、専門学校等卒業」が15.5%、「高等学校卒業」が9.8%、「大学院卒業」が2.1%の順等となっています。

世帯区分別でみると、全ての世帯区分で「大学（4年制）卒業」が最も高く、非ひとり親世帯（52.9%）では全体よりも高くなっていますが、貧困線に満たない世帯（34.2%）とひとり親世帯（30.8%）では全体よりも低くなっています。

また、ひとり親世帯では「高等学校卒業」が全体の9.8%に対して21.2%と高くなっており、約5人に1人が「高等学校卒業」を最終学歴に希望しています。

【お子さんに希望する最終学歴】



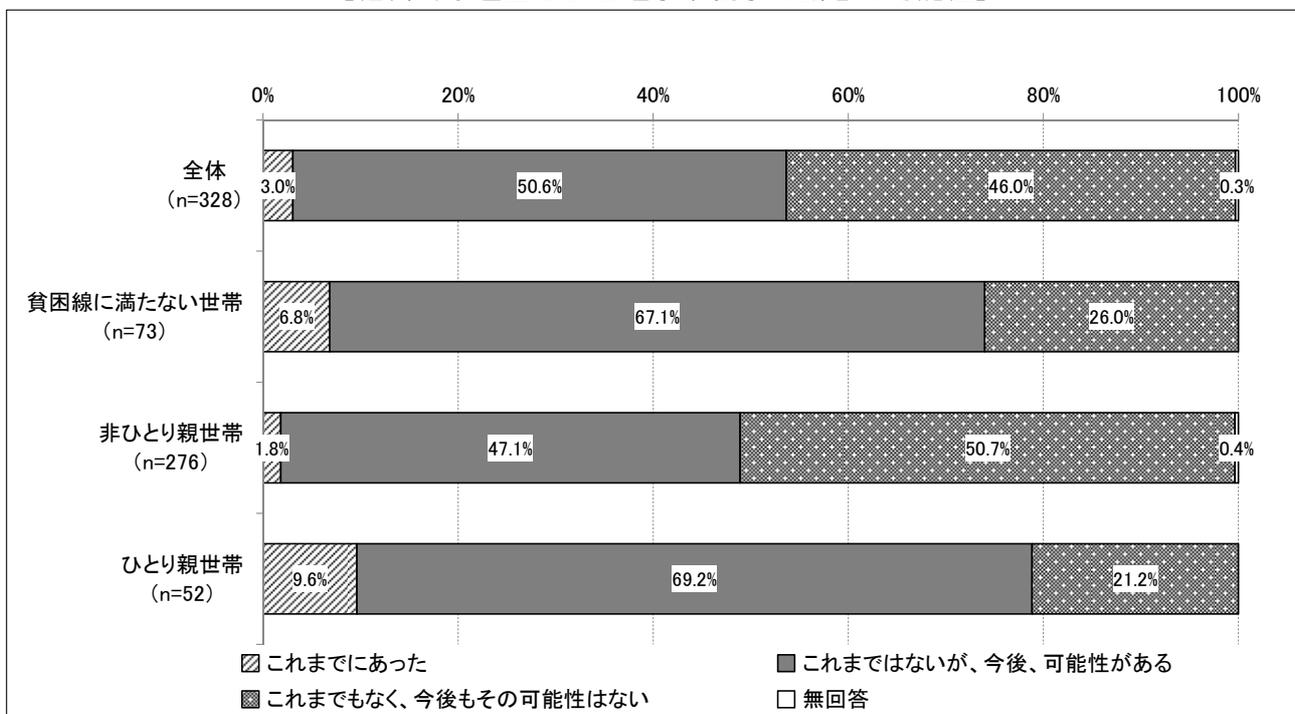
問 13 経済的な理由によって、お子さんの進学や就学を断念（中退）したこと、または今後断念するかもしれない可能性はありますか。（〇は1つ）

経済的な理由による進学や就学の断念の可能性については、「これまではないが、今後、可能性がある」が 50.6%と最も高く、次いで、「これまでもなく、今後もその可能性はない」が 46.0%、「これまでにあった」が 3.0%の順となっています。

世帯区分別でみると、貧困線に満たない世帯では「これまではないが、今後、可能性がある」が 67.1%と最も高く、全体と比較すると 16.5%高くなっています。

非ひとり親世帯では「これまでもなく、今後もその可能性はない」が 50.7%と最も高く、ひとり親世帯の 21.2%と比較して2倍以上の差があります。ひとり親世帯では「これまではないが、今後、可能性がある」が 69.2%と最も高く、貧困線に満たない世帯（67.1%）よりも高い割合となっています。

【経済的な理由による進学や就学の断念の可能性】

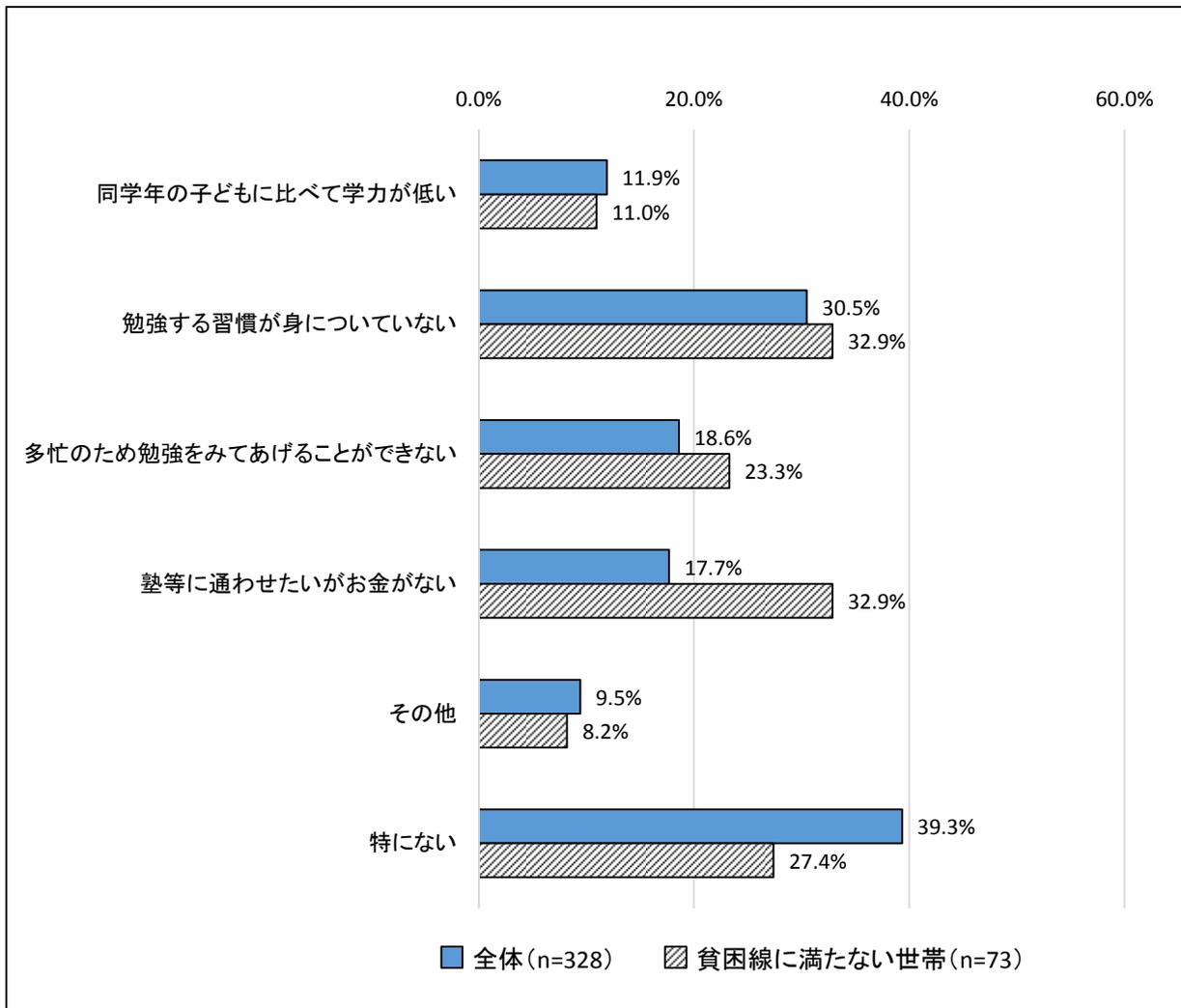


問 14 お子さんの教育に関して心配なことは何ですか。(複数回答)

お子さんの教育に関して心配なことについては、「特にない」が 39.3%と最も高く、次いで、「勉強する習慣が身につけていない」が 30.5%、「多忙のため勉強をみてあげることができない」が 18.6%、「塾等に通わせたいがお金がない」が 17.7%、「同学年の子どもに比べて学力が低い」が 11.9%の順等となっています。

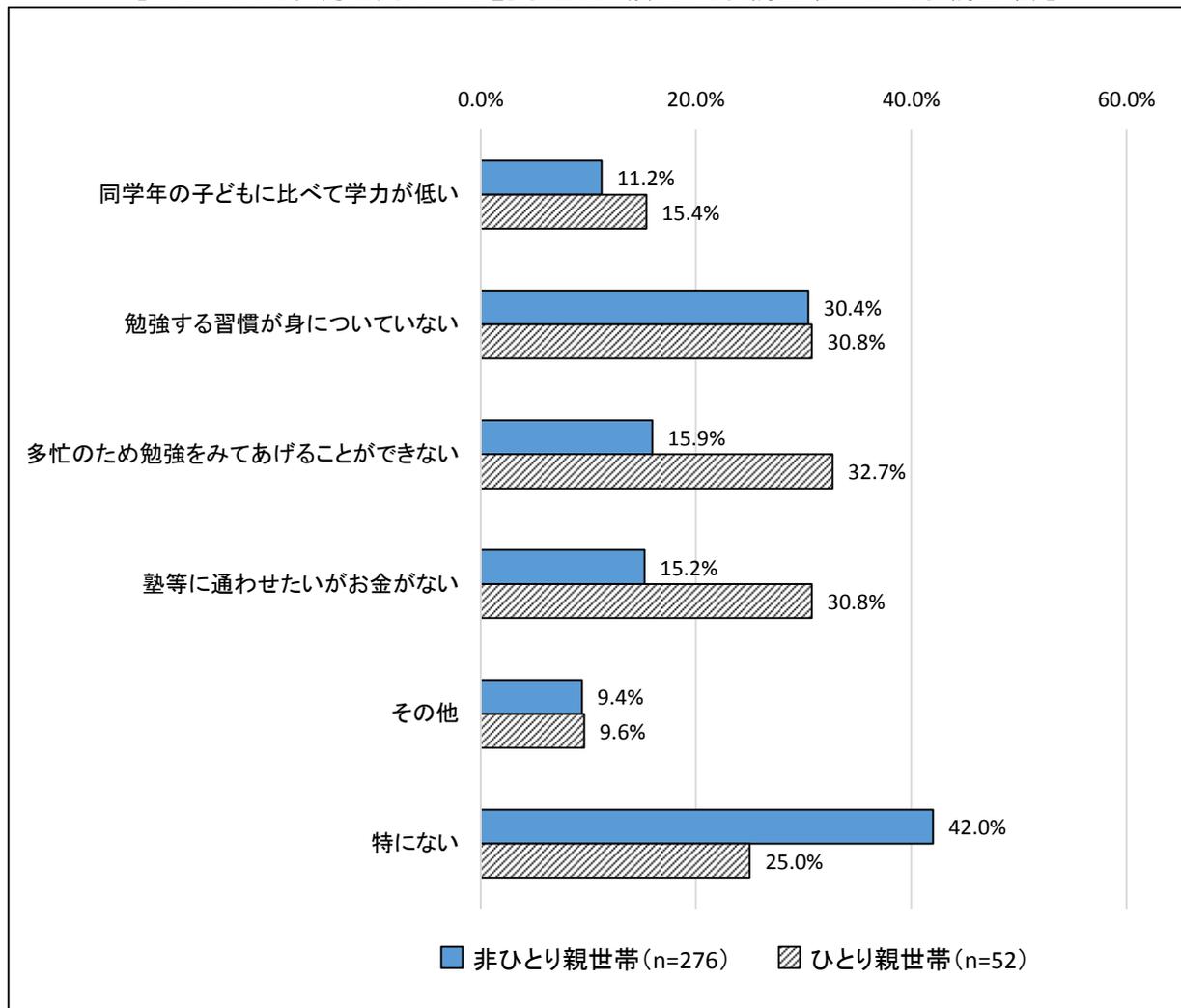
世帯区分別でみると、貧困線に満たない世帯では「勉強する習慣が身につけていない」と「塾等に通わせたいがお金がない」が 32.9%と最も高くなっています。

【お子さんの教育に関して心配なこと（全体・貧困線に満たない世帯）】



非ひとり親世帯では「特にない」が42.0%と最も高く、全体よりも高い割合となっています。ひとり親世帯では「多忙のため勉強をみてあげることができない」が32.7%と最も高くなっているほか、「塾等に通わせたいがお金がない」が30.8%と、非ひとり親世帯（15.2%）と比較して2倍以上の差があり、経済的な面での教育に関する懸念が高いことがわかります。

【お子さんの教育に関して心配なこと（非ひとり親世帯・ひとり親世帯）】

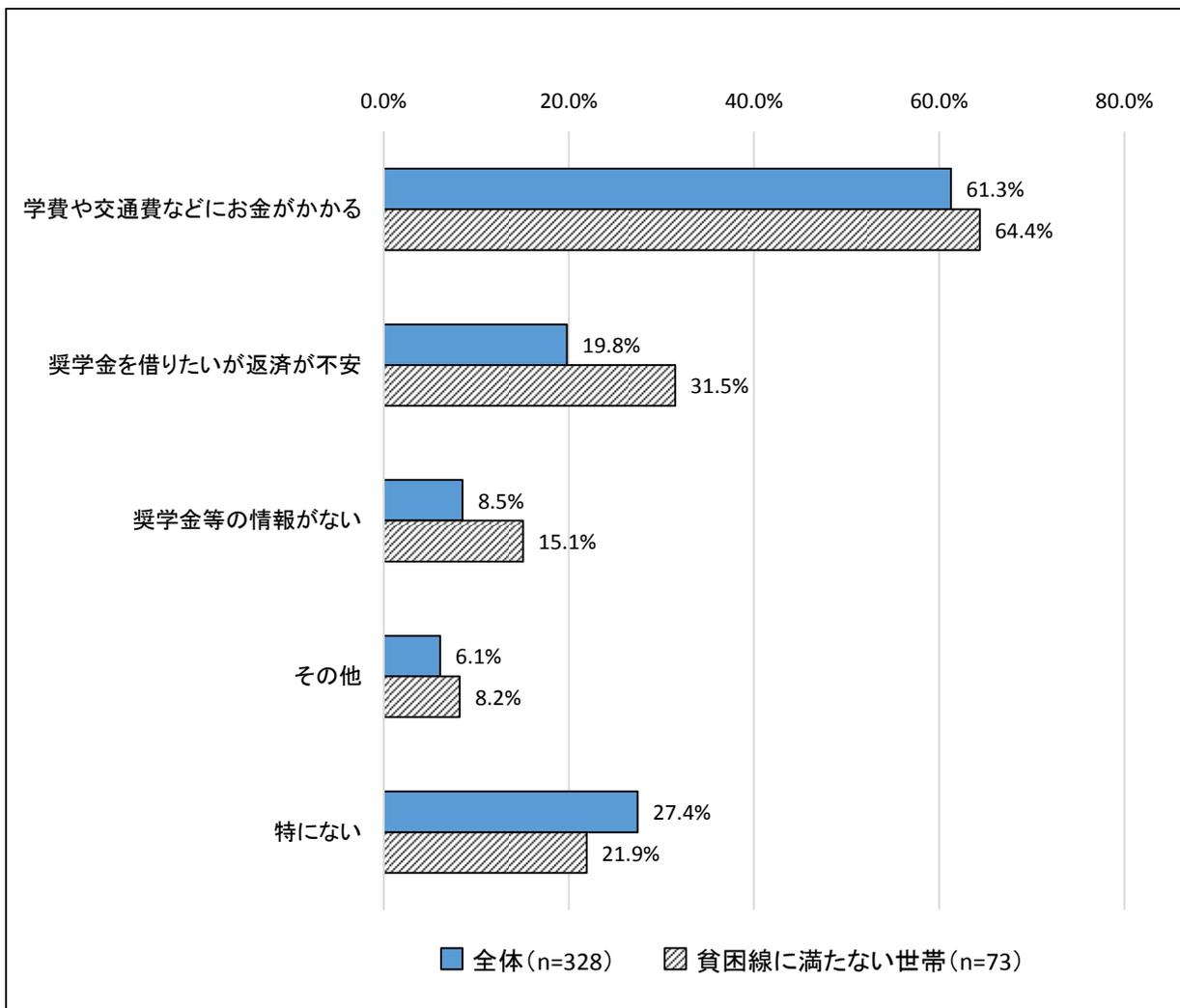


問 15 お子さんの進学に関して心配なことは何ですか。(複数回答)

お子さんの進学に関して心配なことについては、「学費や交通費などにお金がかかる」が61.3%と最も高く、次いで、「特にない」が27.4%、「奨学金を借りたいが返済が不安」が19.8%、「奨学金等の情報がない」が8.5%、「その他」が6.1%の順となっています。

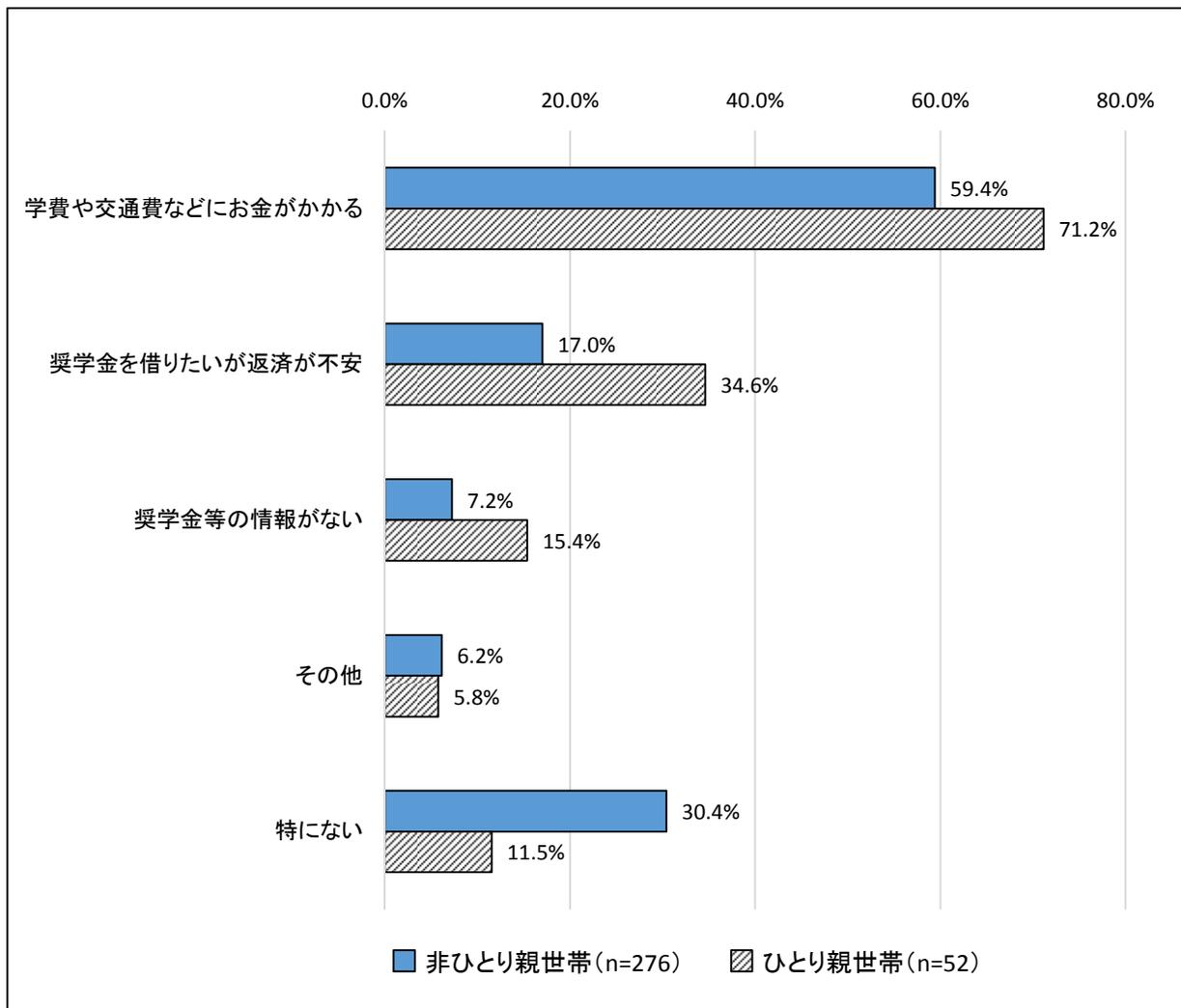
世帯区分別でみると、貧困線に満たない世帯では「学費や交通費などにお金がかかる」が64.4%と最も高くなっているほか、「奨学金を借りたいが返済が不安」が31.5%と全体(19.8%)と比較して高くなっています。

【お子さんの進学に関して心配なこと（全体・貧困線に満たない世帯）】



また、非ひとり親世帯、ひとり親世帯ともに「学費や交通費などにお金がかかる」が最も高くなっていますが、ひとり親世帯（71.2%）のほうが非ひとり親世帯（59.4%）より高くなっています。また、ひとり親世帯では「奨学金を借りたいが返済が不安」が34.6%と非ひとり親世帯（17.0%）を大きく上回っています。

【お子さんの進学に関して心配なこと（非ひとり親世帯・ひとり親世帯）】



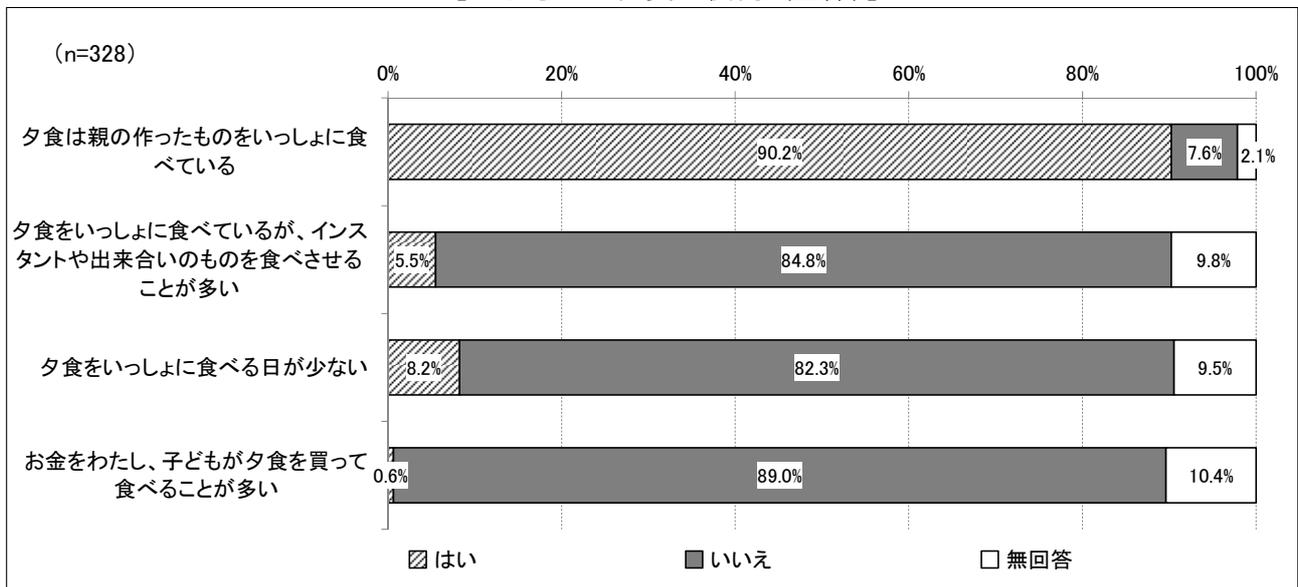
4 子どもの生活にかかわる状況について

問 16 お子さんの夕食についてお答えください。(〇は1つ)

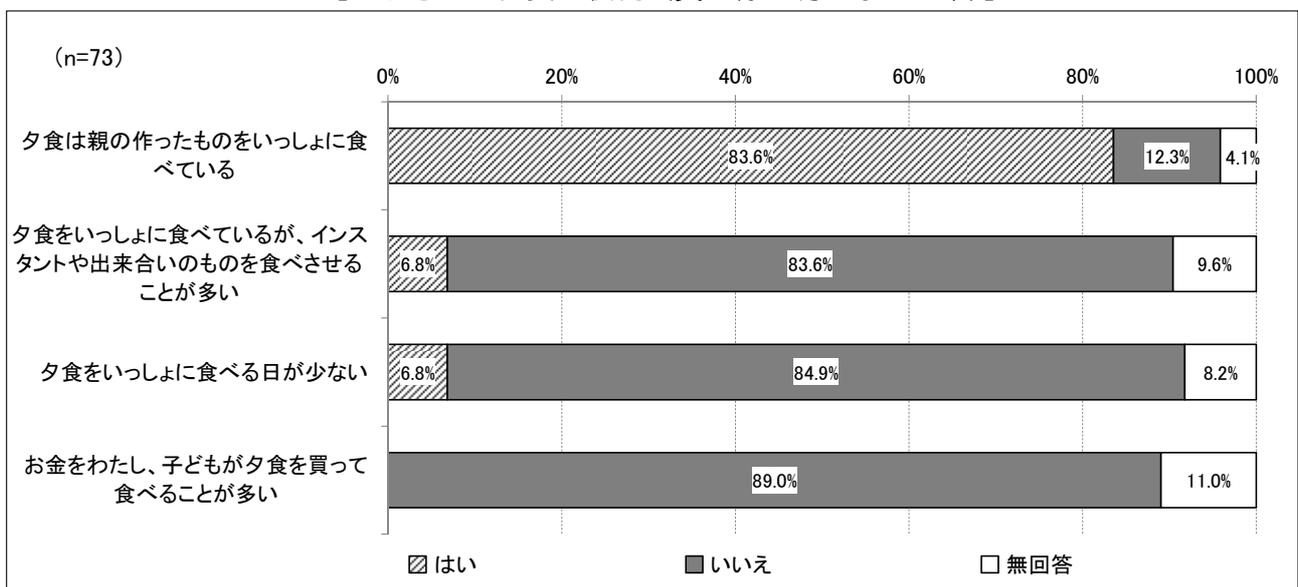
お子さんの夕食の状況については、「夕食は親の作ったものをいっしょに食べている」は「はい」が90.2%と最も高く、そのほかの項目では「いいえ」が8割以上を占めており、大半の世帯においては、親の作った夕食をいっしょに食べている日が多いことがうかがえます。

世帯区分別でみると、貧困線に満たない世帯では全体と同様に「夕食は親の作ったものをいっしょに食べている」は「はい」が83.6%と最も高く、そのほかの項目では「いいえ」が8割以上を占めていますが、全体と比較すると「夕食は親の作ったものをいっしょに食べている」が6.6%低くなっています。

【お子さんの夕食の状況（全体）】



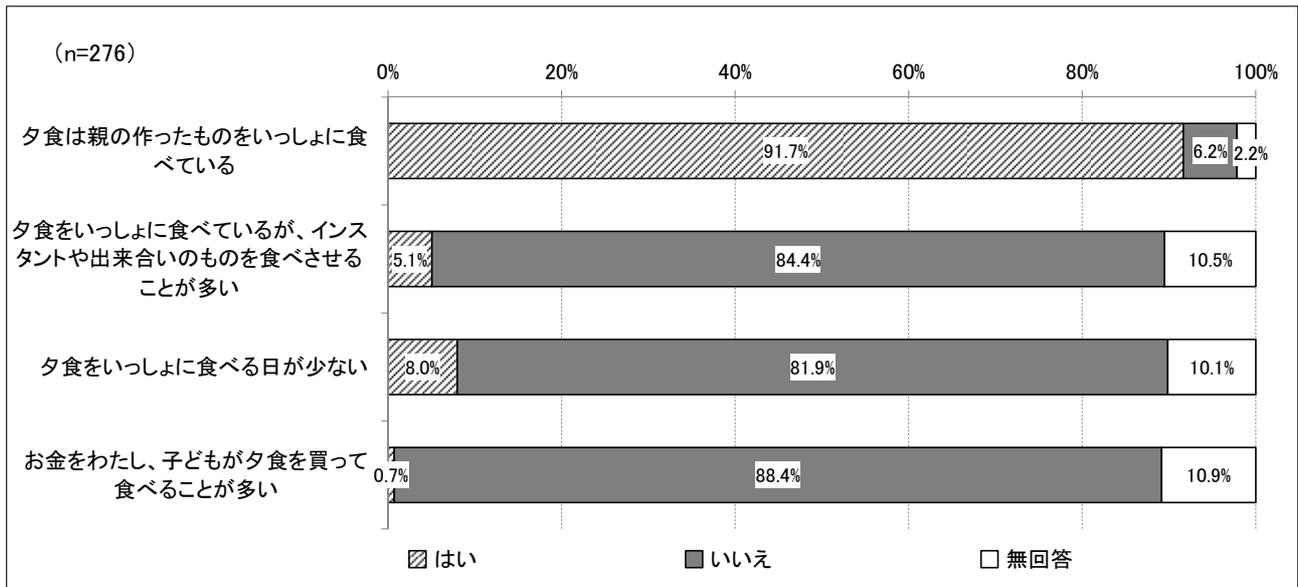
【お子さんの夕食の状況（貧困線に満たない世帯）】



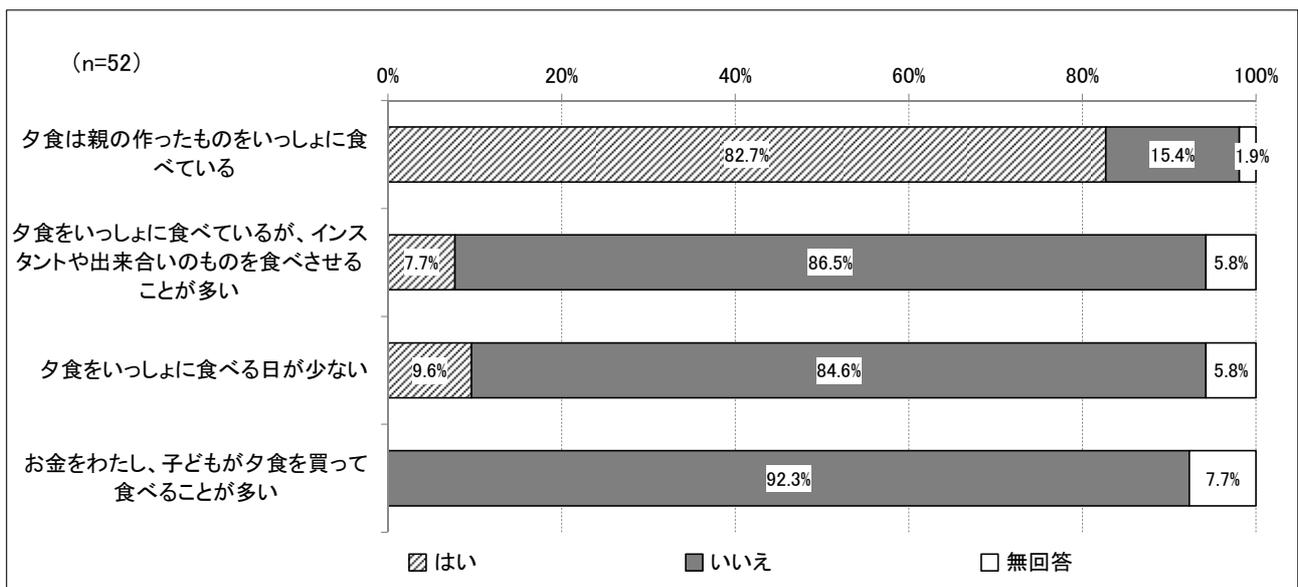
非ひとり親世帯では「夕食は親の作ったものをいっしょに食べている」は「はい」が91.7%と最も高く、全体（90.2%）と比較して1.5%高くなっています。

また、ひとり親世帯では「夕食は親の作ったものをいっしょに食べている」は「はい」が82.7%と最も高くなっていますが、貧困線に満たない世帯（83.6%）よりも0.9%低くなっています。

【お子さんの夕食の状況（非ひとり親世帯）】



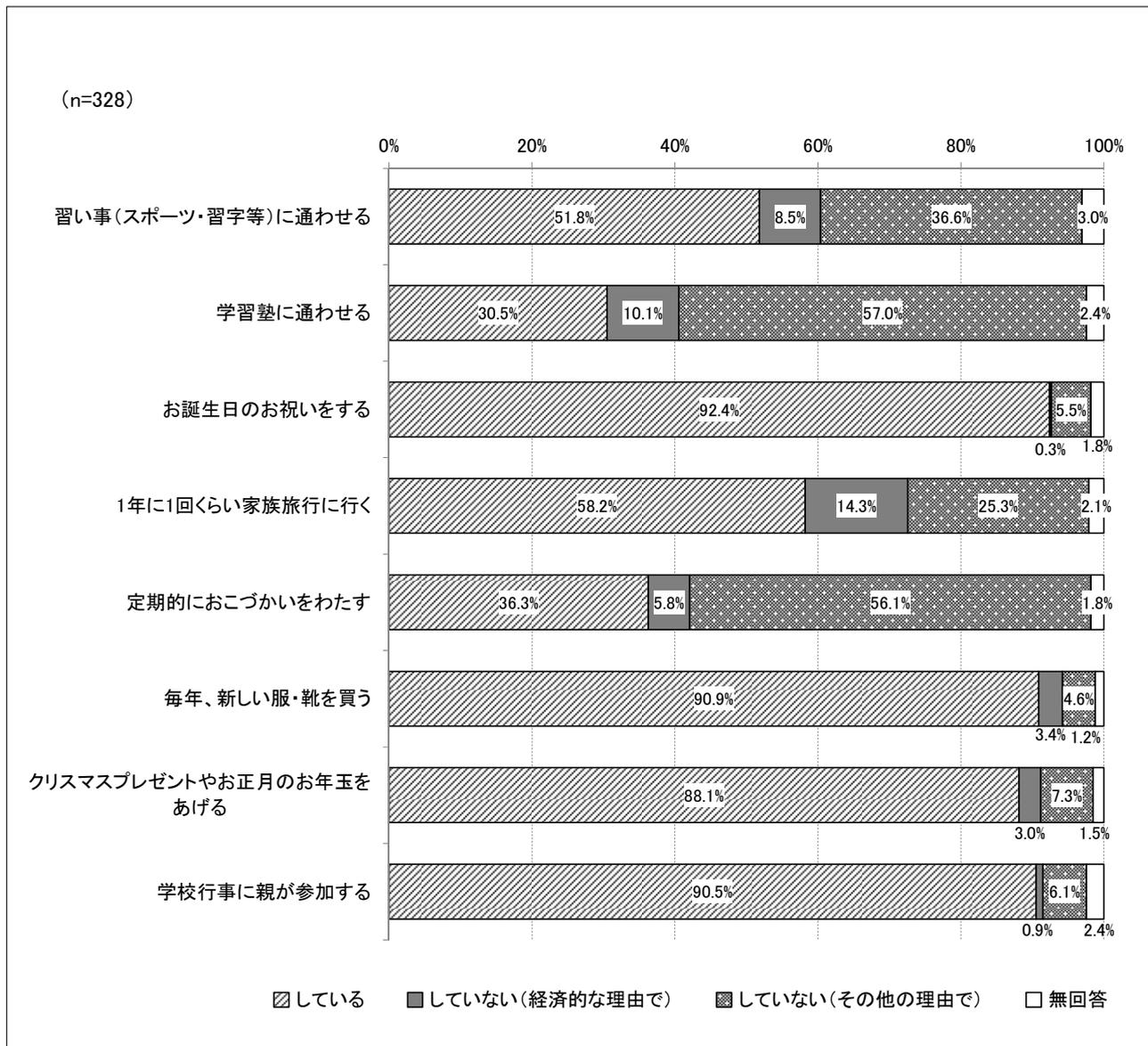
【お子さんの夕食の状況（ひとり親世帯）】



問 17 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(〇は1つ)

家庭でお子さんにしていることについて、「していない(経済的な理由で)」と「していない(その他の理由で)」をあわせた“していない”をみると、「学習塾に通わせる」が67.1%と最も高く、次いで、「定期的におこづかいをわたす」が61.9%、「習い事(スポーツ・習字等)に通わせる」が45.1%、「1年に1回くらい家族旅行に行く」が39.6%の順等となっています。

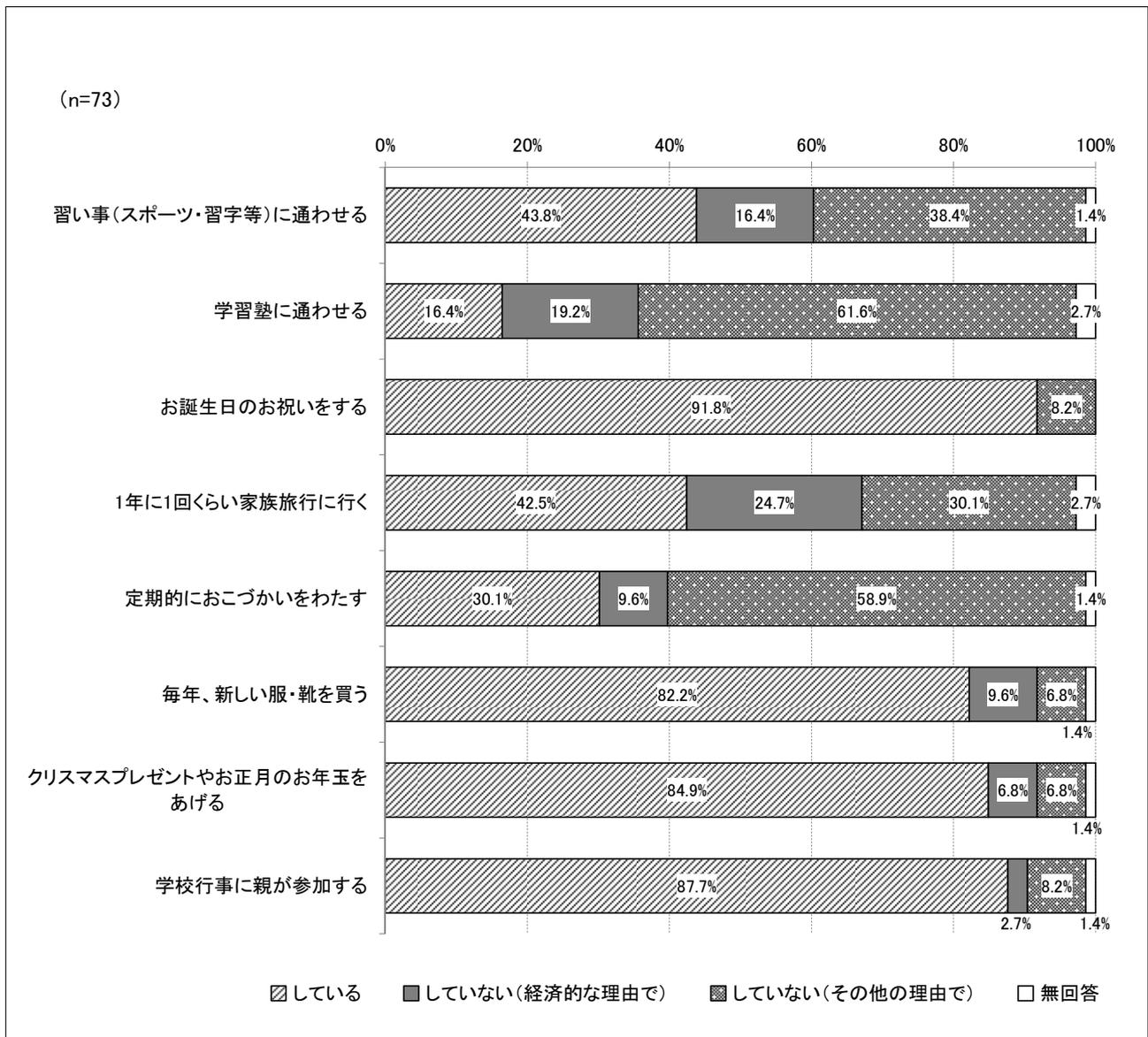
【家庭でお子さんにしていること(全体)】



世帯区分別で「していない（経済的な理由で）」と「していない（その他の理由で）」をあわせた“していない”をみると、貧困線に満たない世帯では「学習塾に通わせる」が80.8%と最も高く、次いで、「定期的におこづかいをわたす」が68.5%、「習い事（スポーツ・習字等）に通わせる」と「1年に1回くらい家族旅行に行く」が54.8%の順等となっています。

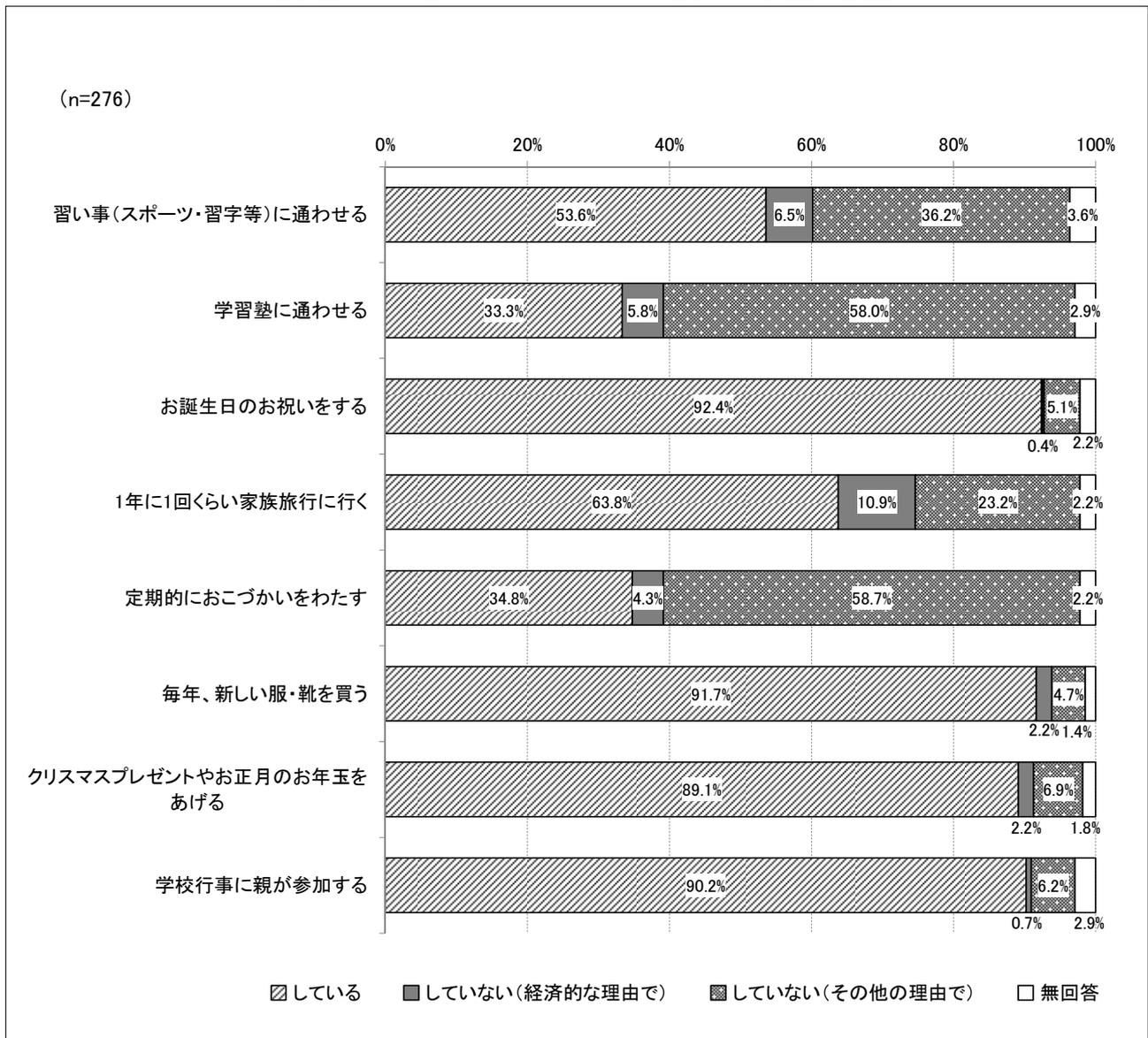
また、全体と比較して「1年に1回くらい家族旅行に行く」は15.2%、「学習塾に通わせる」は13.7%高くなっており、特に差が大きくなっています。

【家庭でお子さんにしていること（貧困線に満たない世帯）】



非ひとり親世帯では「学習塾に通わせる」が63.8%と最も高く、次いで、「定期的におこづかいをわたす」が63.0%、「習い事（スポーツ・習字等）に通わせる」が42.7%、「1年に1回くらい家族旅行に行く」が34.1%の順等となっています。

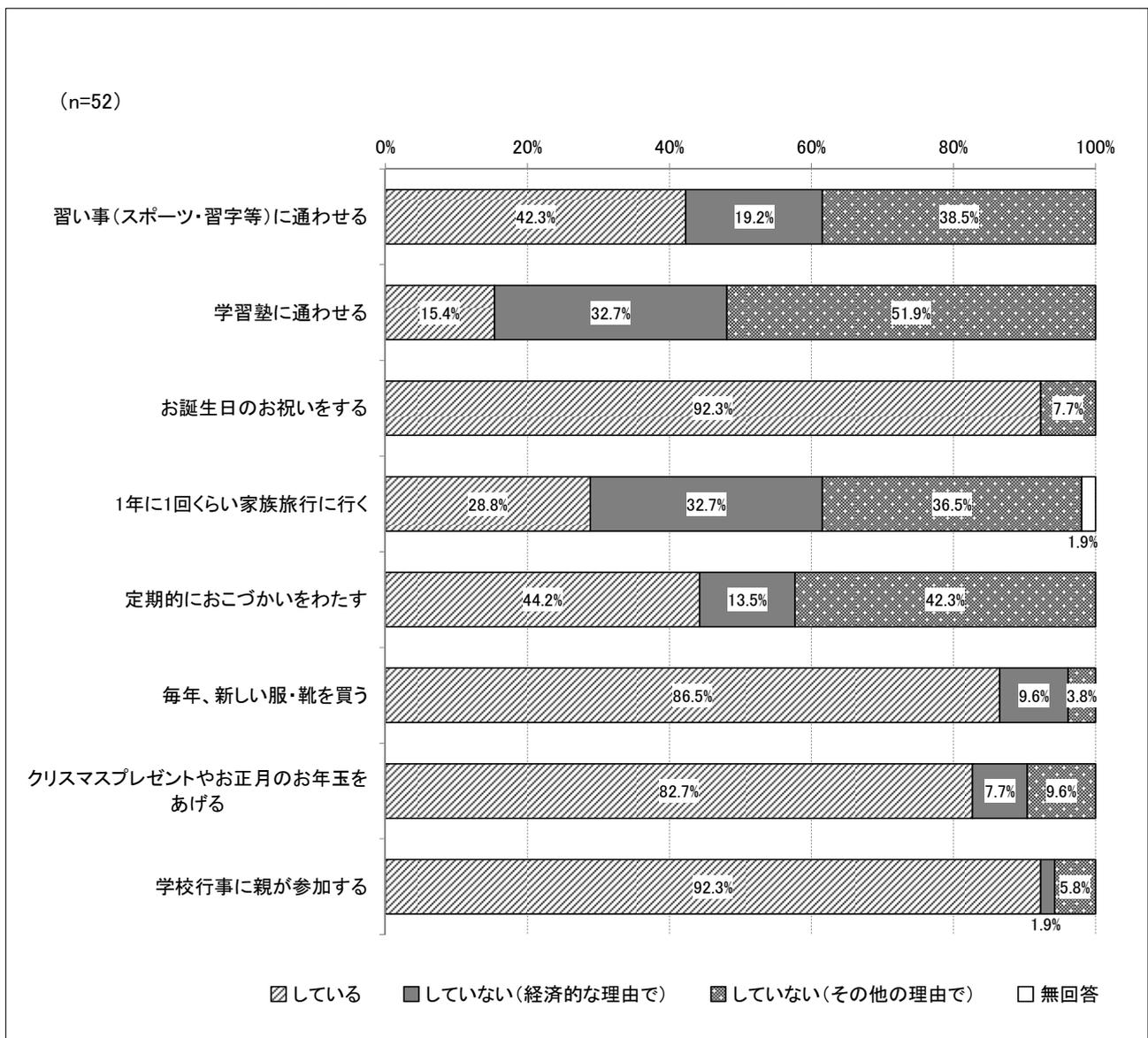
【家庭でお子さんにしていること（非ひとり親世帯）】



ひとり親世帯では「学習塾に通わせる」が84.6%と最も高く、次いで、「1年に1回くらい家族旅行に行く」が69.2%、「習い事（スポーツ・習字等）に通わせる」が57.7%、「定期的におこづかいをわたす」が55.8%の順等となっています。

また、非ひとり親世帯と比較して「1年に1回くらい家族旅行に行く」は35.1%、「学習塾に通わせる」は20.8%高くなっており、特に差が大きくなっています。一方、「定期的におこづかいをわたす」は非ひとり親世帯と比較して7.2%低くなっています。

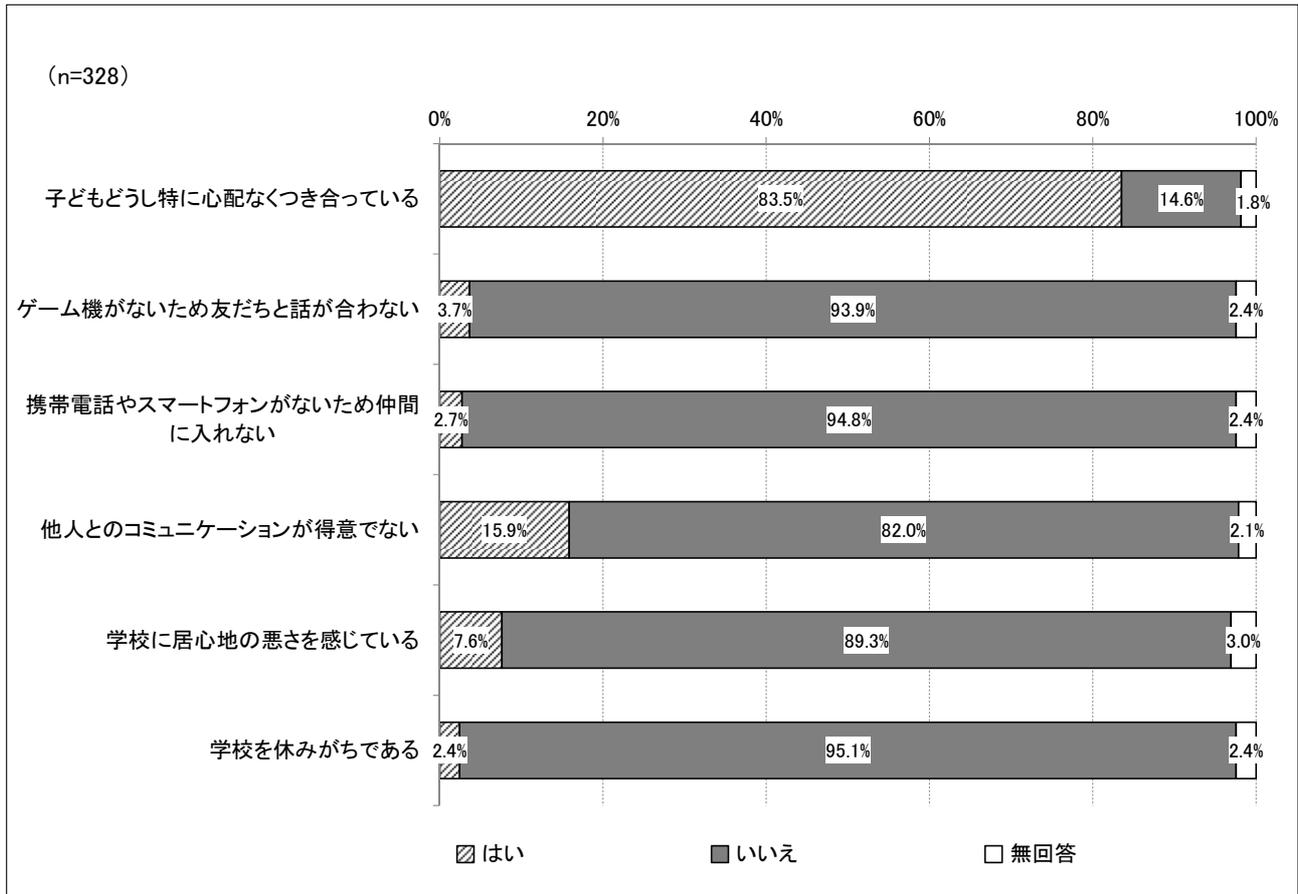
【家庭でお子さんに行っていること（ひとり親世帯）】



問 18 子どもどうしのつき合い方について心配なことがありますか。(〇は1つ)

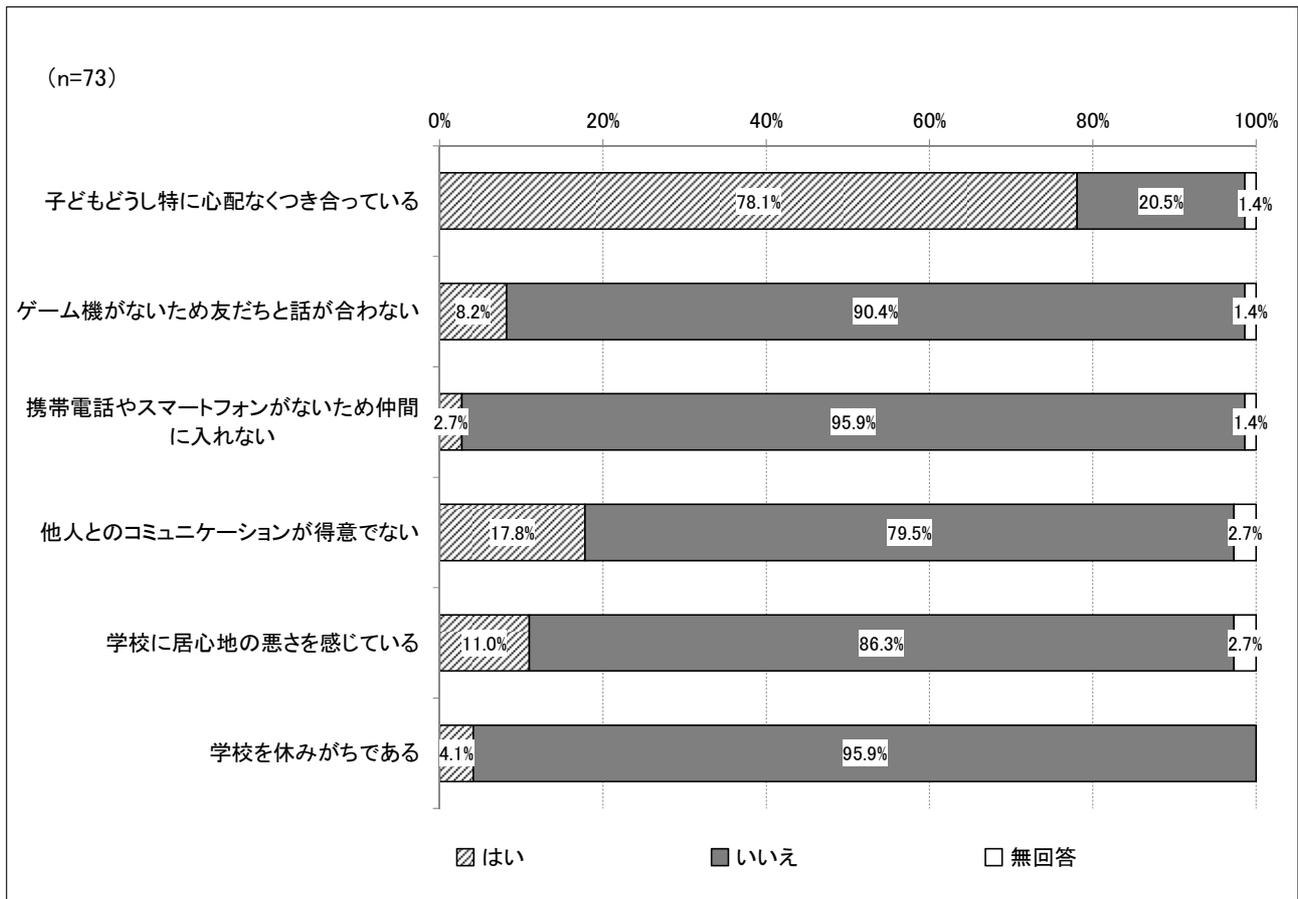
子どもどうしのつき合い方で心配なことについて、「はい」でみると、「子どもどうし特に心配なくつき合っている」が83.5%と最も高く、次いで、「他人とのコミュニケーションが得意でない」が15.9%となっており、そのほかの項目は1割を下回っています。

【子どもどうしのつき合い方で心配なこと（全体）】



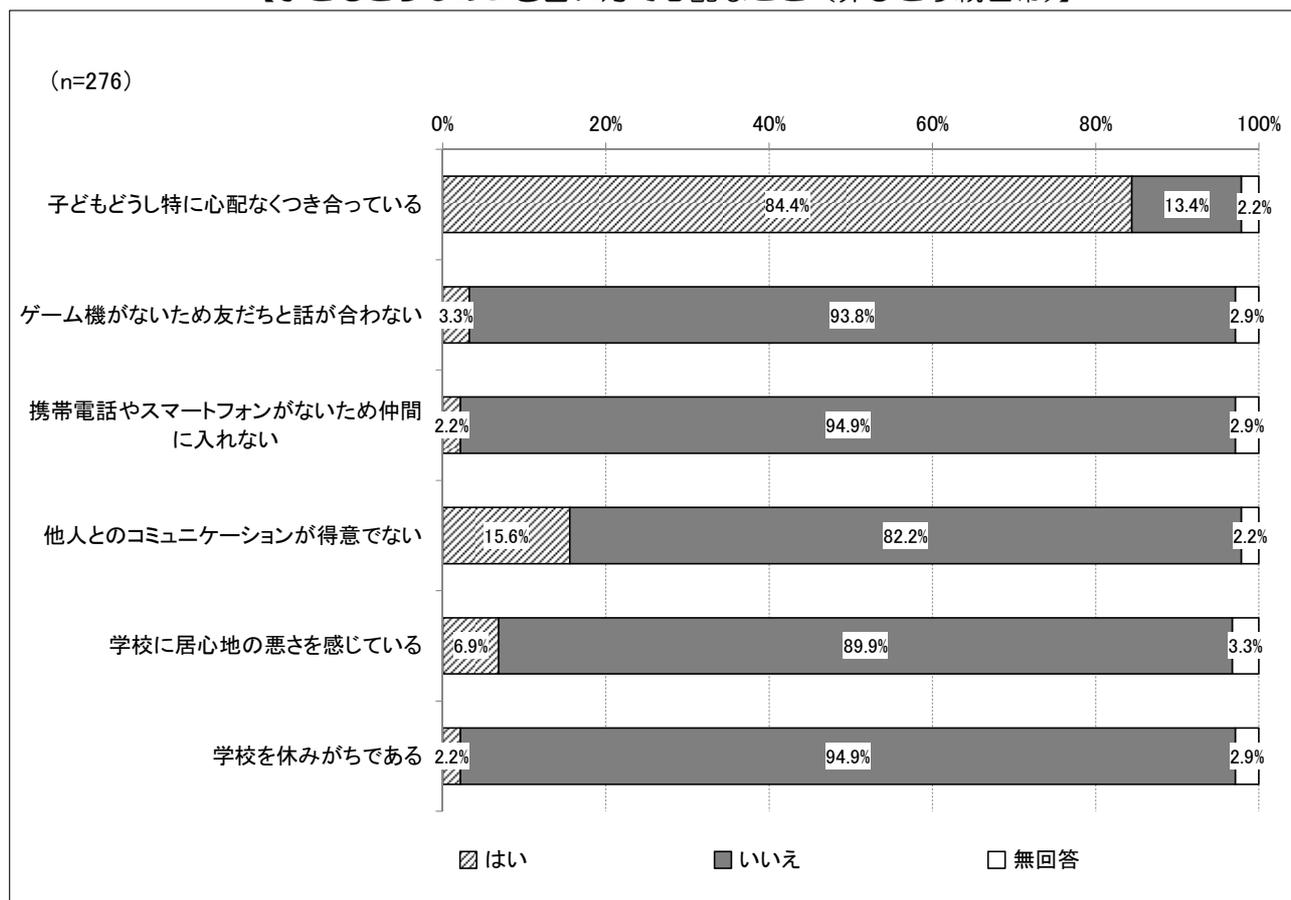
世帯区別でみると、貧困線に満たない世帯で「はい」が最も高いのは、「子どもどうし特に心配なくつき合っている」が78.1%と最も高く、次いで、「他人とのコミュニケーションが得意でない」が17.8%、「学校に居心地の悪さを感じている」が11.0%となっており、そのほかの項目は1割を下回っています。全体と「はい」を比較すると、「ゲーム機がないため友だちと話が合わない」が4.5%高くなっています。

【子どもどうしのつき合い方で心配なこと（貧困線に満たない世帯）】



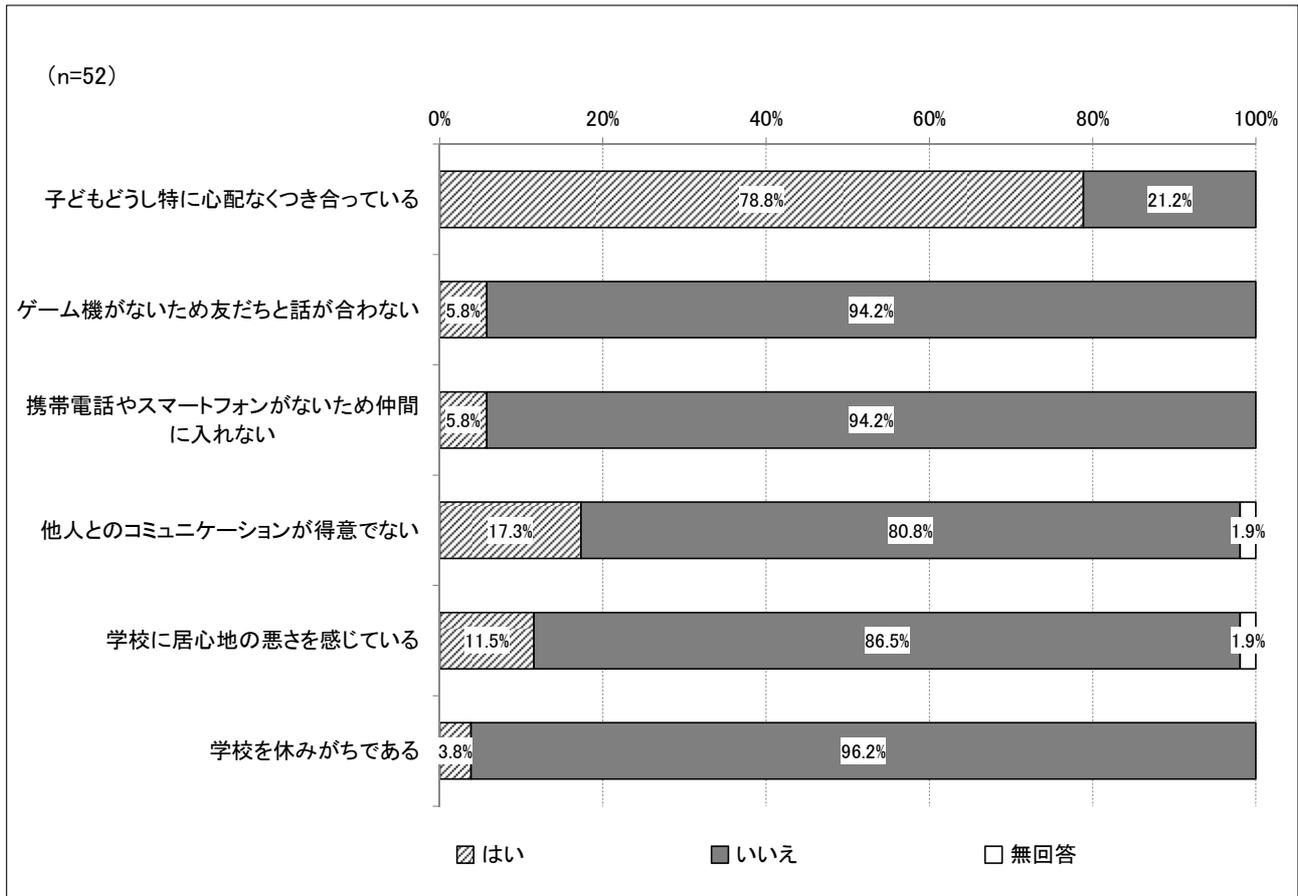
非ひとり親世帯で「はい」が最も高いのは、「子どもどうし特に心配なくつき合っている」が84.4%と最も高く、次いで、「他人とのコミュニケーションが得意でない」が15.6%となっており、そのほかの項目は1割を下回っています。

【子どもどうしのつき合い方で心配なこと（非ひとり親世帯）】



ひとり親世帯で「はい」が最も高いのは、「子どもどうし特に心配なくつき合っている」が78.8%と最も高く、次いで、「他人とのコミュニケーションが得意でない」が17.3%、「学校に居心地の悪さを感じている」が11.5%となっており、そのほかの項目は1割を下回っています。非ひとり親世帯と「はい」を比較すると、「学校に居心地の悪さを感じている」が4.6%高くなっています。

【子どもどうしのつき合い方で心配なこと（ひとり親世帯）】



5 子育てについて

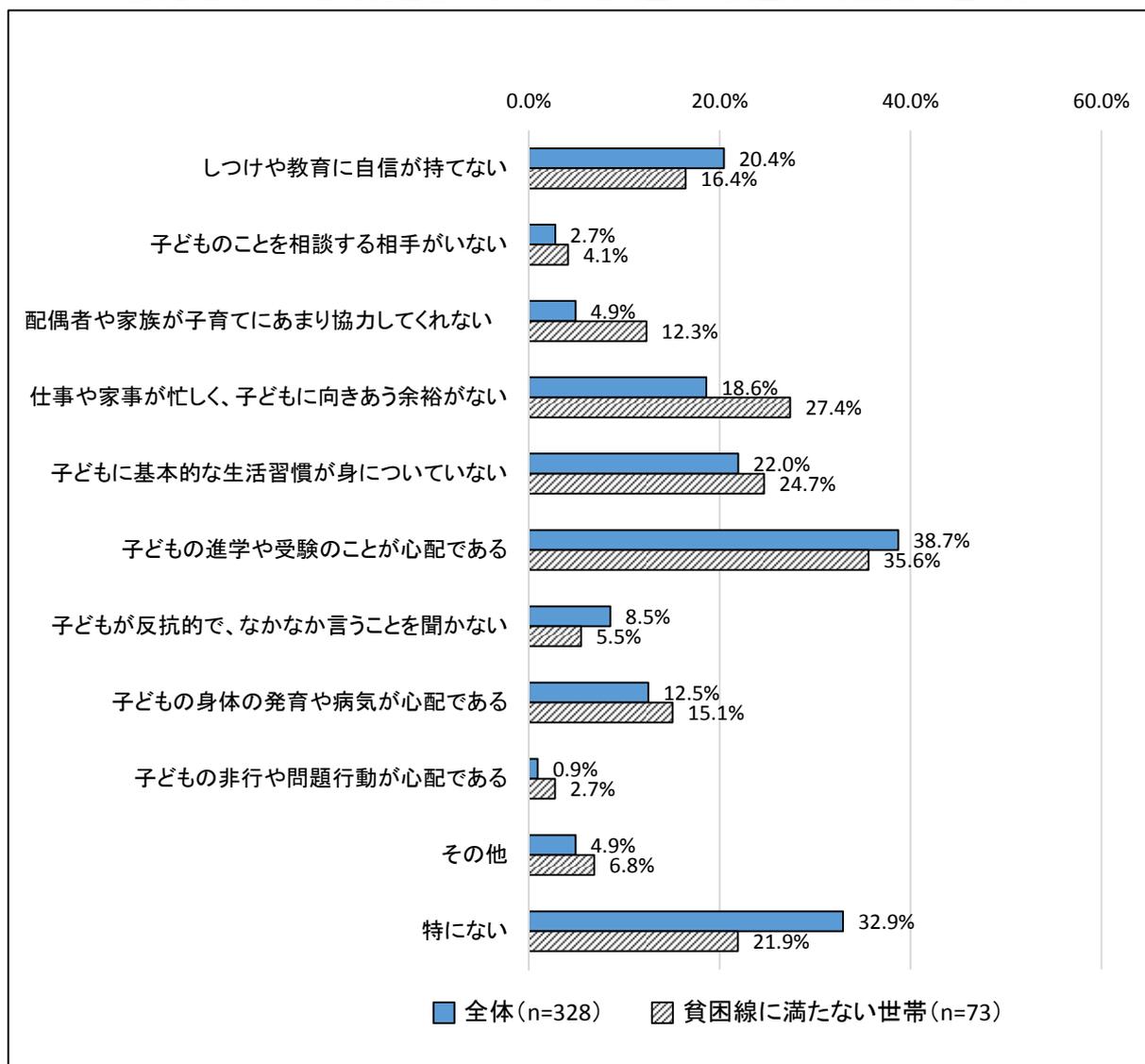
問 19 お子さんのことで現在悩んでいることがありますか。(複数回答)

お子さんのことで現在悩んでいることについては、全体では「子どもの進学や受験のことが心配である」が38.7%と最も高く、次いで、「特にない」が32.9%、「子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身につけていない」が22.0%の順等となっています。

世帯区別でみると、貧困線に満たない世帯では「子どもの進学や受験のことが心配である」が35.6%と最も高く、次いで、「仕事や家事が忙しく、子どもに向きあう余裕がない」が27.4%、「子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身につけていない」が24.7%の順等となっています。

また、比較して差が大きかった項目は、「特にない」が11.0%全体のほうが高くなっています。

【お子さんのことで現在悩んでいること（全体・貧困線に満たない世帯）】

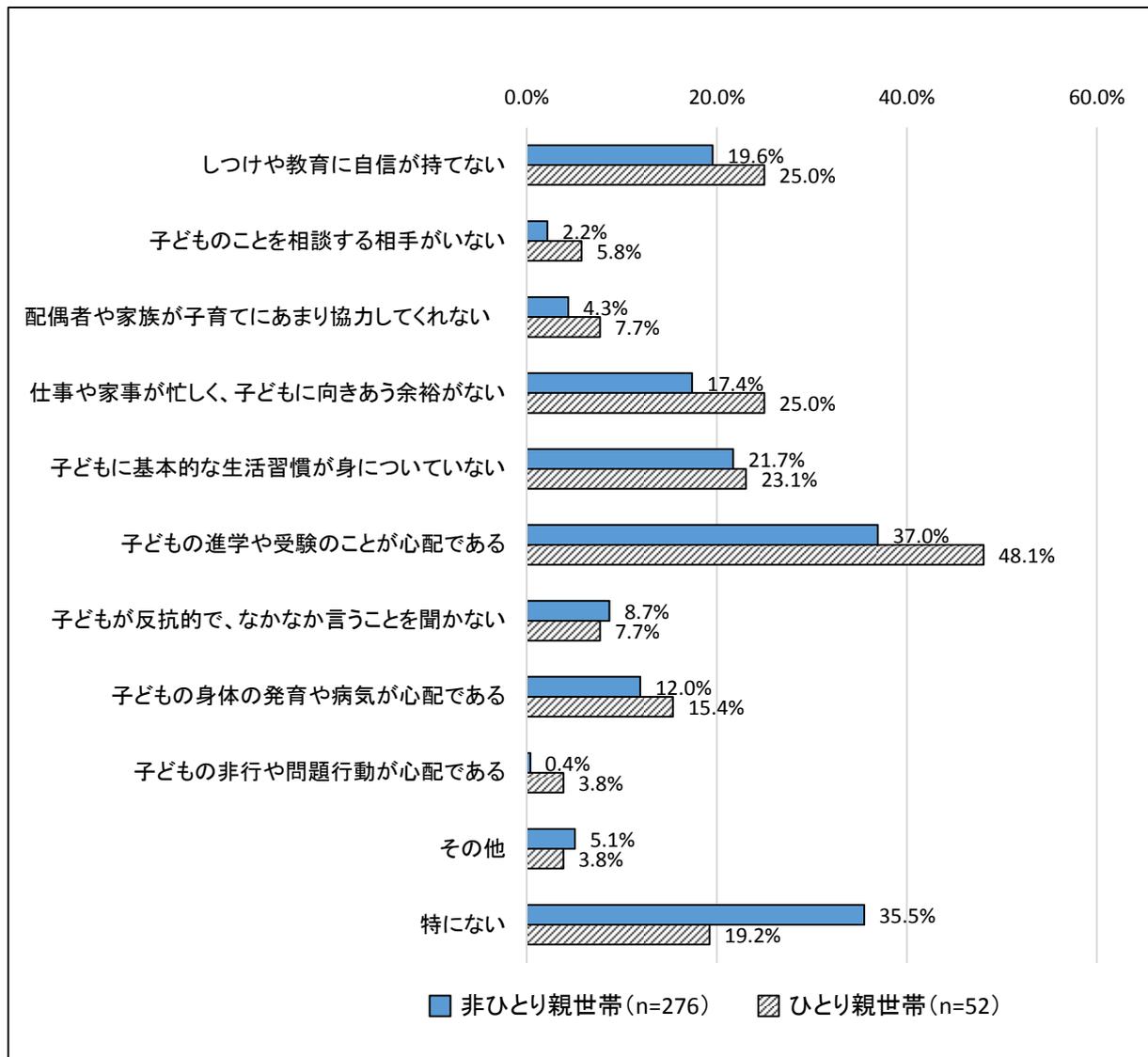


非ひとり親世帯では「子どもの進学や受験のことが心配である」が37.0%と最も高く、次いで、「特にない」が35.5%、「子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身につけていない」が21.7%の順等となっています。

ひとり親世帯では「子どもの進学や受験のことが心配である」が48.1%と最も高く、次いで、「しつけや教育に自信が持てない」と「仕事や家事が忙しく、子どもに向きあう余裕がない」が25.0%の順等となっています。

また、比較して差が大きかった項目は、「特にない」が16.3%非ひとり親世帯のほうが高くなっているほか、「子どもの進学や受験のことが心配である」が11.1%ひとり親世帯のほうが高くなっています。

【お子さんのことで現在悩んでいること（非ひとり親世帯・ひとり親世帯）】



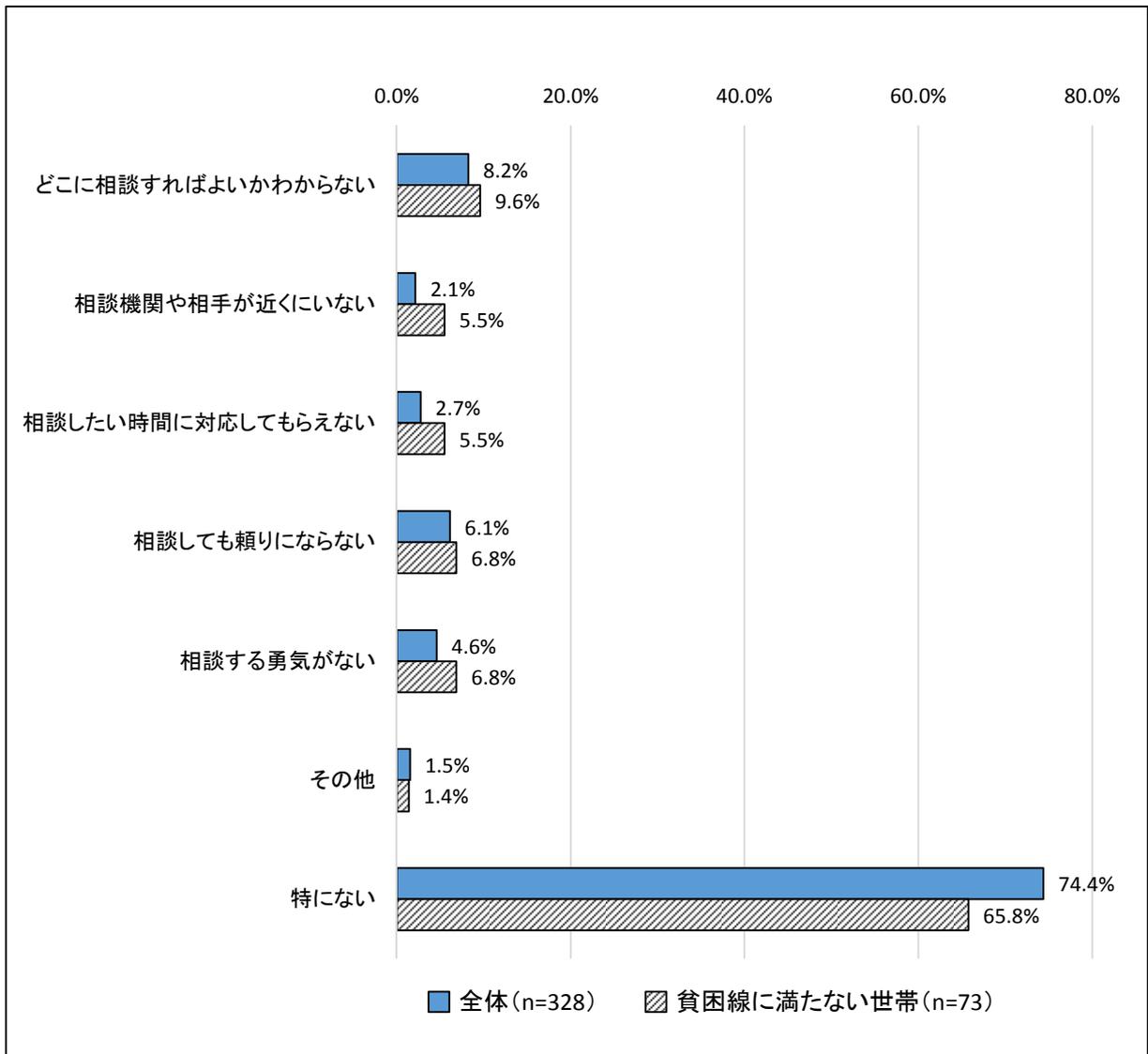
問 20 子育てに関する相談に関して困っていることがありますか。(複数回答)

子育てに関する相談に関して困っていることについては、全体では「特にない」が74.4%と最も高く、次いで、「どこに相談すればよいかわからない」が8.2%、「相談しても頼りにならない」が6.1%の順等となっています。

世帯区分別でみると、貧困線に満たない世帯では「特にない」が65.8%と最も高く、次いで、「どこに相談すればよいかわからない」が9.6%、「相談しても頼りにならない」と「相談する勇気がない」が6.8%の順等となっています。

また、比較して差が大きかった項目は、「特にない」が8.6%全体のほうが高くなっています。

【子育てに関する相談に関して困っていること（全体・貧困線に満たない世帯）】

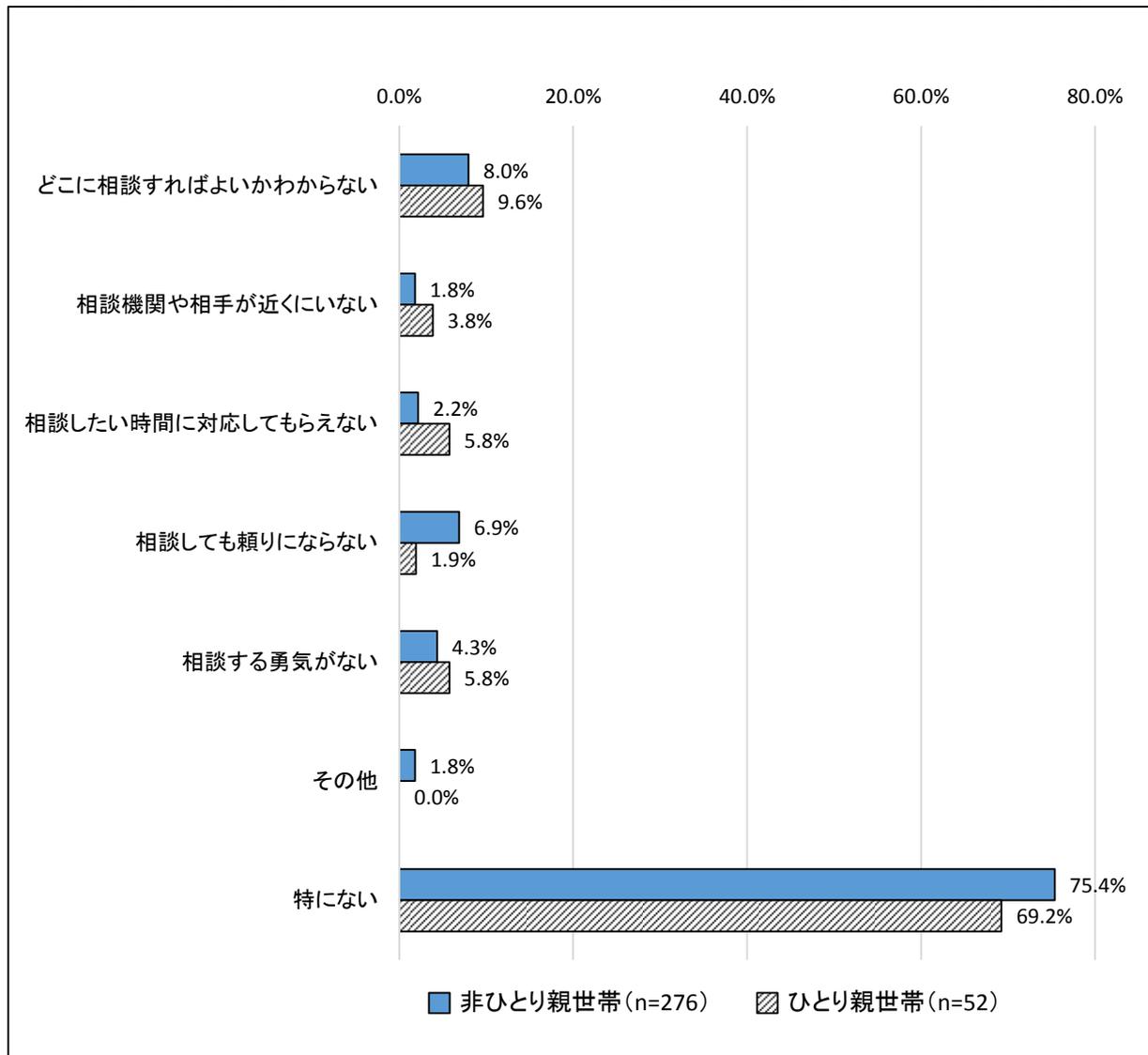


非ひとり親世帯では「特にない」が75.4%と最も高く、次いで、「どこに相談すればよいかわからない」が8.0%、「相談しても頼りにならない」が6.9%の順等となっています。

ひとり親世帯では「特にない」が69.2%と最も高く、次いで、「どこに相談すればよいかわからない」が9.6%、「相談したい時間に対応してもらえない」と「相談する勇気がない」が5.8%の順等となっています。

また、比較して差が大きかった項目は、「特にない」が6.2%、「相談しても頼りにならない」が5.0%非ひとり親世帯のほうが高くなっています。

【子育てに関する相談に関して困っていること（非ひとり親世帯・ひとり親世帯）】



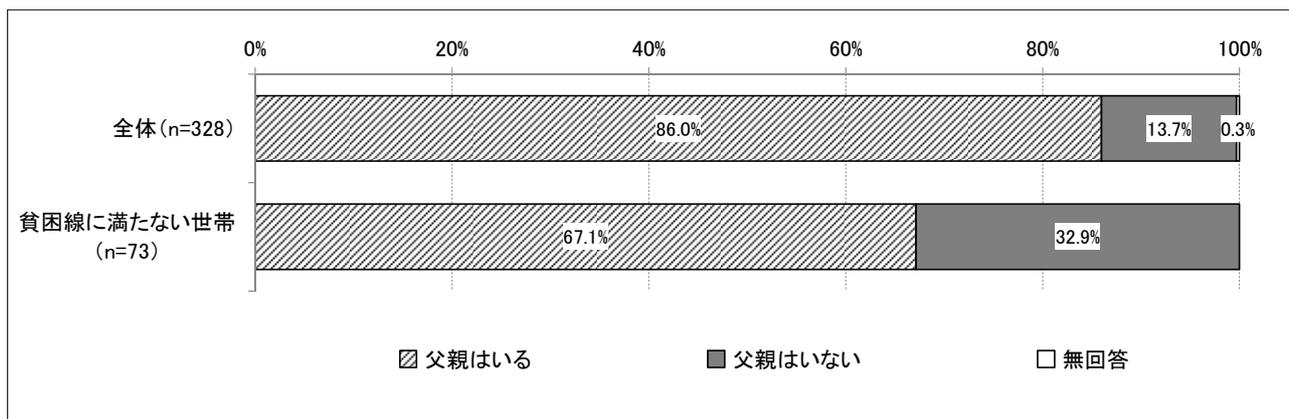
6 保護者の就労状況について

問 21-1-1 父親について (1) 父親の有無 (〇は1つ)

父親の有無については、「父親はいる」が86.0%、「父親はいない」が13.7%となっており、8割以上の世帯で「父親はいる」という結果になっています。

世帯区分別でみると、貧困線に満たない世帯では「父親はいる」が67.1%、「父親はいない」が32.9%となっており、全体と比較すると「父親はいる」世帯が18.9%低くなっています。

【父親の有無】

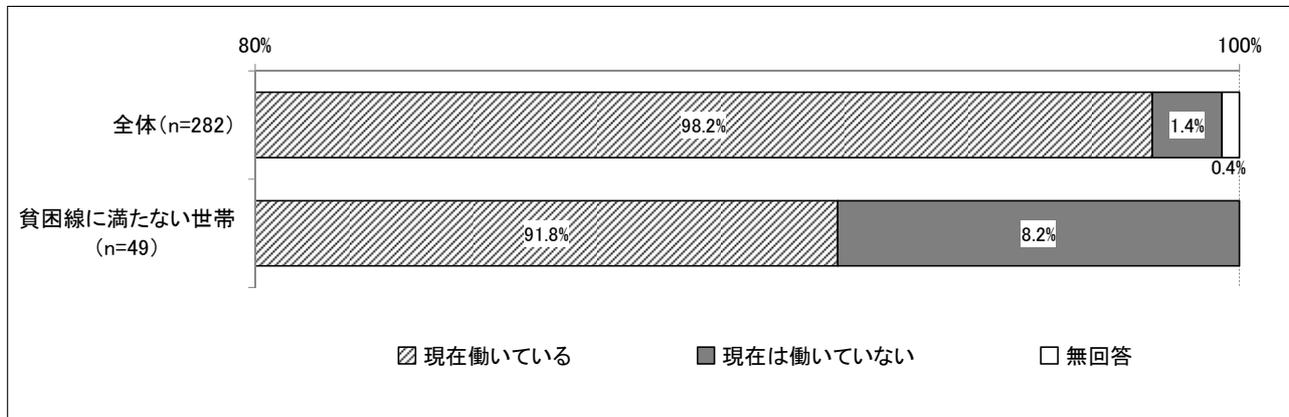


問 21-1-2 父親について (2) 就業状況 (〇は1つ)

父親の就業状況については、「現在働いている」が98.2%、「現在は働いていない」が1.4%となっており、ほとんどの世帯で「現在働いている」という結果になっています。

世帯区分別でみると、貧困線に満たない世帯では「現在働いている」が91.8%、「現在は働いていない」が8.2%となっており、9割以上の世帯で「現在働いている」という結果になっていますが、全体と比較すると6.4%低くなっています。

【父親の就業状況】

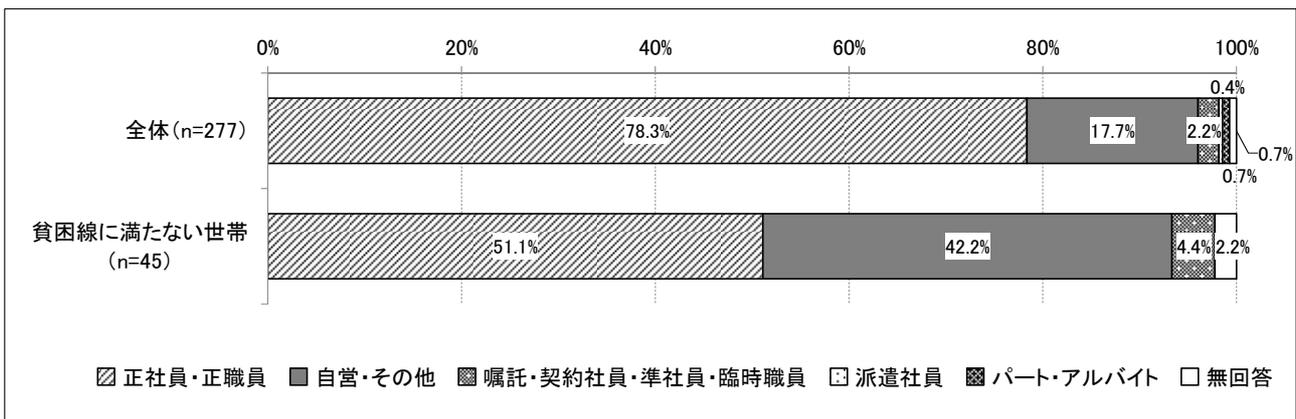


問 21-1-3 父親について (3) 就業形態 (〇は1つ)

父親の就業形態については、「正社員・正職員」が78.3%と最も高く、次いで、「自営・その他」が17.7%、「嘱託・契約社員・準社員・臨時職員」が2.2%の順等となっています。

世帯区分別でみると、貧困線に満たない世帯では「正社員・正職員」が51.1%と最も高く、次いで、「自営・その他」が42.2%、「嘱託・契約社員・準社員・臨時職員」が4.4%の順等となっています。「正社員・正職員」の割合が全体では約8割に対して、貧困線に満たない世帯では約5割にとどまっています。

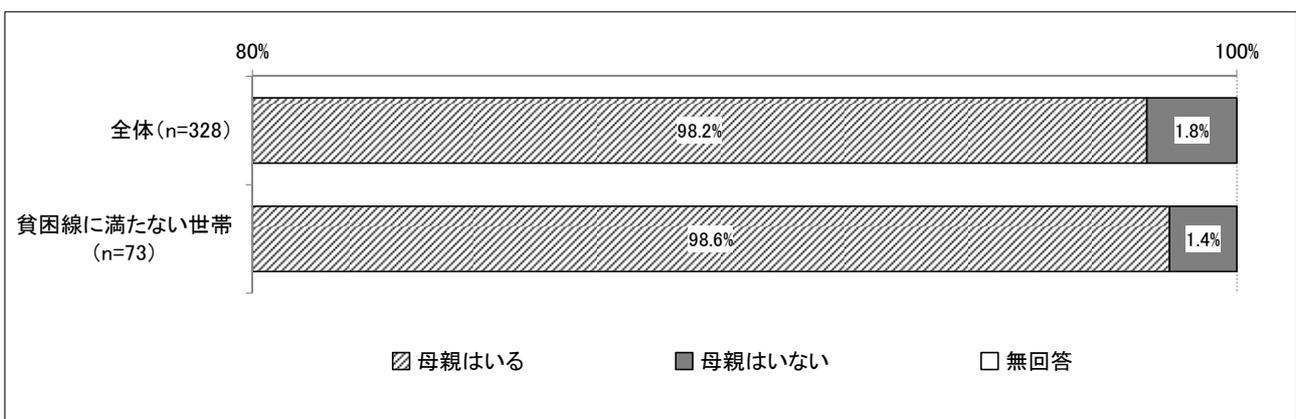
【父親の就業形態】



問 21-2-1 母親について (1) 母親の有無 (〇は1つ)

母親の有無については、「母親はいる」が全体で98.2%、貧困線に満たない世帯で98.6%となっており、全体、貧困線に満たない世帯ともにほとんどの世帯で「母親はいる」という結果になっています。

【母親の有無】

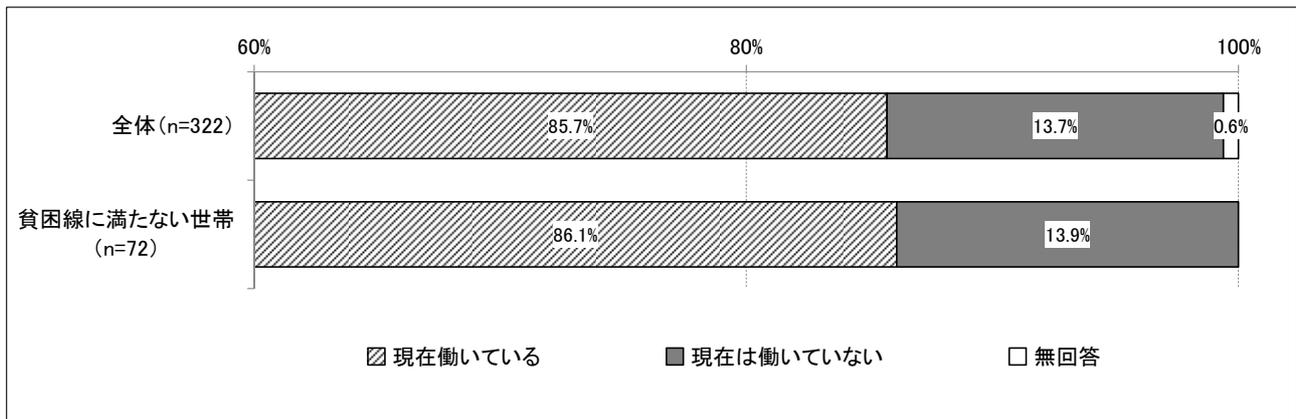


問 21-2-2 母親について (2) 就業状況 (〇は1つ)

母親の就業状況については、「現在働いている」が85.7%、「現在は働いていない」が13.7%となっており、8割以上の世帯で「現在働いている」という結果になっています。

世帯区分別で見ると、貧困線に満たない世帯では「現在働いている」が86.1%、「現在は働いていない」が13.9%となっており、全体と同様の結果となっています。

【母親の就業状況】

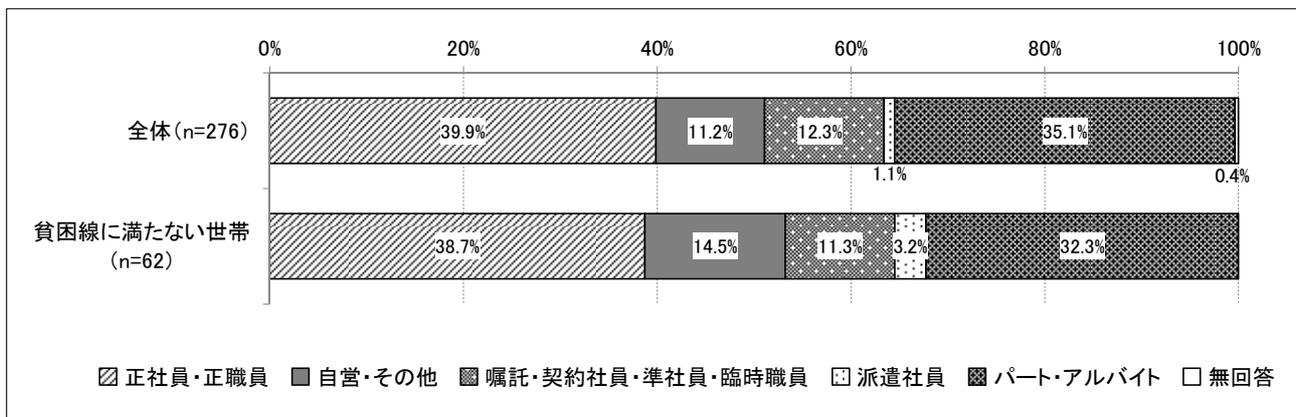


問 21-2-3 母親について (3) 就業形態 (〇は1つ)

母親の就業形態については、「正社員・正職員」が39.9%と最も高く、次いで、「パート・アルバイト」が35.1%、「嘱託・契約社員・準社員・臨時職員」が12.3%の順等となっています。

世帯区分別で見ると、貧困線に満たない世帯では「正社員・正職員」が38.7%と最も高く、次いで、「パート・アルバイト」が32.3%、「自営・その他」が14.5%の順等となっています。

【母親の就業形態】



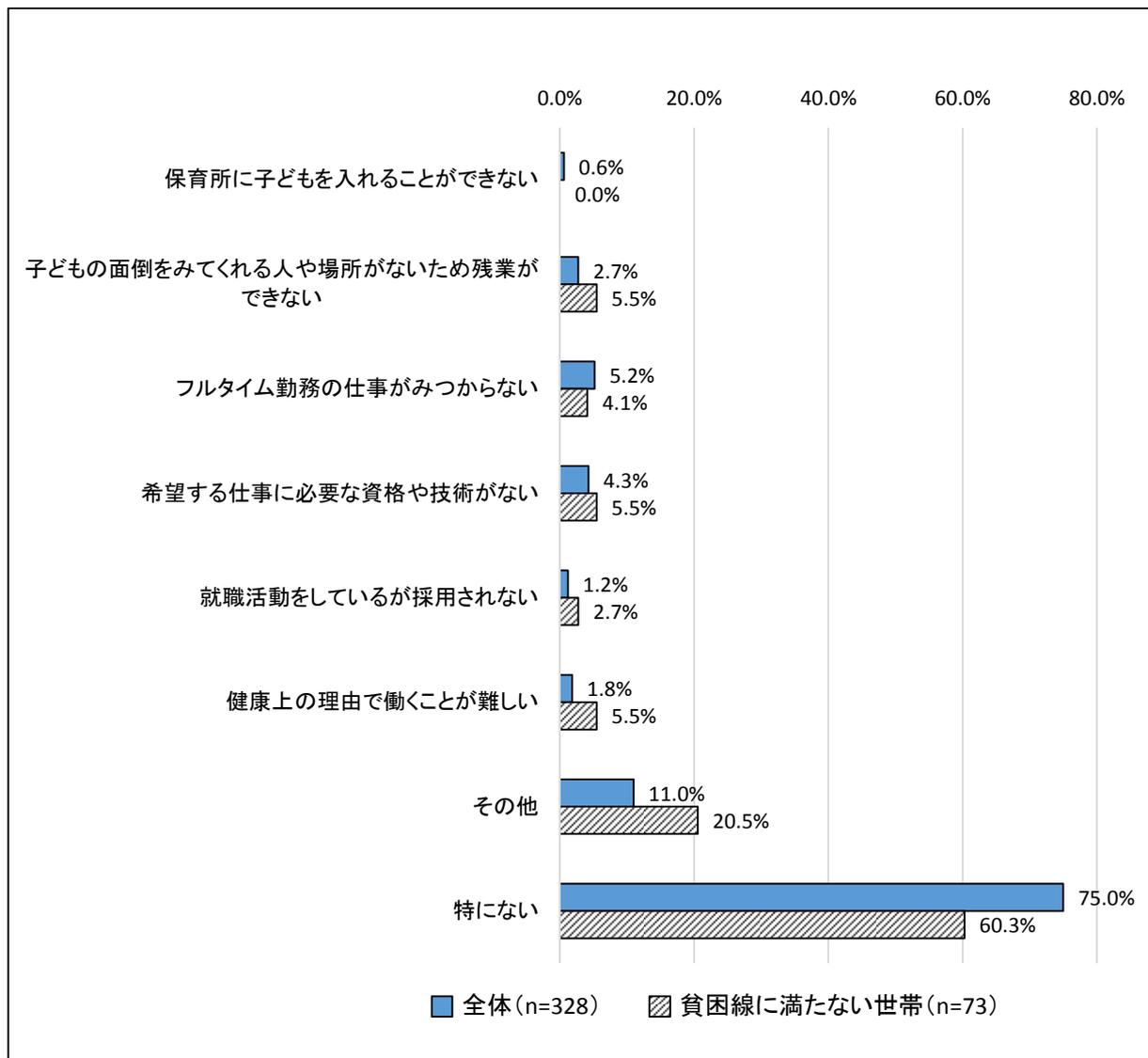
問 22 保護者が困っていることは何ですか。(複数回答)

保護者が困っていることについては、全体では「特にない」が75.0%と最も高く、次いで、「その他」が11.0%、「フルタイム勤務の仕事が見つからない」が5.2%の順等となっています。

世帯区分別でみると、貧困線に満たない世帯では「特にない」が60.3%と最も高く、次いで、「その他」が20.5%、「子どもの面倒をみてくれる人や場所がないため残業ができない」と「希望する仕事に必要な資格や技術がない」、
「健康上の理由で働くことが難しい」が5.5%の順等となっています。

また、比較して差が大きかった項目は、「特にない」が14.7%全体のほうが高くなっています。

【保護者が困っていること（全体・貧困線に満たない世帯）】

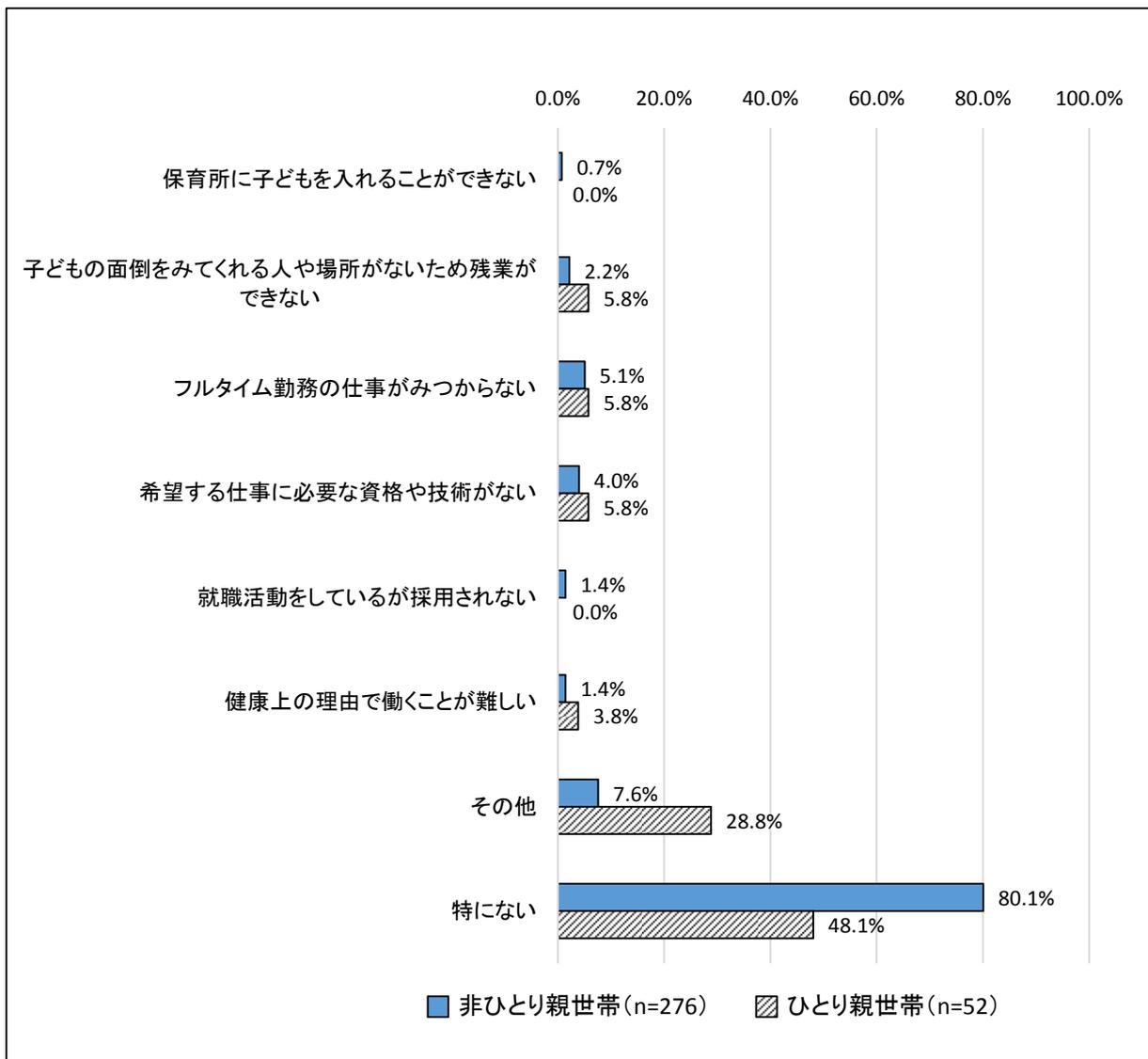


非ひとり親世帯では「特にない」が80.1%と最も高く、次いで、「その他」が7.6%、「フルタイム勤務の仕事が見つからない」が5.1%の順等となっています。

ひとり親世帯では「特にない」が48.1%と最も高く、次いで、「その他」が28.8%、「子どもの面倒をみてくれる人や場所がないため残業ができない」と「フルタイム勤務の仕事が見つからない」、「希望する仕事に必要な資格や技術がない」が5.8%の順等となっています。

また、比較して差が大きかった項目は、「特にない」が32.0%非ひとり親世帯のほうが高くなっており、ひとり親世帯では5割以上の保護者が何らかの困りごとがあることがうかがえます。

【保護者が困っていること（非ひとり親世帯・ひとり親世帯）】



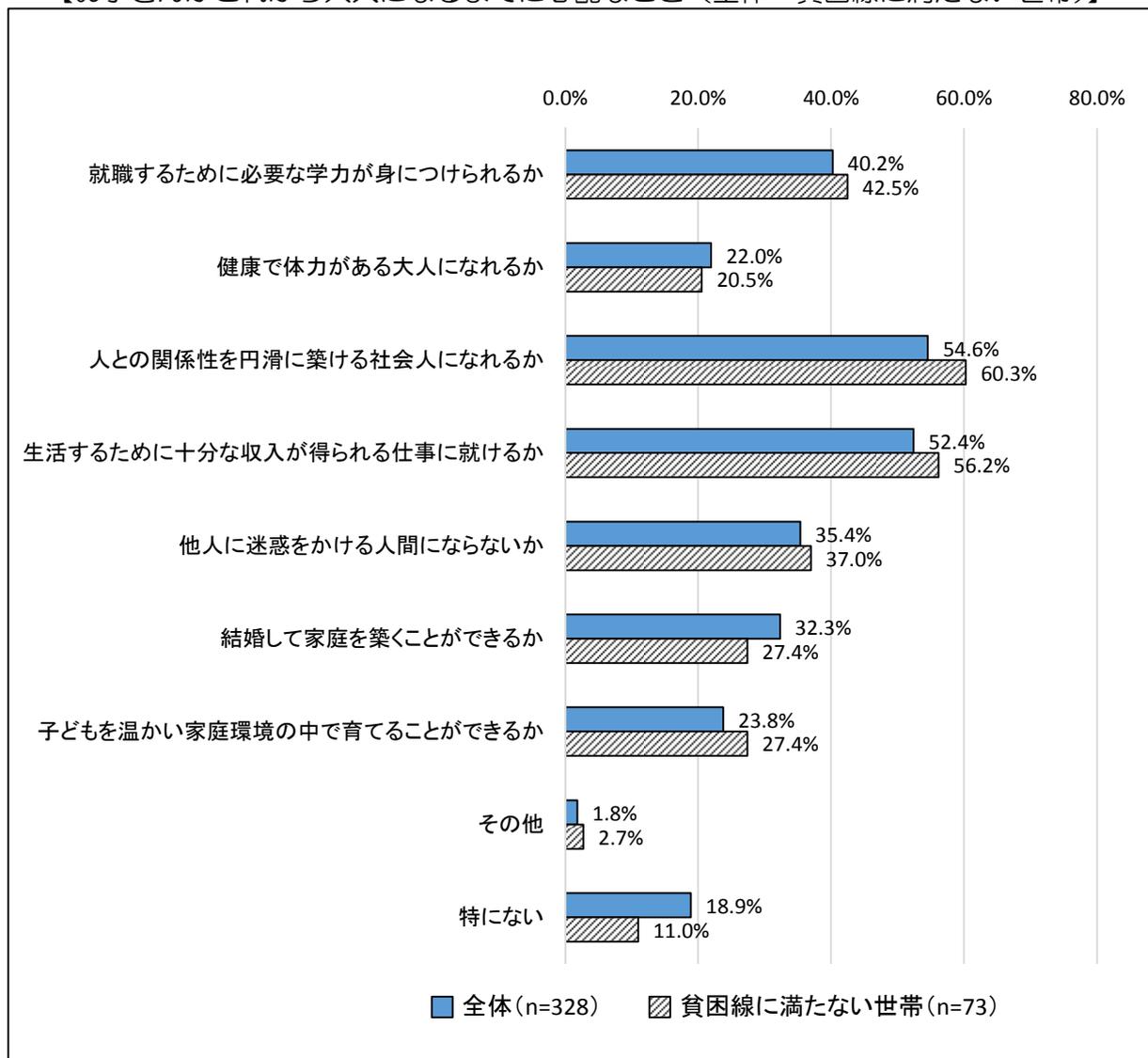
7 子どものよりよい成育環境を実現するために必要なことについて

問 23 お子さんがこれから大人になるまでに心配なことがありますか。(複数回答)

お子さんがこれから大人になるまでに心配なことについては、全体では「人との関係性を円滑に築ける社会人になれるか」が54.6%と最も高く、次いで、「生活するために十分な収入が得られる仕事に就けるか」が52.4%、「就職するために必要な学力が身につけられるか」が40.2%の順等となっています。

世帯区分別でみると、貧困線に満たない世帯では「人との関係性を円滑に築ける社会人になれるか」が60.3%と最も高く、次いで、「生活するために十分な収入が得られる仕事に就けるか」が56.2%、「就職するために必要な学力が身につけられるか」が42.5%の順等となっています。全体と比較して同様の傾向となっていますが、上位3位の割合は全体を上回っています。

【お子さんがこれから大人になるまでに心配なこと（全体・貧困線に満たない世帯）】

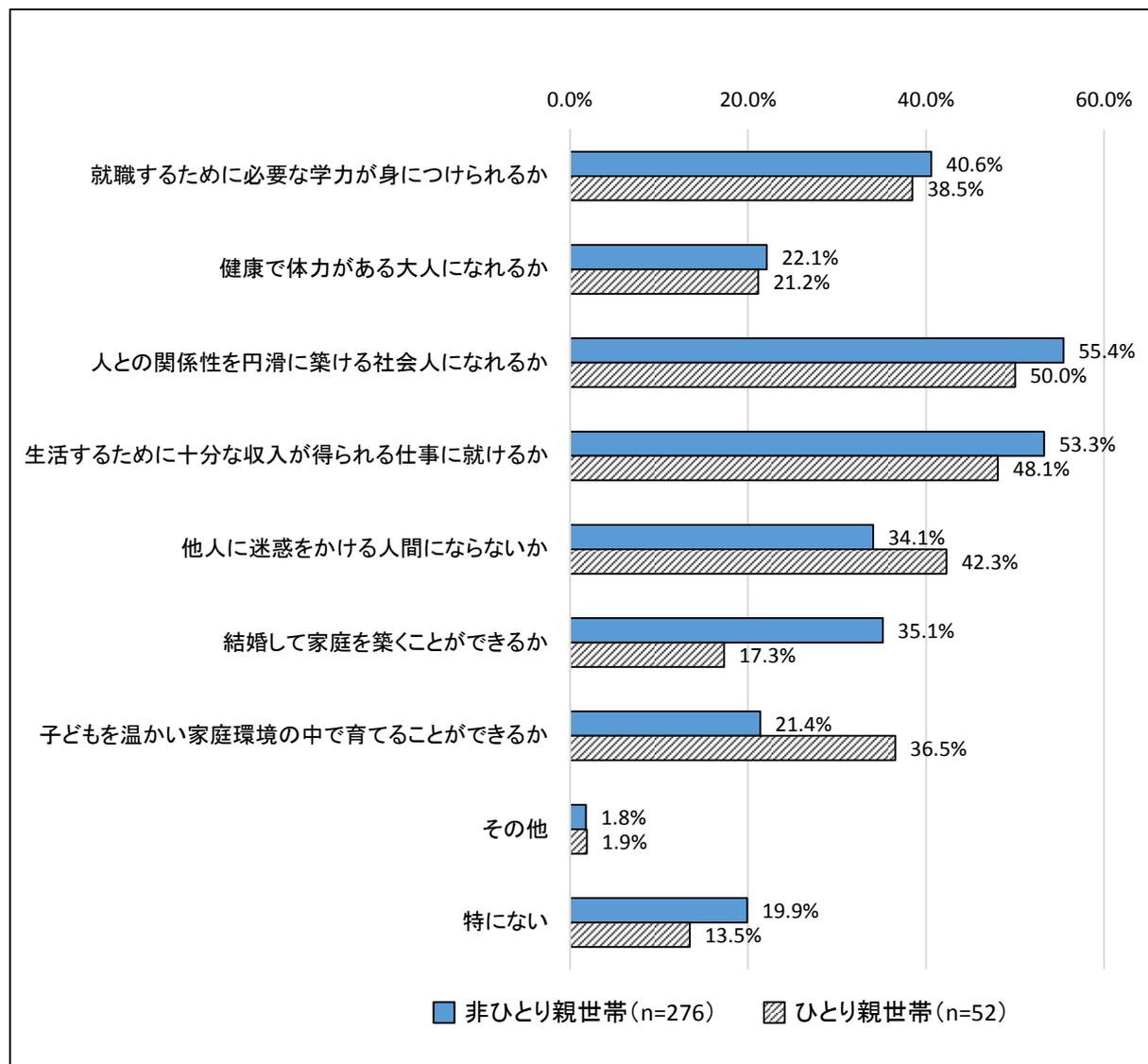


非ひとり親世帯では「人との関係性を円滑に築ける社会人になれるか」が 55.4%と最も高く、次いで、「生活するために十分な収入が得られる仕事に就けるか」が 53.3%、「就職するために必要な学力が身につけられるか」が 40.6%の順等となっています。

ひとり親世帯では「人との関係性を円滑に築ける社会人になれるか」が 50.0%と最も高く、次いで、「生活するために十分な収入が得られる仕事に就けるか」が 48.1%、「他人に迷惑をかける人間にならないか」が 42.3%の順等となっています。

また、比較して差が大きかった項目は、「結婚して家庭を築くことができるか」が 17.8%非ひとり親世帯のほうが高くなっており、一方、「子どもを温かい家庭環境の中で育てることができるか」が 15.1%ひとり親世帯のほうが高くなっていきます。

【お子さんがこれから大人になるまでに心配なこと（非ひとり親世帯・ひとり親世帯）】



問 24

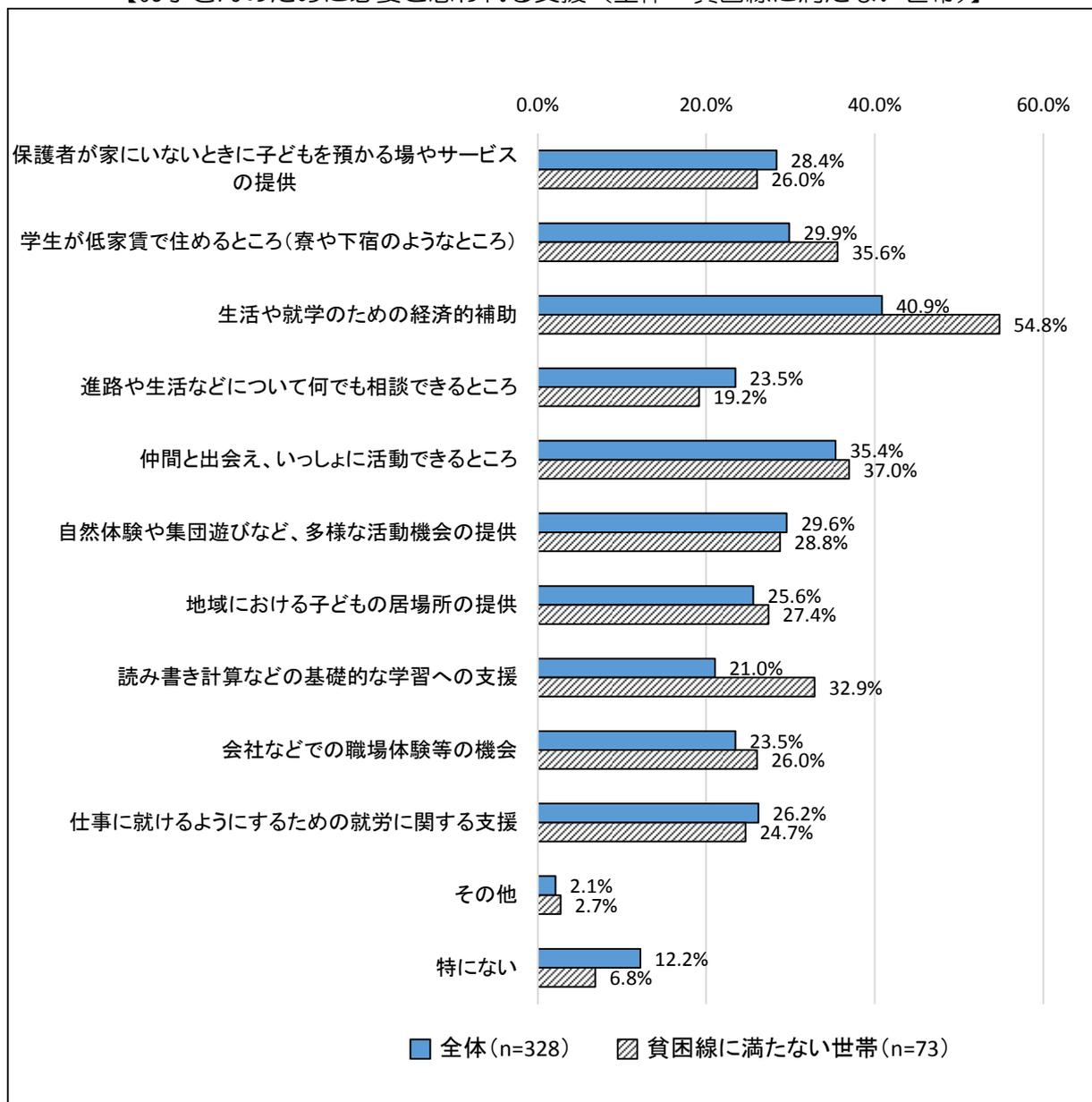
今後、お子さんのために必要と思われる支援はどのようなことだと思いますか。
(複数回答)

お子さんのために必要と思われる支援については、「生活や就学のための経済的補助」が40.9%と最も高く、次いで、「仲間と出会え、いっしょに活動できる場所」が35.4%、「学生が低家賃で住める場所（寮や下宿のような場所）」が29.9%の順等となっています。

世帯区分別でみると、貧困線に満たない世帯では「生活や就学のための経済的補助」が54.8%と最も高く、次いで、「仲間と出会え、いっしょに活動できる場所」が37.0%、「学生が低家賃で住める場所（寮や下宿のような場所）」が35.6%の順等となっています。

また、比較して差が大きかった項目は、「生活や就学のための経済的補助」が13.9%、「読み書き計算などの基礎的な学習への支援」が11.9%貧困線に満たない世帯のほうが高くなっています。

【お子さんのために必要と思われる支援（全体・貧困線に満たない世帯）】

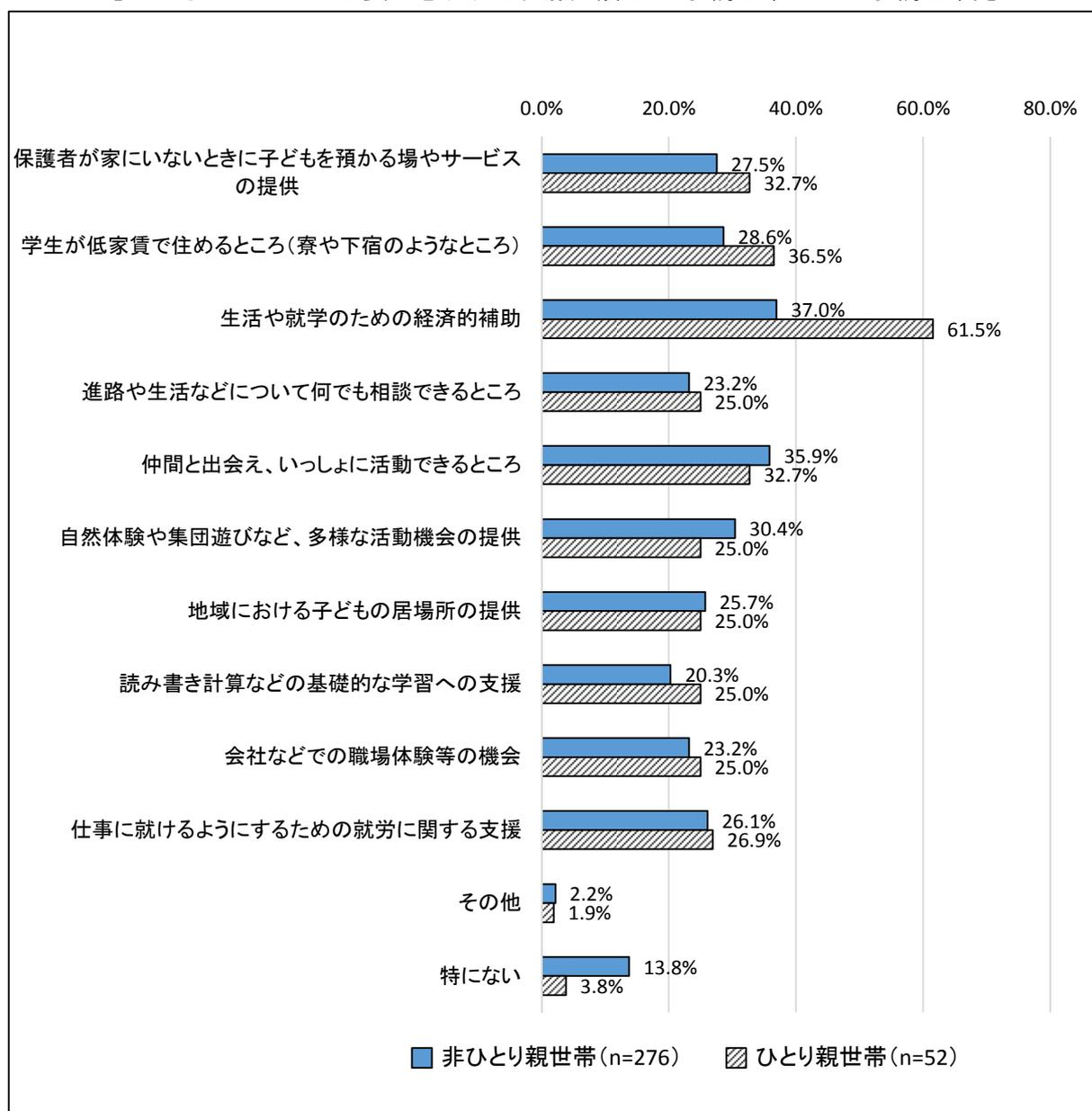


非ひとり親世帯では「生活や就学のための経済的補助」が37.0%と最も高く、次いで、「仲間と出会え、いっしょに活動できる場所」が35.9%、「自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供」が30.4%の順等となっています。

ひとり親世帯では「生活や就学のための経済的補助」が61.5%と最も高く、次いで、「学生が低家賃で住める場所（寮や下宿のような場所）」が36.5%、「保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供」と「仲間と出会え、いっしょに活動できる場所」が32.7%の順等となっています。

また、比較して差が大きかった項目は、「生活や就学のための経済的補助」が24.5%ひとり親世帯のほうが高くなっています。

【お子さんのために必要と思われる支援（非ひとり親世帯・ひとり親世帯）】



問 25

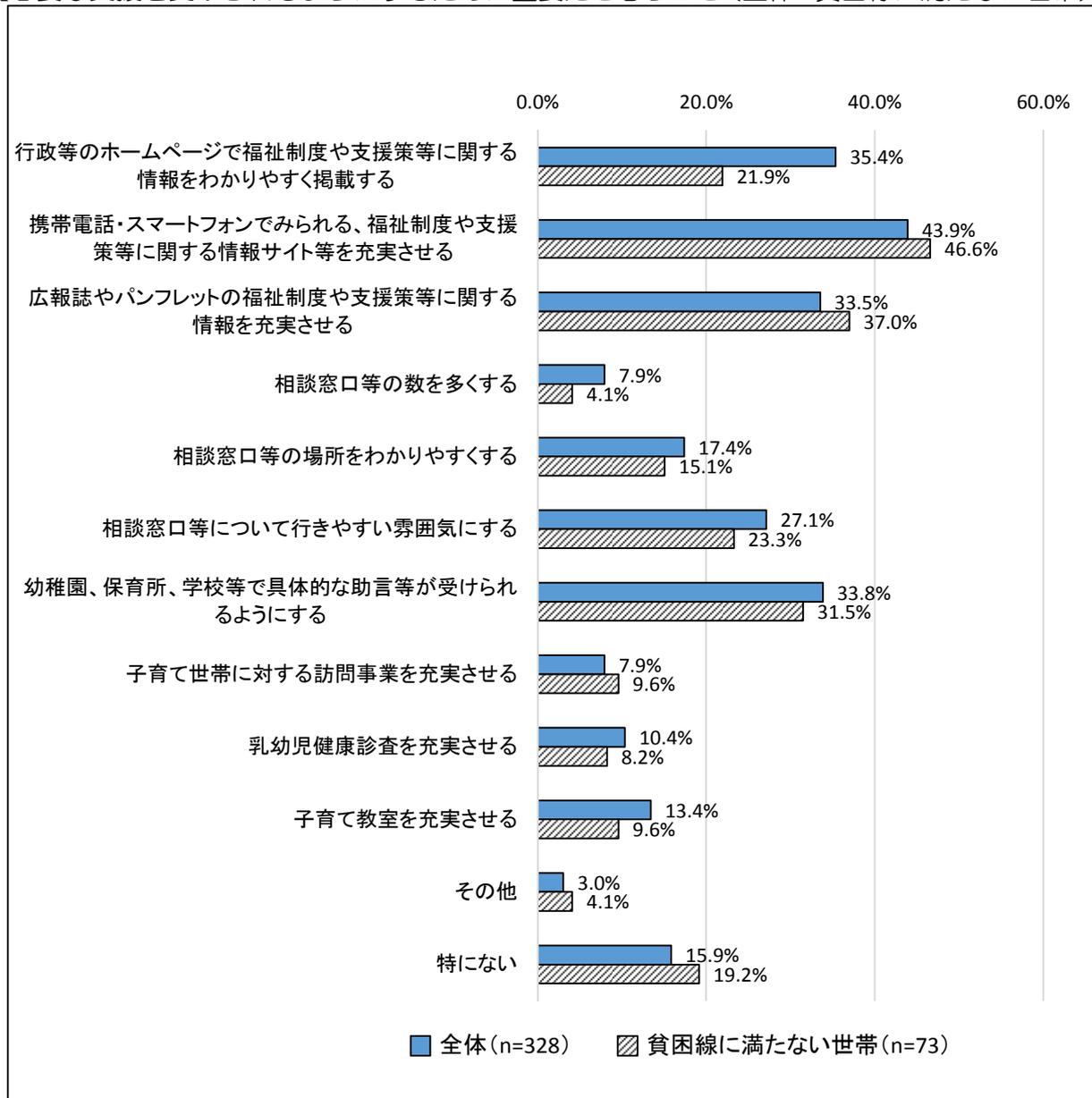
お子さんのための必要な支援を受けられるようにするために重要だと思うことは何ですか。(複数回答)

必要な支援を受けられるようにするために重要だと思うことについては、全体では「携帯電話・スマートフォンでみられる、福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる」が43.9%と最も高く、次いで、「行政等のホームページで福祉制度や支援策等に関する情報をわかりやすく掲載する」が35.4%、「幼稚園、保育所、学校等で具体的な助言等が受けられるようにする」が33.8%の順等となっています。

世帯区別でみると、貧困線に満たない世帯では「携帯電話・スマートフォンでみられる、福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる」が46.6%と最も高く、次いで、「広報誌やパンフレットの福祉制度や支援策等に関する情報を充実させる」が37.0%、「幼稚園、保育所、学校等で具体的な助言等が受けられるようにする」が31.5%の順等となっています。

また、比較して差が大きかった項目は、「行政等のホームページで福祉制度や支援策等に関する情報をわかりやすく掲載する」が13.5%全体のほうが高くなっています。

【必要な支援を受けられるようにするために重要だと思うこと(全体・貧困線に満たない世帯)】

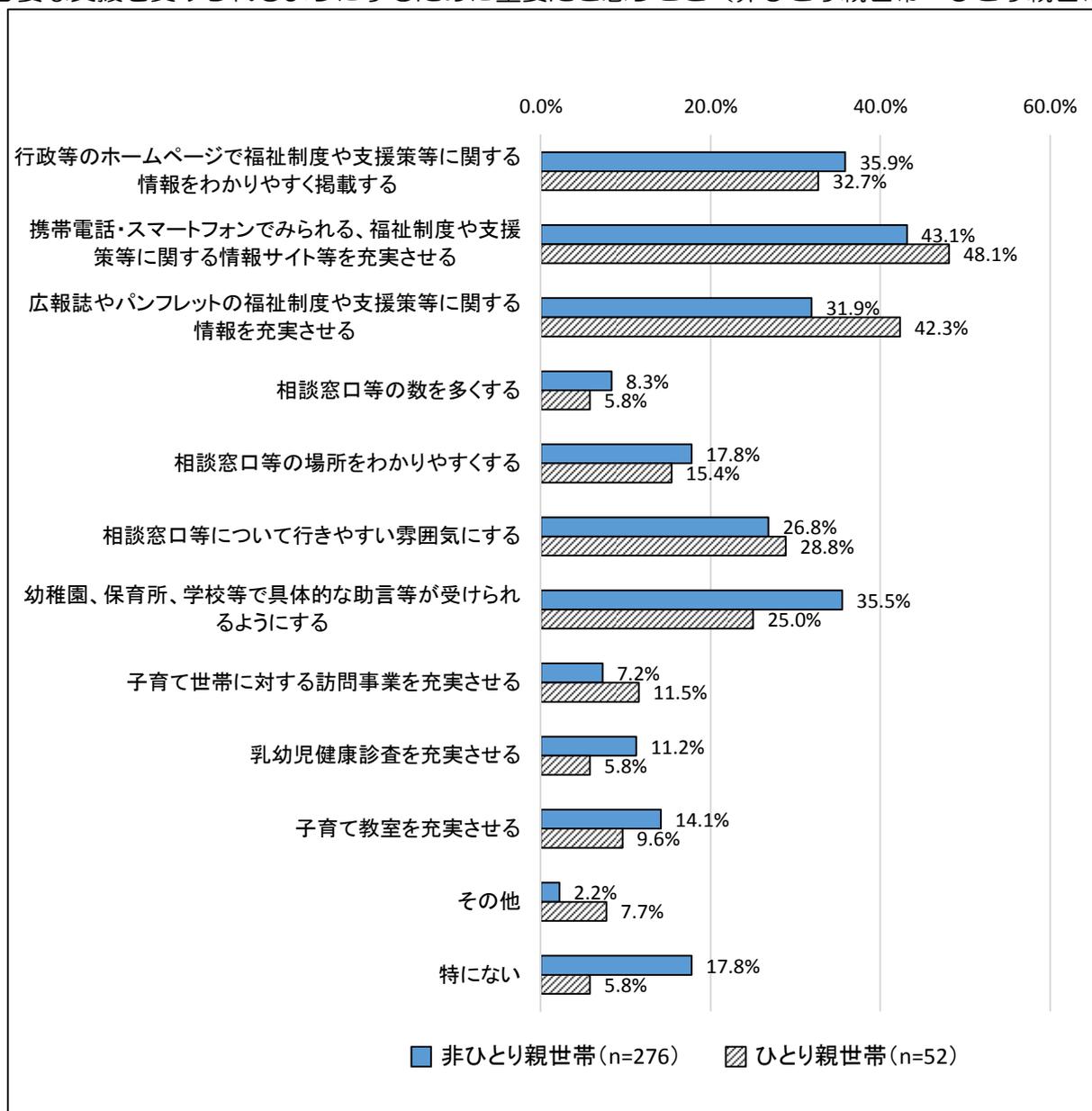


非ひとり親世帯では「携帯電話・スマートフォンでみられる、福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる」が43.1%と最も高く、次いで、「行政等のホームページで福祉制度や支援策等に関する情報をわかりやすく掲載する」が35.9%、「幼稚園、保育所、学校等で具体的な助言等が受けられるようにする」が35.5%の順等となっています。

ひとり親世帯では「携帯電話・スマートフォンでみられる、福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる」が48.1%と最も高く、次いで、「広報誌やパンフレットの福祉制度や支援策等に関する情報を充実させる」が42.3%、「行政等のホームページで福祉制度や支援策等に関する情報をわかりやすく掲載する」が32.7%の順等となっています。

また、比較して差が大きかった項目は、「特にない」が12.0%、「幼稚園、保育所、学校等で具体的な助言等が受けられるようにする」が10.5%非ひとり親世帯のほうが高くなっているほか、「広報誌やパンフレットの福祉制度や支援策等に関する情報を充実させる」が10.4%ひとり親世帯のほうが高くなっています。

【必要な支援を受けられるようにするために重要だと思うこと（非ひとり親世帯・ひとり親世帯）】

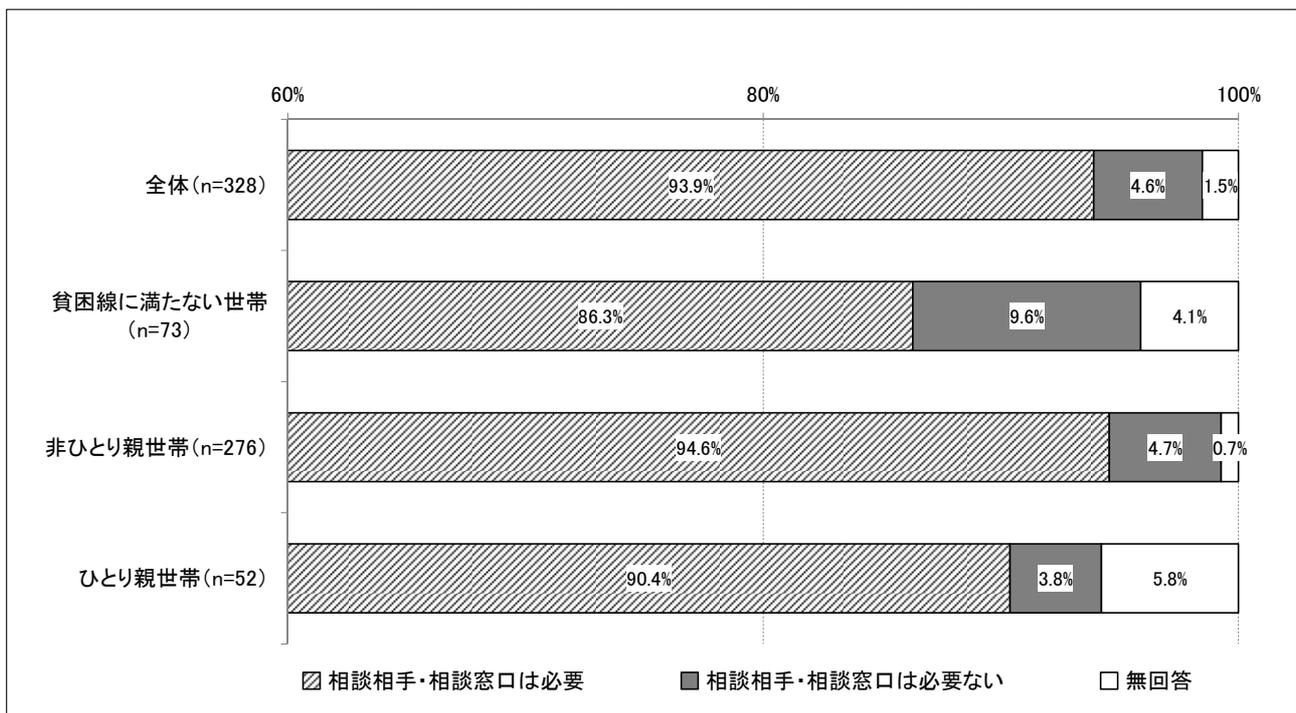


問 26 子育てに関する相談相手や相談窓口は必要だと思いますか。(〇は1つ)

子育てに関する相談相手や相談窓口の必要性については、「相談相手・相談窓口は必要」が93.9%、「相談相手・相談窓口は必要ない」が4.6%となっており、ほとんどの世帯で「相談相手・相談窓口は必要」という結果になっています。

世帯区分別でみると、全ての世帯区分で「相談相手・相談窓口は必要」が約9割を占めています。

【子育てに関する相談相手や相談窓口の必要性】

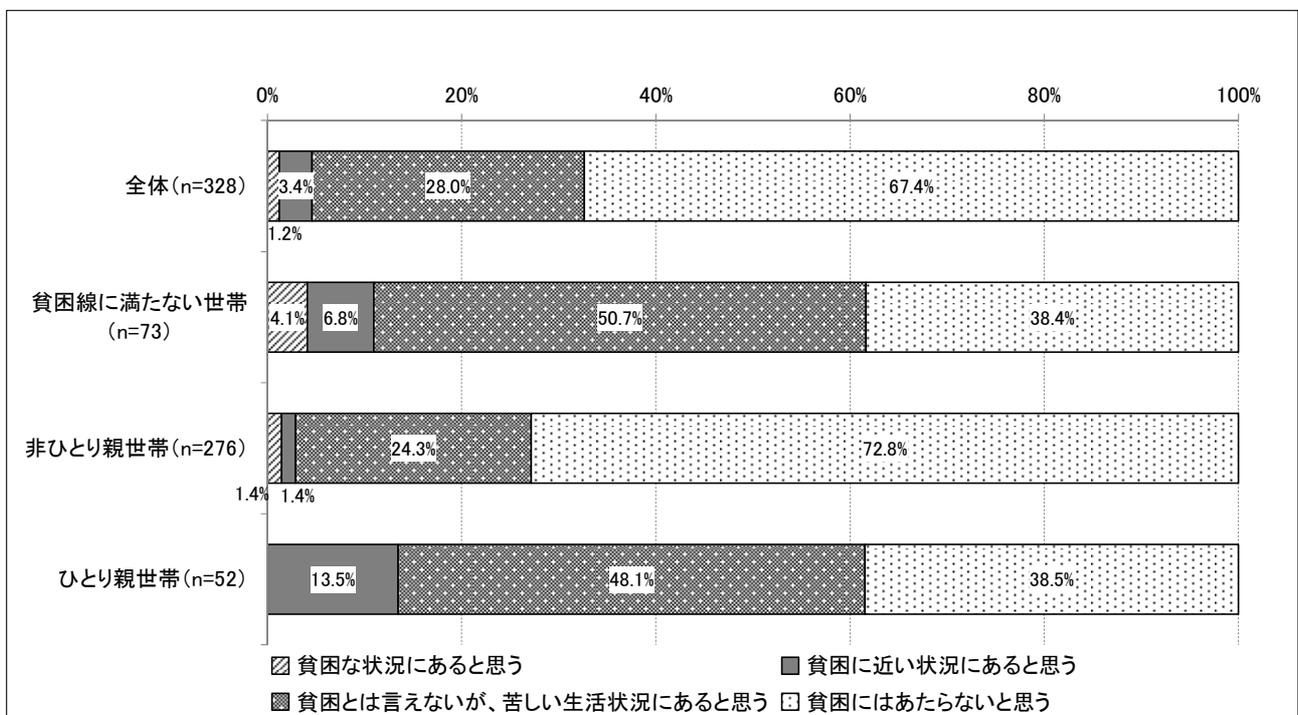


問 27 現在、あなたのご家庭は“貧困”とされる状況にあると思いますか。(〇は1つ)

現在、“貧困”とされる状況にあると思うかについては、「貧困にはあたらないと思う」が67.4%と最も高く、次いで、「貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う」が28.0%、「貧困に近い状況にあると思う」が3.4%、「貧困な状況にあると思う」が1.2%の順となっています。また、「貧困な状況にあると思う」と「貧困に近い状況にあると思う」をあわせた、“貧困または貧困に近い状況”という回答は4.6%にとどまっています。

世帯区別で“貧困または貧困に近い状況”をみると、貧困線に満たない世帯では10.9%、非ひとり親世帯では2.8%、ひとり親世帯では13.5%となっており、貧困線に満たない世帯とひとり親世帯では1割の世帯で“貧困または貧困に近い状況”と感じていることがうかがえます。

【現在、“貧困”とされる状況にあると思うか】

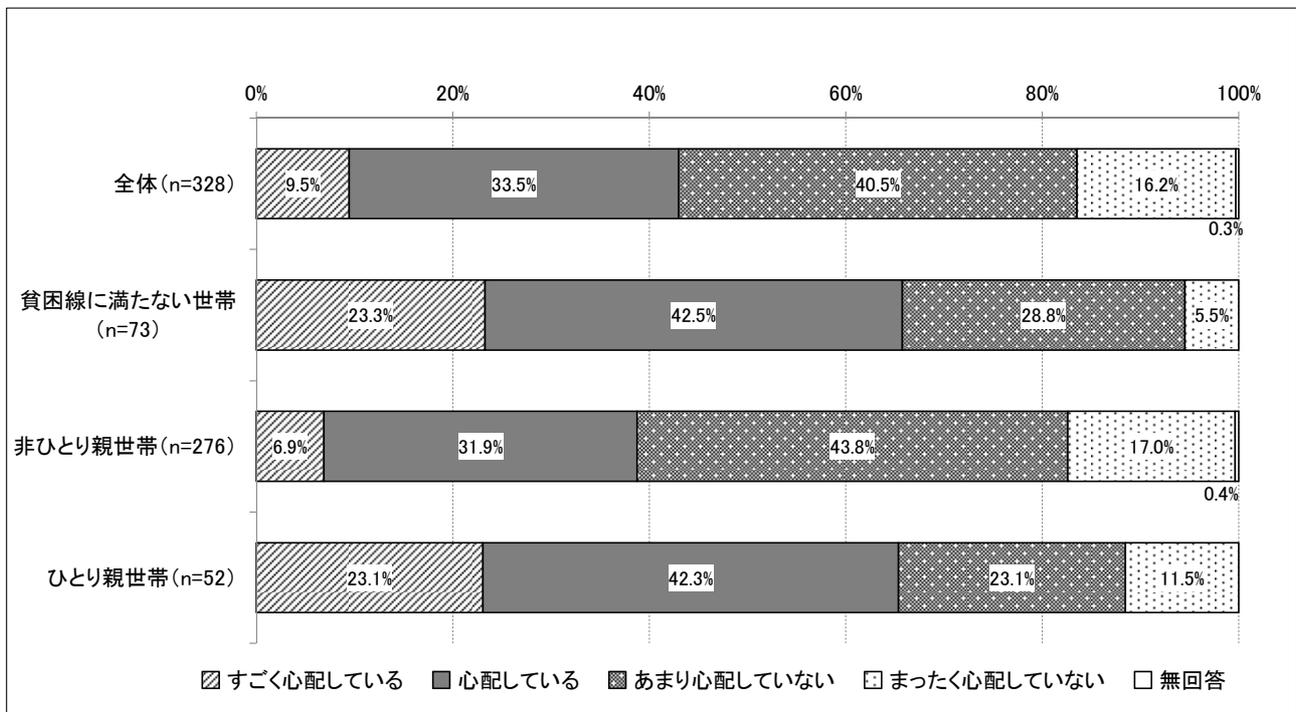


問 28 子どもへの貧困の連鎖に対する不安はありますか。(〇は1つ)

子どもへの貧困の連鎖に対する不安については、「あまり心配していない」が40.5%と最も高く、次いで、「心配している」が33.5%、「まったく心配していない」が16.2%、「すごく心配している」が9.5%の順となっています。また、「すごく心配している」と「心配している」をあわせた、「心配している」という回答は43.0%となっています。

世帯区分別で“心配している”をみると、貧困線に満たない世帯では65.8%、非ひとり親世帯では38.8%、ひとり親世帯では65.4%となっており、貧困線に満たない世帯とひとり親世帯では6割以上の世帯で、子どもへの貧困の連鎖を“心配している”と感じていることがうかがえます。

【子どもへの貧困の連鎖に対する不安】

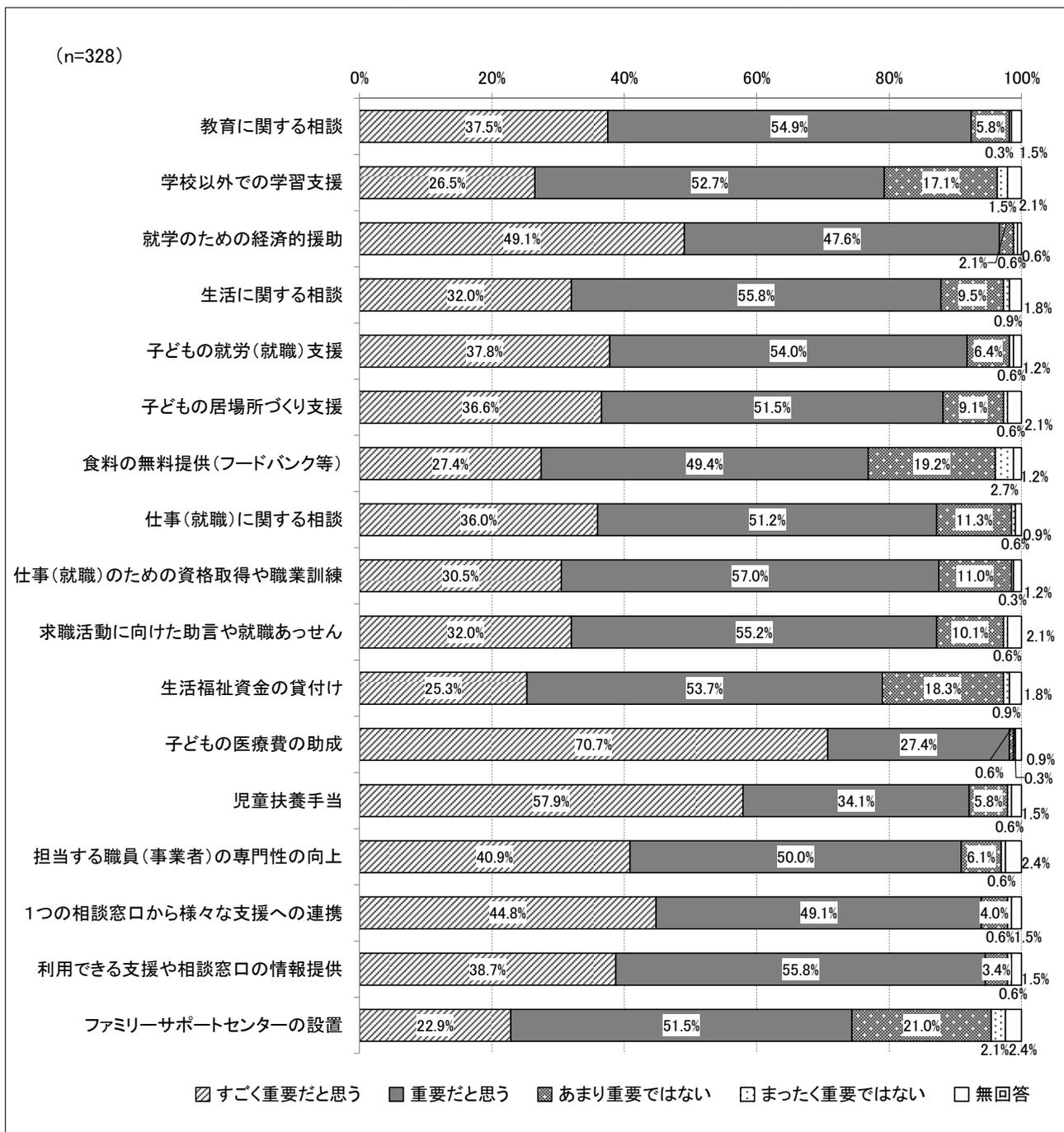


問 29

子どもの貧困対策における支援事業について、事業ごとにどの程度重要だと思えますか。(1つに○)

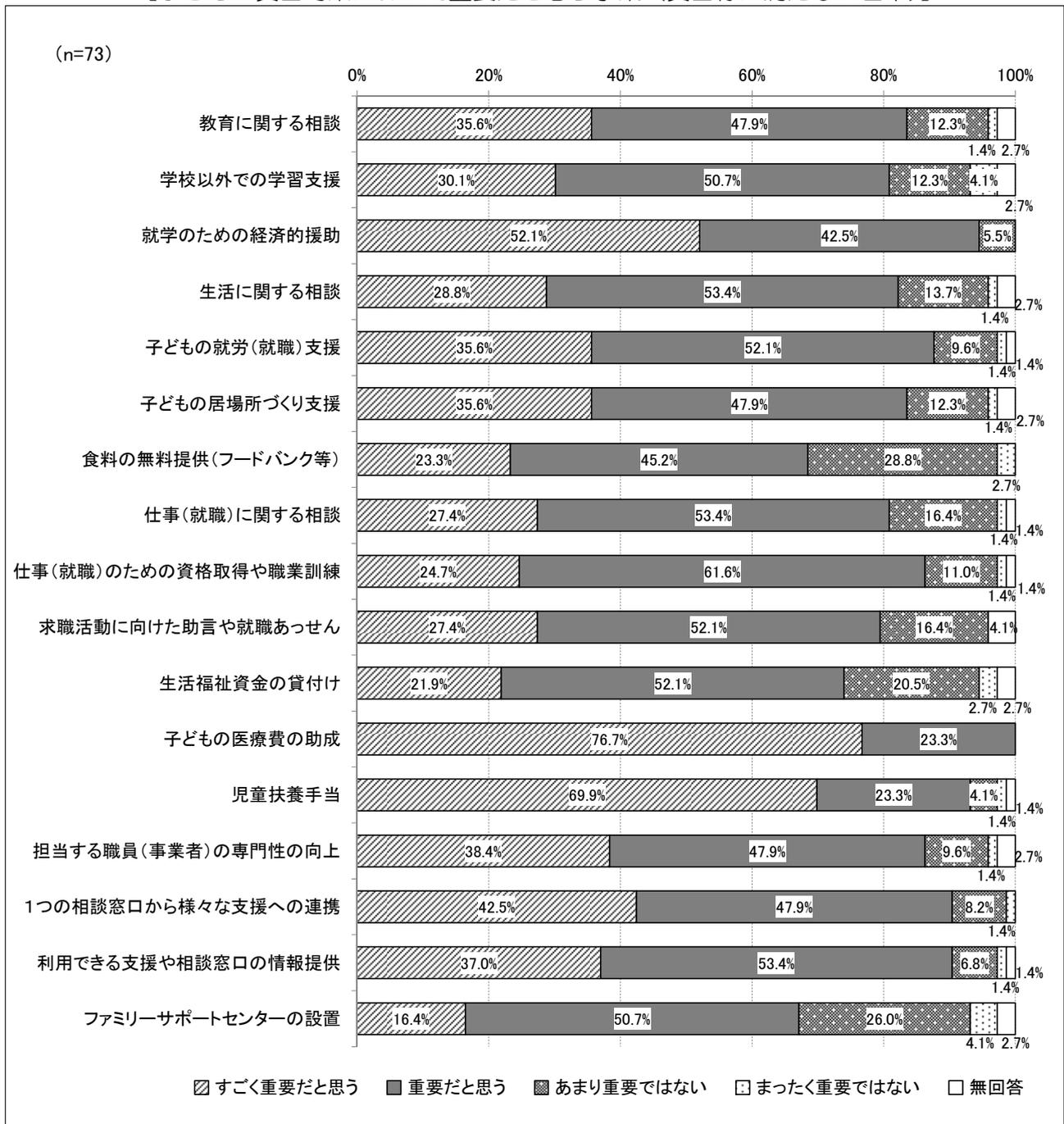
子どもの貧困対策において重要だと思う事業について、「すごく重要だと思う」と「重要だと思う」をあわせた“重要だと思う”でみると、全ての項目で7割を上回っており、「子どもの医療費の助成」が98.1%と最も高く、次いで、「就学のための経済的援助」が96.7%、「利用できる支援や相談窓口の情報提供」が94.5%の順等となっています。

【子どもの貧困対策において重要だと思う事業（全体）】



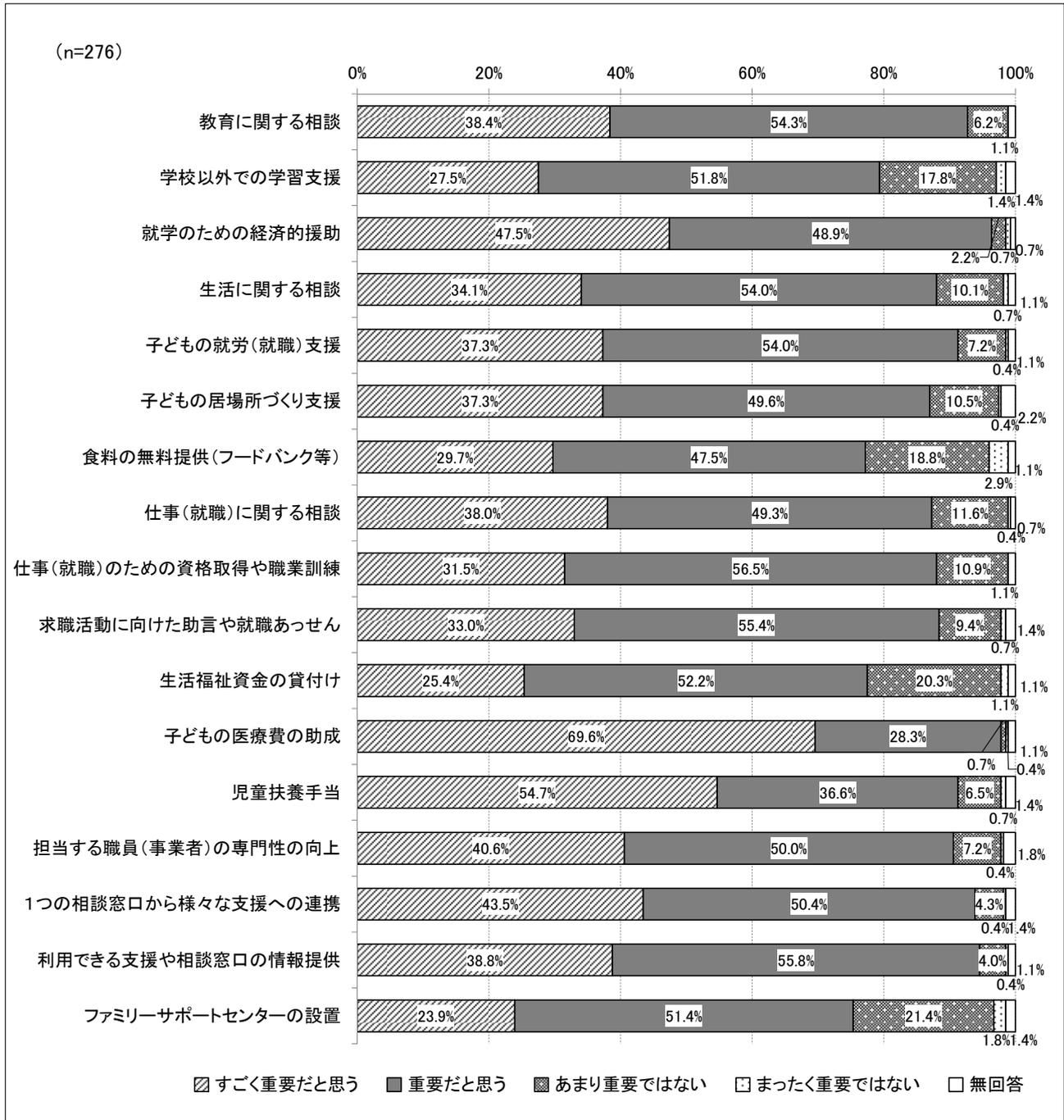
世帯区別で「すごく重要だと思う」と「重要だと思う」をあわせた“重要だと思う”をみると、貧困線に満たない世帯では「食料の無料提供（フードバンク等）」（68.5%）と「ファミリーサポートセンターの設置」（67.1%）以外の項目では7割を上回っており、「子どもの医療費の助成」が100.0%と最も高く、次いで、「就学のための経済的援助」が94.6%、「児童扶養手当」が93.2%の順等となっています。

【子どもの貧困対策において重要だと思う事業（貧困線に満たない世帯）】



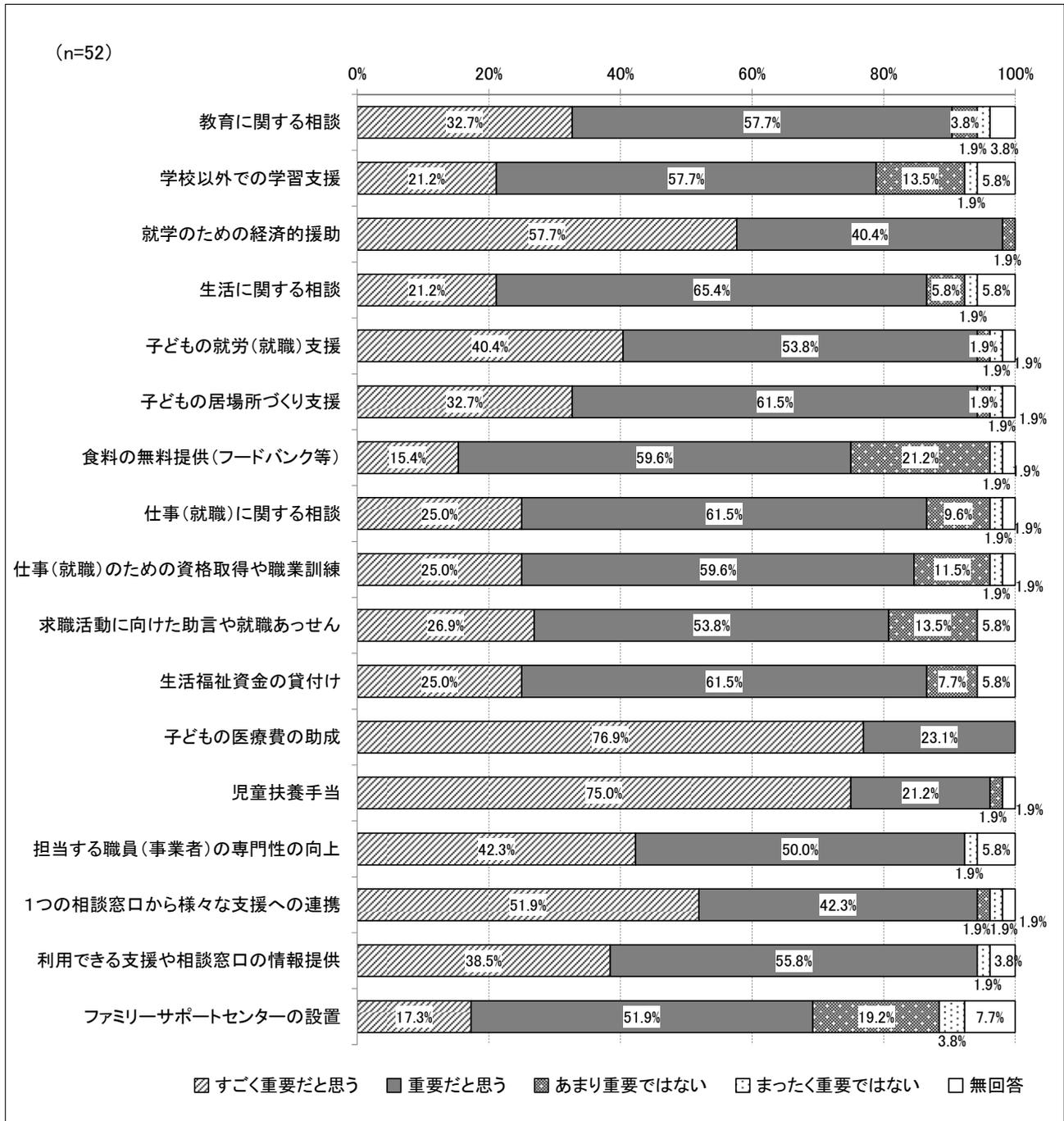
非ひとり親世帯では全ての項目で7割を上回っており、「子どもの医療費の助成」が97.9%と最も高く、次いで、「就学のための経済的援助」が96.4%、「利用できる支援や相談窓口の情報提供」が94.6%の順等となっています。

【子どもの貧困対策において重要だと思う事業（非ひとり親世帯）】



ひとり親世帯では「ファミリーサポートセンターの設置」(69.2%)以外の項目では7割を上回っており、「子どもの医療費の助成」が100.0%と最も高く、次いで、「就学のための経済的援助」が98.1%、「児童扶養手当」が96.2%の順等となっています。

【子どもの貧困対策において重要だと思う事業（ひとり親世帯）】



問 30

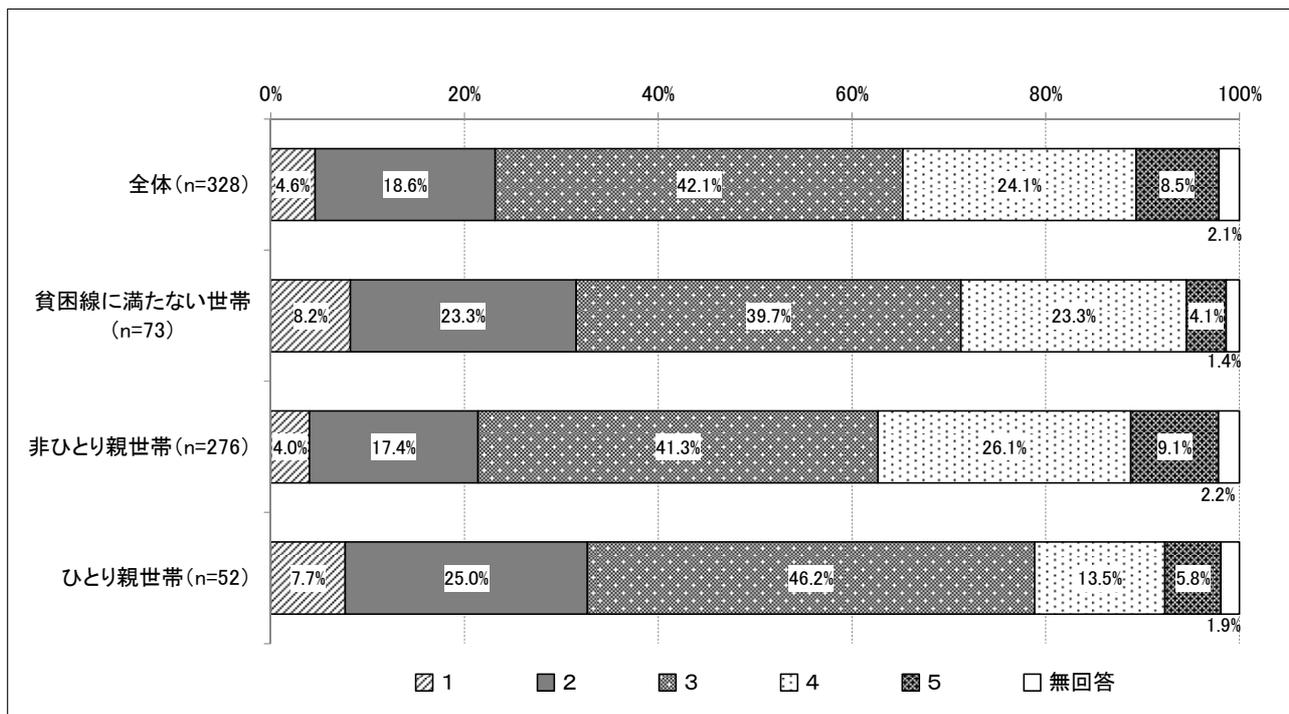
身延町での子育ての環境や支援への満足度についてあてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

身延町での子育ての環境や支援への満足度（5が最高）については、「3」が42.1%と最も高く、次いで、「4」が24.1%、「2」が18.6%、「5」が8.5%、「1」が4.6%の順となっています。

世帯区分別でみると、全ての世帯区分で「3」が最も高くなっています。また、「1」や「2」の満足度の低い評価は、非ひとり親世帯よりも貧困線に満たない世帯やひとり親世帯のほうが割合の高い傾向があります。

全ての回答を平均化すると、非ひとり親世帯が3.19と最も高く、次いで全体が3.14、貧困線に満たない世帯が2.92、ひとり親世帯が2.84となっており、身延町での子育ての環境や支援への満足度は、全体や非ひとり親世帯では普通をやや上回り、貧困線に満たない世帯やひとり親世帯では普通をやや下回る、という結果になっています。

【身延町での子育ての環境や支援への満足度】



8 アンケートのまとめ

1 世帯の状況について

住まいの種類（問2）については、「持ち家（戸建て住宅など）」の比率が全体の78.0%に対して、貧困線に満たない世帯では71.2%と6.8%低くなっています。また、ひとり親世帯では59.6%となっており、全体と比較すると2割近く「持ち家（戸建て住宅など）」の比率が低くなっています。

家族全体の年間の収入（手取り）（問5）をみると、「400万円以上」は全体の41.8%に対して、ひとり親世帯では21.2%、貧困線に満たない世帯においては0%となっており、また、現在の収入は、生活をするためには足りているか（問6）の質問では「まったく足りていない」が貧困線に満たない世帯では24.7%となっており、約4人に1人の方が経済的に困難な生活状況となっている現状がうかがえます。

2 現在の暮らし向きについて

現在の暮らしに対する全般的な満足度（問9）については、全体または全ての世帯区分で「おおむね満足している」が最も高くなっていますが、「満足している」と「おおむね満足している」をあわせた“満足している”と「やや不満である」と「大変不満である」をあわせた“不満である”でみると、貧困線に満たない世帯では“満足している”（49.3%）を“不満である”（50.7%）が上回っています（全体、非ひとり親世帯、ひとり親世帯では“満足している”が“不満である”を上回っている）。

3 子どもの教育にかかわる状況について

お子さん全員の教育にかかる費用（問10）については、貧困線に満たない世帯では「10万円～20万円未満」が28.8%と最も高く、全体で最も高い「50万円以上」と比較すると教育にかかる費用は半分以下となっています。

また、非ひとり親世帯では「50万円以上」が30.8%と最も高くなっていますが、ひとり親世帯では「10万円未満」が26.9%と最も高くなっており、非ひとり親世帯とひとり親世帯では教育にかかる費用に大きな差があることがうかがえます。さらに、経済的な理由による進学や就学の断念の可能性（問13）についてみると、ひとり親世帯では「これまではないが、今後、可能性がある」が69.2%と最も高く、これは貧困線に満たない世帯（67.1%）よりも高い割合となっています。

4 子どもの生活にかかわる状況について

家庭でお子さんに行っていること（問17）について、「していない（経済的な理由で）」と「していない（その他の理由で）」をあわせた“していない”をみると、貧困線に満たない世帯では「学習塾に通わせる」が80.8%、ひとり親世帯でも同じく「学習塾に通わせる」が84.6%と最も高く、全体（67.1%）と比較して差が大きくなっており、貧困線に満たない世帯、ひとり親世帯では学習の面において、やや不利な状況であることがうかがえます。

5 子育てについて

お子さんのことで現在悩んでいること（問 19）については、全体または全ての世帯区分で「子どもの進学や受験のことが心配である」が最も高くなっています。そのほか、貧困線に満たない世帯では「仕事や家事が忙しく、子どもに向きあう余裕がない」、ひとり親世帯では「しつけや教育に自信が持てない」と「仕事や家事が忙しく、子どもに向きあう余裕がない」などが高い割合となっています。

6 保護者の就労状況について

父親の就労状況(問 21)などについては、貧困線に満たない世帯では「父親はいる」が67.1%、「父親はいない」が32.9%となっており、全体（86.0%）と比較すると「父親はいる」世帯が18.9%低くなっています。また、「現在働いている」が91.8%、「現在は働いていない」が8.2%となっており、9割以上の世帯で「現在働いている」という結果になっていますが、「正社員・正職員」の割合が全体では約8割に対して、貧困線に満たない世帯では約5割にとどまっています。

母親の就労状況（問 21）などについては、「母親はいる」が全体で98.2%、貧困線に満たない世帯で98.6%となっており、全体、貧困線に満たない世帯ともにほとんどの世帯で「母親はいる」という結果になっています。また、貧困線に満たない世帯では「現在働いている」が86.1%、「現在は働いていない」が13.9%となっており、全体と同様の結果となっています。就業形態について、「正社員・正職員」でみると、全体が39.9%、貧困線に満たない世帯が38.7%となっており、全体、貧困線に満たない世帯ともに約4割の結果となっています。

7 子どものよりよい成育環境を実現するために必要なことについて

お子さんのために必要と思われる支援（問 24）については、全体または全ての世帯区分で「生活や就学のための経済的補助」が最も高くなっており、特にひとり親世帯では61.5%と高く、全体（40.9%）や非ひとり親世帯（37.0%）、さらには貧困線に満たない世帯（54.8%）をも上回っており、ひとり親世帯の「生活や就学のための経済的補助」へのニーズの高さがうかがえます。

また、身延町での子育ての環境や支援への満足度（5が最高）（問 30）については、全ての回答を平均化すると、非ひとり親世帯が3.19と最も高く、次いで全体が3.14、貧困線に満たない世帯が2.92、ひとり親世帯が2.84となっており、身延町での子育ての環境や支援への満足度は、全体や非ひとり親世帯では普通をやや上回り、貧困線に満たない世帯やひとり親世帯では普通をやや下回る、という結果になっています。

その他・自由意見等

問 8 現在利用している支援制度があればお答えください。

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
児童扶養手当	○	ひとり親世帯
就学支援金		非ひとり親世帯

問 14 お子さんの教育に関して心配なことは何ですか。

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
同級生のまとまりがない。先生の話が聞けない子がいっぱいいる。		非ひとり親世帯
理解力が浅い。		非ひとり親世帯
しっかりした塾が近くにない。		非ひとり親世帯
塾等が遠い。		非ひとり親世帯
学校の選択ができないこと。		非ひとり親世帯
まだ小さいためよくわからない。		非ひとり親世帯
欲がない。		非ひとり親世帯
いろいろな塾に通わせたい気持ちはあるが、お金もかかるし送迎する時間もない。		非ひとり親世帯
何を習うにしても遠くて送迎できない。		非ひとり親世帯
習い事を選択肢が少ない。		非ひとり親世帯
近所に習わせる場所がない。		非ひとり親世帯
教えてあげられる知識がない。	○	ひとり親世帯
授業、学校生活でのスマホタブレットの導入。	○	ひとり親世帯
塾の送迎ができない。近くに塾などの施設がない。	○	非ひとり親世帯
学校を無事卒業できること。	○	非ひとり親世帯
近隣に習い事の教室が少ない。		非ひとり親世帯
学校の授業がわかりやすいかどうか。		非ひとり親世帯
塾に通わせたいが、交通手段がない。	○	ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
塾等に通わせたいが遠方なこと。	○	非ひとり親世帯
いろいろさせたいが送り迎えをしなれない。		非ひとり親世帯
進学のための費用が心配。		ひとり親世帯
発達障害があるので、今後の進路が心配。		非ひとり親世帯
まだ小さいので何とも言えない。		非ひとり親世帯
近場にいい塾がない。		非ひとり親世帯
部活との両立が難しい。		非ひとり親世帯
通わせたいが送り迎えの都合がつかない。		ひとり親世帯

問 15 お子さんの進学に関して心配なことは何ですか。

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
まだわからない。	○	非ひとり親世帯
少子化。		非ひとり親世帯
希望している高校に入学できても、とにかく遠いので交 通費も時間もかかる。		非ひとり親世帯
通学時間が長い。		非ひとり親世帯
将来行きたいと思う学校が通える範囲内にあるかどう か。		非ひとり親世帯
通学手段、時間。		非ひとり親世帯
学校が近くにない。	○	ひとり親世帯
友人関係。		非ひとり親世帯
甲府まで遠い。		非ひとり親世帯
交通手段がない。	○	ひとり親世帯
通学の交通手段が乏しいため、選択が思うようにできな い。		非ひとり親世帯
支援学級などがあるかどうか。		非ひとり親世帯
まだ小さいので何とも言えない。		非ひとり親世帯
立地、通うのに時間がかかる。		非ひとり親世帯

付問 16 お子さんの食生活について何か心配なことがありましたらご記入ください。

	貧困線に満たない世帯	家族形態
仕事の都合で帰宅時間が遅い。そのため祖母に夕食を食べさせてもらっている。		非ひとり親世帯
食べ物アレルギーがあり、本人も神経質になっている。	○	非ひとり親世帯
野菜の摂取が少ない。		非ひとり親世帯
お菓子、ジュースは買わないようにしているが、同居しているので、祖父母が与えている。		非ひとり親世帯
好き嫌いがあり困っている。お菓子を夕食前に食べて、そのせいで食事が進まないことがある。寝る前におなかですいたということがある。		非ひとり親世帯
夜早く寝るが朝起きられず、朝食を作っても食べないで学校に行く日が多くあり、一口だけ食べていく日もあり、困っている。夕食はおかわりをする日が多く、よく食べてくれる。	○	非ひとり親世帯
好き嫌いが多い。		非ひとり親世帯
成長期なのに食事作りが心配。	○	ひとり親世帯
学校給食が美味しくないと言っている。第三者の検証や子どもへのアンケートが必要だと思う。学校給食は学校へ行く楽しみの一つであっていいと思う。		非ひとり親世帯
小食であること。		ひとり親世帯
好き嫌いによる偏食があり心配。祖母のお菓子の与えすぎで夕飯にひびく。		非ひとり親世帯
ペットボトルの甘い飲物を好んで購入しており困っている。せっかく作っても、出来合いのものを好んで食べる傾向があり、がっかりしてしまう。		ひとり親世帯
野菜をあまり食べない。		非ひとり親世帯
好き嫌いが多く、家ではまったく野菜を食べてくれない。学校等では食べている。		非ひとり親世帯
好き嫌いが多い。特に野菜はほとんど食べない。		非ひとり親世帯
やや食が細いように感じることもある。	○	非ひとり親世帯
祖母が作った食事を、子どもと祖父母でとっている。		非ひとり親世帯
一回に食べる量が少ない。		非ひとり親世帯
食べることは食べるが、時間が毎日バラバラになってしまう。朝も時間がなくなると少し食べただけで学校へ行ってしまふ。		非ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
食わず嫌いをする。家で野菜をあまり食べてくれない。		非ひとり親世帯
アレルギーがあるため心配。	○	ひとり親世帯
高校生だが他県でひとり暮らしをしているので、どのような食生活をしているか心配。自炊しているとは聞かぬが、栄養が偏っていないか、3食きちんと食べているかなどを心配している。		非ひとり親世帯
朝食を食べていかないこと。		非ひとり親世帯
祖父母、両親のいないところで、お菓子やアイスクリームを好きに食べている。注意しても伝わらない。	○	非ひとり親世帯
魚をあまり食べない。刺身は食べる。		非ひとり親世帯
偏食（特に野菜を食べてくれない）。甘いものやお菓子、菓子パンが好きでよく食べている（食事のとき以外に）。	○	非ひとり親世帯
現在は心配ではないが、ひとり暮らしを始めたら自炊等どうなるか心配。		非ひとり親世帯
苦手なものを食べない。固いものを避ける。肥満。		ひとり親世帯
夕食後に父親とつまみを食べるのが習慣のようになってしまっている（柿ピーや菓子類）。	○	非ひとり親世帯
朝起きないので朝ごはんを食べない。	○	ひとり親世帯
食べるのが遅い。		非ひとり親世帯
夕食が母と子の二人きり。食事のマナーのしつけ。		非ひとり親世帯
好き嫌いがあること。食べ物アレルギーがあること。		非ひとり親世帯
親が作ると決めつけないでほしい。祖父母が用意している家もある。いっしょには食べられるが、そんなに早く帰ってこられない。	○	ひとり親世帯
野菜が嫌い。	○	非ひとり親世帯
好きなものしか食べない。好き嫌いが多い。		非ひとり親世帯
食が細いが野菜はよく食べる子と、よく食べるが野菜が苦手な子がおり、それぞれ心配。		非ひとり親世帯
夕食の支度はしたりしなかったりする。きちんと食事をとる日と、菓子やパンを多く食べる日がある。		非ひとり親世帯
朝早いので朝食が軽食になってしまう。		ひとり親世帯
野菜や煮物類を食べず、肉やチーズ、ポテトといったものを好み、太っている。		非ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
給食がなくなってバランスが悪くなっていると思う。特に魚を食べることが少なくなった気がする。	○	ひとり親世帯
上の子が小食。もっとたくさん食べてほしい。		非ひとり親世帯
甘いジュースなどを飲みたがる。		非ひとり親世帯
好き嫌いが多い。		非ひとり親世帯
食物アレルギーのため不安。		非ひとり親世帯
食が細く、たくさん食べてくれない。		非ひとり親世帯
朝食食べるのが遅く時間がかかる。仕事、保育園に間に合わせるために怒ってしまうが、心に影響があるのではと心配になる。	○	ひとり親世帯
アレルギー項目にないアレルギー症状が出てしまい対応が難しい。	○	非ひとり親世帯
野菜が嫌い。		非ひとり親世帯
十分に足りているかが心配。栄養のバランス。	○	ひとり親世帯
生野菜、果物、乳製品を食べない。		非ひとり親世帯
帰宅してから就寝までの時間が短く、夕食は作ったものを娘がひとり、無言で食べている。いっしょに席についてあげたいと思うが難しい。	○	ひとり親世帯
偏食がひどい。		非ひとり親世帯

付問 18 子どもどうしのつき合い方についてほかに心配なことがありましたらご記入ください。

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
いじめではないが、そう感じる 때가ときある。自分の子どもではないが、気になるので毎日学校の様子を聞いている。		非ひとり親世帯
子どものことに親が口を挟みすぎ。		非ひとり親世帯
親の目や耳に情報が入らないことがある。子どもの心は親が思っているものと違うこともあると思う。		非ひとり親世帯
クラスに何もしていないのに蹴ったり叩いたりしている子がいる。先生は気が付いていないのだろうか。何度も目撃している。派閥もあり、クラスがうまくいっていないように見える。		非ひとり親世帯
周りに友だちがいない。	○	非ひとり親世帯

	貧困線に満たない世帯	家族形態
学習しないことを理由にからかわれたりする。		非ひとり親世帯
ゲームもスマートフォンも中学生で与えないことは、子どもも理解しているし、やっている時間もない。		非ひとり親世帯
統合により友だちづき合いの範囲も広がっているので、親の目が行き届かないこともあると思う。ダメなことや決めごとはしっかりとした方がいいと感じる。	○	ひとり親世帯
小学生の間でもいじめがあると聞いている。		非ひとり親世帯
子ども自身は携帯電話等を持ちたいようで、みんなも持っていると言っているが、現段階で買い与えるつもりはない。話題に入れなくなるかもしれない心配はある。		非ひとり親世帯
まだ保育園児のため特に心配していない。		非ひとり親世帯
問題が多く困っている。内緒話や「死ね」などの暴言を本人に聞こえる場所で言っている。いじめだと感じるが、いじめをしている子どもの親は何も知らないようで、このままではエスカレートして何か起きてしまうのではと心配している。担任にも話しているが、子どもたちに伝えると言うだけで、子どもたちにこの大変さが伝わっておらず、学校に行きたくないと言う子が増えている。		非ひとり親世帯
恋愛。	○	ひとり親世帯
今は携帯やスマホを持っていなくても不便ではないが、いずれ持つことになる。そのときの上手なつき合い方や、学力の低下などが心配。		非ひとり親世帯
オンラインゲーム等で特定の友だちとつながってゲームばかりしている。平日はしないようルールを作っているが、守っている様子がなく、本人に話しても言うことを聞かない。友だちの保護者に話して協力してほしいと考えている。		ひとり親世帯
子どもどうし、仲間外れ等もあるみたいだが、親はサポートする程度で、何かあったからといって親が出て行かず、子ども本人で解決させたい。		非ひとり親世帯
近場に自由に遊べる友だちがいないため、家にこもりがち。人数が少ないため、意に反したとしても流されることが多い。	○	非ひとり親世帯
現在はゲーム、スマホを持たせていないが、今後持たせたときの心配がある。		ひとり親世帯
夜中にタブレットで友だちと通信していること。		非ひとり親世帯

	貧困線に満たない世帯	家族形態
野菜より肉類を多く食べる。お菓子、ジュースを食べながら、ごはんを食べる。	○	非ひとり親世帯
小学生でもほとんどの子どもが、ゲーム機やスマホを持っていること。我が家では持たせるつもりはないが、他の子が心配。		非ひとり親世帯
家族との時間はあるが、外食や旅行がほぼなくなり、話すことがほとんどなくなったので、人と接することや話すことができるのか心配になることがある。社会に出たときに、その生活に慣れることができるか心配。		非ひとり親世帯
高校進学するとき、趣味実益を兼ねた学校に進学したので、同じ趣味や学ぶ方向性が同じ友人ができ、心配なことは多くあるが、学業に関しても友人とのつき合い方についても、子どもを信用している。		非ひとり親世帯
経済的な理由もあり、スマホを持たせておらず、家族で共用しているがほとんどの子どもが高価なものを持っている。スマホがないと友人関係が保てないような環境ができあがってしまっている。ケンカも仲直りもLINEでやるなど、このまま大人になっていいのだろうかと思う。	○	ひとり親世帯
授業をわかりやすくしてほしい。		非ひとり親世帯
同級生との遊びにうまく入れない。人見知り。	○	非ひとり親世帯
イオンに行くとゲームセンターや食事にお金を使いすぎる。		非ひとり親世帯
ゲームばかりしていること。		非ひとり親世帯
小中学校の頃は友だちどうしの関係で悩むことが多かった。今はいろいろなことに免疫ができ、あまり動じず自分の立ち位置がつかめてきたように思う。		非ひとり親世帯
ケンカになると叩いてしまう。自分のやりたいことなど、気持ちを言えているのかが心配。		非ひとり親世帯
同性の同級生が少ない。近所に友人がいない。		非ひとり親世帯
統合してからいじめられている。	○	ひとり親世帯
近所に子どもがいない。	○	非ひとり親世帯
近くに友だちがいないので、遊びに行くのに親の送迎が必要になる。		非ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
ゲーム依存が激しいが、それがないと話についていけない面もあり、学力面や精神成長面への影響が心配。人間関係を考えると、機器の排除もできない。		非ひとり親世帯
人数が多くなればいいというわけではないと感じている。		非ひとり親世帯
仲間に入りたくても、入れてと言えないことがある。走るのが遅いと言われてから、外で遊ぶのが苦手になった。		非ひとり親世帯
学校が統合してからのいじめ。いじめのアンケートを無名でしてほしい。相談しても学校の対応が悪い。	○	ひとり親世帯
時間管理ができていないのでゲーム機を買い与えていないが、子どもたちが学童や公共の場でゲーム機を使用するため仲間に入れないことがある。遊ぶときも外遊びではなく家でゲームをすることが多く、いっしょにいないといけないので遊ばせることができない。		非ひとり親世帯
小学校が合併して友だちが増えたのはいいことだと思うが、その分行動範囲が広がって、子どもどうして行き来できず、親の送迎が必要となり面倒に思うことがある。		非ひとり親世帯
保育園から中学校まで同じメンバーの中で育つので、力関係がすでにできてしまい、保育園での立場が大人になっての性格につながってしまう。保育園の先生も同じ方なので、保護者の立場で子どもへの対応が違うように感じる。一度悪いほうへ流れると、少人数なので修正が難しい。	○	ひとり親世帯
乱暴な子が多くてやられて帰ってくることもあり不安。その親はまったくわかっていない。	○	非ひとり親世帯
いじめの子がいる様子。自分から仲間の輪に入ることが苦手。		非ひとり親世帯

問 19 お子さんのことで現在悩んでいることがありますか。

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
友だちとうまくつき合っているのか。		非ひとり親世帯
何かを新しく始める（習い事など）気持ちが高まらない。		非ひとり親世帯
テレビゲームばかりで学習に気持ちが向かない。		非ひとり親世帯
歯並び		非ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
子宮頸がんワクチンを接種してしまったため心配。それが原因かわからないが体の痛みを訴えることが多い。	○	ひとり親世帯
中学に入学してから病気をしたので今後も心配。		非ひとり親世帯
悩みはそのときどきで変わっていくもの。項目のような悩みはあったが年齢とともに変わっていく。	○	非ひとり親世帯
同年齢の友だちが、過疎、少子化で少なすぎる。	○	非ひとり親世帯
同居をしていると親と祖父母で教育の仕方が違い難しい。		非ひとり親世帯
姿勢が悪い。		非ひとり親世帯
学校でのいじめ。	○	ひとり親世帯
夜道のひとり歩き。		非ひとり親世帯
学校が遠い。		非ひとり親世帯
友だちとのつき合い方。		非ひとり親世帯

問 20 子育てに関する相談に関して困っていることがありますか。

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
担任に相談してもよくなる。		非ひとり親世帯
ママ友が少ない、交流が少ない。	○	非ひとり親世帯
相談はしても、具体的な解決策がない。		非ひとり親世帯
相談をしたいが周りがいろいろ自分たちのことを知っているので相談しづらい。		非ひとり親世帯
守秘義務を守ってもらえるかどうかわからない。知っている人には相談したくない。		非ひとり親世帯

問 22 保護者が困っていることは何ですか。

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
帰宅時刻が遅いため、いっしょに夕食を食べられない。		非ひとり親世帯
仕事の時間が長いこともあり、塾等の送迎の厳しいときがある。		非ひとり親世帯
収入が少ない。		ひとり親世帯
子どもがまだ小さくて手がかかる。		ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
勤務先が遠い。		非ひとり親世帯
仕事が忙しく、子どもとかかわる時間がない。	○	非ひとり親世帯
残業のときに子どもだけの時間がたくさんあるので心配。	○	ひとり親世帯
子どもが熱を出したりすると休みづらい。		非ひとり親世帯
残業しなくてはならないとき、子どもを待たせるしかない。		非ひとり親世帯
フルタイム勤務を希望しているが、子どもの急なお迎え（熱やケガ）に対応できなくなるため働けない。	○	非ひとり親世帯
今は両親と住んでいるので、子どもの面倒をみてくれているが、両親も年のためいなくなったら仕事の時間なども考えなければならない。		ひとり親世帯
医療費、支援制度の、収入が一律の基準の現行制度は問題があると思う。他の支援はなくても医療費の支援はしてほしい。		非ひとり親世帯
子どもの習い事の送迎と仕事のやりくりが大変。		非ひとり親世帯
収入が少ないのに働きに行けない。	○	非ひとり親世帯
働く場所が遠く、通勤距離が長い。車のローンが終わらないうちに次の車の心配をしなければならない。	○	ひとり親世帯
給料が安い。	○	ひとり親世帯
現在の職場が天候で左右されるので収入が安定しない。自宅から近いところで転職を考えているが条件の合うところがない。	○	ひとり親世帯
勤務地まで遠いため、帰宅時間が遅くなる。	○	非ひとり親世帯
仕事で親族もいないので、長期休みに友だちの家（車がないといけない）に遊びに行けない。		非ひとり親世帯
収入はほしいが、親の世話もあり子どもの行事や、急に学校から帰るときの迎えや、自分の体調が悪くなることもある。頑張っても収入を増やしても、翌年の税金で増した分が出て行ってしまうことに疲れが増す。	○	非ひとり親世帯
病児保育を頼みたいときがあったが、開始時刻が8:30受付だったので、それでは仕事に間に合わずお休みをとった。		ひとり親世帯
父親は正社員になりたいと思う。	○	非ひとり親世帯
忙しい。		非ひとり親世帯
他の親とのつき合いがないため、色々な情報が入らない。	○	ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
子どもが病気にかかりやすかったり、身内が病弱であったりするため、なかなかフルタイム等の勤務に就く自信がない。		非ひとり親世帯
経済的に厳しいが、体力がなく仕事以外にアルバイトをしたいが難しい。		ひとり親世帯
母ひとり分の給料では余裕もないが、さらに将来の不安でどうすればいいかわからず、答えのない問題に常に悩まされている。	○	ひとり親世帯
子どもと接する時間を増やしたいができない。		ひとり親世帯
共働きで帰宅が遅くなってしまうこと。		非ひとり親世帯
仕事がフルタイムで子どもと向きあえる時間がなかなかとれない。		非ひとり親世帯
ベースアップや賞与がまったくないため今後の生活が不安。	○	ひとり親世帯
介護をしているので働く時間がない。		非ひとり親世帯

問 23 お子さんがこれから大人になるまでに心配なことがありますか。

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
どのくらいお金を貯めてあげられるか。		非ひとり親世帯
自立して親に心配をかけないこと。		非ひとり親世帯
地元に戻ってくるか。	○	非ひとり親世帯
自立できるか。近くに祖父母がいるので、私と子どもとでゆくゆく介護や看取ることができるか。	○	ひとり親世帯
まだよくわからない。		非ひとり親世帯
いじめ問題。		非ひとり親世帯

問 24 今後、お子さんのために必要と思われる支援はどのようなことだと思いますか。

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
高度な学習への支援。		非ひとり親世帯
子どもが多いので、せめて高校まで無料化してほしい。		非ひとり親世帯

	貧困線に満たない世帯	家族形態
交通機関の利便性をよくする（バスの本数増加）。地元が好きになり大人になっても地元で暮らしたい、または暮らせるような支援。町外に移住するのを防ぐため、学校の制服、ジャージ、文具など、おさがりを共有するシステムづくり（みんなで学校関係のものをシェアする）。	○	ひとり親世帯
学生は無料で、トレーニングジムを作ってほしい。		非ひとり親世帯
支援を受けるため、その場所へ子どもが自分で行けるような支援がほしい。交通手段はほとんど親によるものなので、自立するためにも自分でできるようにする支援がほしい。親もそのための時間を作るのが難しく、子どももいい出せず相談に行けないことがあると思う。車や自転車がない人もいる。	○	非ひとり親世帯
仕事に関する知識を得られる機会の提供。		非ひとり親世帯
習い事の幅が狭い。ここの地区は少ないのでもっと多様化してほしい。		非ひとり親世帯

問 25 お子さんのための必要な支援を受けられるようにするために重要だと思うことは何ですか。

	貧困線に満たない世帯	家族形態
様々な困りごとなどを相談できる総合窓口を作り、どこに行けばいいかをわかりやすくし、相談内容によって各担当で連携して支援するような仕組みを作る。		非ひとり親世帯
確実にプライバシーが守れる相談体制の確保。		非ひとり親世帯
わからない。		ひとり親世帯
手当を受けるにあたり、仕事を休んで手続きに行かなくてもいい方法（例えば、学校や職場を通して等）を、わかりやすく情報提供してほしい。土日休みでない人もたくさんいるため。		ひとり親世帯
習い事等を送迎しなくても学校（場所）で行えるサービス（そろばん、習字、英会話、空手、柔道、剣道、サッカー等）を作り、学校でプリント配布して周知させる。		非ひとり親世帯
全員が受けられる支援は自動的に受けられるようにする。	○	非ひとり親世帯
何でもスマホ対応になり、携帯（ガラケー）での対応がなく情報がみることができない。	○	ひとり親世帯

	貧困線に満たない世帯	家族形態
子どもと行政や民間企業が意見交換でき、職場見学できる活動を企画及び充実させる。		非ひとり親世帯
相談窓口等の利用が土日に行けるといい。	○	ひとり親世帯
老人から若者へとシフトしていくこと。		非ひとり親世帯

問 31 身延町のすべての子どもが夢や希望を持って成長できる環境を整えていくために今後取り組むべきことについて、何かご意見がありましたら記入してください。

	貧困線に満たない世帯	家族形態
習い事が近くにあるととても便利。住むところももう少ししっかりしたほうがいい。住宅や宅地分譲をもっと多くしたほうが、身延町に人を集めることができる。子どもが将来戻ってこられる町にしてほしい。家を建てたくても建てられないというのが現状。		非ひとり親世帯
よい教師を増やしてほしい。		非ひとり親世帯
親や子どもが経済的にだけでなく、時間的にゆとりを持って生活していくことで、やさしく穏やかな生活環境ができると思う。そのための取組を推進していく必要がある。		非ひとり親世帯
本当に貧困な家庭には、安心して生活できる環境づくりをしてあげてほしい。母子家庭なのに、とても裕福そうな生活を送っているように見える親子をみる。母子手当はそんなにたくさんもらえるものなのか。また、中学校の給食の量が少ない。成長期に満足な食事がとれないのはかわいそう。特にパンのときは少なすぎると思う。		非ひとり親世帯
子どもたちだけで行ける公園、金川の森のような場所があったらいいと思う。雨でも遊べるように、土日に体育館（小学校）開放でもいい。		非ひとり親世帯
笑顔はとても大切だと思う。子育てを楽しめるようにしたい。		非ひとり親世帯
若い人が働ける場所を作ること。それに伴い、若い世代がこの土地で子育てし、永住してくれるようになると思う。		非ひとり親世帯
塾に通わなくても学力が身につく授業。いじめや嫌がらせをみてみぬふりをしない教師の育成。		非ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
高校、大学進学に向け、生徒本人や家族の意思だけでなく、生徒の学校（やる気、成績等の情報提供）と連携した無返済型の資金援助制度を設け、貧困の連鎖を防ぐ。援助制度の確立も重要だと思う。明るい未来ある子どもたちの育成のために、身延町としての助成、協力をしてほしい。		非ひとり親世帯
少子化、過疎化は理解しているが、小中学校への通学の利便性を考えたとき、定住ということに躊躇してしまう。住宅事情に関して、町営、県営住宅はあるが、入居には条件があり、収入の関係で申込みすら断られた。民間のアパート等もなく、子育て世代が気軽に引っ越してこられる状況とは程遠く感じる。学校周辺の住環境整備、またそのアピールと誘致が重要だと思う。		非ひとり親世帯
子どもたちの意見もしっかり聞き入れてほしい。統合の際にも話を聞いてくれないとショックを受けた子どもたちがいる。町全体で子育てをするというのであれば、親だけではなく町政にかかわる方々にも、子どもの意見にも向きあってほしい。	○	ひとり親世帯
身延町で大人になってからも住めるように雇用を確保する。そのための企画誘致など、将来身延町に若者が戻ってこられるような雇用環境の整備をしてほしい。		非ひとり親世帯
身延町は保育園二人目無償など、様々な面でもサポートしていただき感謝しているが、税金が高いと感じており、児童手当もほとんど税金でなくなってしまう。自営業のため厳しく感じているので、今後は税の面でもサポートしてほしい。また、習い事をさせたくてもお金がかかったり時間がかかったりする。甲府方面や静岡方面へ行かなければならない。身延での就労、財源の確保に力を入れていただき、子どもたちがいろいろな体験をできる機会が持てる場を積極的に作ってほしい。子育てしやすい町にしてほしい。		非ひとり親世帯
交通の便をもっとよくする（バスをもっと子どもが使用する時間帯の便を増やす）。誰も乗っていない時間の運行をやめ、子どもたちにあわせる。朝と帰りの時刻の本数を増やしてほしい。	○	非ひとり親世帯

	貧困線に満たない世帯	家族形態
まずは町の職員が、住みたい町にするには、若者が残るにはどうすればいいかを考えてほしい。小中学校が子どもの人数が少ないからと縮小するのはいいが、どう考えても今後の対策を考えてのこととは思えない。使用しなくなった小中学校の活用も考えているのであれば、グラウンドの草や遊具をきちんと管理してほしい。		ひとり親世帯
望まない妊娠をしない教育を早くから行うべき。		非ひとり親世帯
医療費、教育費等を無料化していただき助かっている。子どもの数も減っているようで、問題も多くあると思うので、地元で学校（高校）に行くような魅力あるものにしてもらいたい。進学は家からというわけにはいなくても、いずれ就職では、地元に戻れるような魅力ある町であってほしい。		非ひとり親世帯
子どもが小さいうちは小児科へかかることが多い中、受信できる日が限定されていたり、遠かったりと不便。医療制度の向上に期待したい。		非ひとり親世帯
ひとりでも多くの若者が定住して子育てすることが大事。住みたいと思える町にしないと、町外に出て行ってしまう。様々な特典があることも魅力の一つにはなるが、子育て環境だけではなく、生活全てにおいて、環境を整えてほしい。		非ひとり親世帯
学校が終わってから、無料か低額で勉強を教えてくれる場所があると助かる。学校から帰っても、テレビゲームばかりして、学習する習慣がなかなか身につかず困っている。勉強を教えてくれる、テレビゲームから離れる環境があるといい。		非ひとり親世帯
忙しい親は子どもと向きあう時間がなかったり、習い事をさせてあげられなかったりと、子どもに対して負い目を感じていると思う。学童を利用して、日替わりで習い事教室（有料）をすればいいと思う。		非ひとり親世帯
他町に比べ手厚い支援がされていると思う。これからも子どもたちのために、活気ある町づくりをしてほしい。		非ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
若者や子どもが住みやすくするため、若者たちの声に耳を傾け、地域に何が必要か考えてほしい。子どもが減っても小学校はなくさないでほしかった。学校までの距離が遠くなり、子どもが具合が悪くした際に迎えに行くにも大変になった。高齢者に手厚い支援をすることもわかるが、子どもや若者も大切にしてほしい。働ける場所の誘致をし、若者が住みやすい環境にして、子どもを増やしてほしい。まずは役場職員が町内に住み、見本を示してほしい。	○	非ひとり親世帯
医療費無料化など子育て世代への手厚い支援は有り難いが、学校の統廃合により地域に学校がなくなったことは致命的であり、子どもや子育て世代が将来的にこの地域に住むことは考えにくい。		非ひとり親世帯
ひとり親世帯の親の就職斡旋が必要だと思う。子どもが具合の悪いときにすぐに迎えに行けるよう、町内に働く場所を増やしてほしい。		ひとり親世帯
学校等が少なくなり、学校でみんなで遊ぶことがなくなって孤立した感じで、家にいても大人は仕事なので寂しい思いをしていると思う。ゲームやTVをする気持ちがわかる。子育て環境は悪くなった。仕事をやめるわけにもいかないの、このままゲームやTVで寂しさをうめる方法で育てるしかないのかと思う。	○	ひとり親世帯
学童保育に助けられている。日祝の開所をしてほしい。		ひとり親世帯
子どもの教育の基本は親の考え方だと思う。親の考え方が不適切で墮落していると、負の連鎖があると思う。夢や希望のある子どもを育てるためには、親の教育が重要であると思う。親の教育をどう行っていくかが大きな問題だと思う。		非ひとり親世帯
小児科が常にあるといい。夜間急患で子どもをどこへ連れていけばいいかわからない。子どもの医療が充実しないと、身延町に住んで複数子どもを持つのは難しい(特に核家族や片親家族)。		非ひとり親世帯
安心して過ごすことのできる場所があること。生活に不安を感じないこと(経済的支援等)。		非ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
母子家庭で町内に身内がおらず、子どもとの時間を優先させ、仕事の時間を削らなければならない。働けず貯金ができず、子ども手当や母子手当と少しの貯金で部活のユニフォームを買わなければならない。そんな生活をしているシングルマザーは多くいると思う。シングルマザーが働きやすい職場が町内に少なすぎる。働いた分、持っていかれる税金も多く、年収が200万に満たないような家庭からの税金はもう少し考えてほしい。		ひとり親世帯
中学校をあんな端で危険な場所ではなく、下山あたりになぜ新設しないのか不思議。公舎も古く、災害が起きたときに、場所的にも建物的にも無理を感じる。子育てしていない世代違いの方たちが、子育て支援や教育委員会にいても仕方がないと思う。		非ひとり親世帯
小児科、皮膚科など医療が充実してほしい。色んな職業体験（見学）ができるといいと思う。子育て世帯への低賃金での空き家貸出し。空き家をリノベーションして借家にすれば人も来ると思う。		非ひとり親世帯
教育もスポーツも都会の子どもたちと同等の機会を与えてあげたい。学習塾、部活動などの選択肢が少ない。子どもの数が少ないと、これら事案を解決できないように思える。過疎化を止めること、若い人が働ける場所を確保し、子どもの数を増やす施策が喫緊の課題。町内みんなでよい考えを出し合って進めたい。		非ひとり親世帯
中学校が遠すぎる。	○	ひとり親世帯
将来への選択肢は多いほうがいいと思う。どんな道に進むかは本人次第。保護者が学生時代学んでよかったと思ったものを、子どもにも体験、学習してほしいと思う。習い事もさせたいが、仕事が忙しく送迎する時間がない。町内にそろばん教室や、子どもがもっと英語を身近に感じられるイベントや教室があればと思う。	○	ひとり親世帯
子育て支援も必要だが、出産時の支援をもっと充実させれば、少子化も少し改善されると思う。		非ひとり親世帯
子育て支援。		非ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
発達障害の疑いがある子に対し、園や学校から町を通し積極的に療育、治療、支援を行う体制づくり。少人数クラスで学校が成り立たない状況はよくないと思う。ひとりの子のために、他の子の教育の機会がなくなることも、問題のある子が適切な教育を受けられないことも不幸。また、家庭に問題があり、通園や通学ができない子に対し、適切な教育が受けられるよう、町の方が訪問し、問題の解決ができるよう力を入れてほしい。		非ひとり親世帯
働く母親が多い中、習い事、学童の送迎が大変なので、各種習い事を学校の中で済ませられないか。校舎を借りて、習字、そろばん、英会話、スポーツ等の先生に来てもらい、各種教室を開いてほしい。また、バスの便を充実させて、バスでの通学、あるいは仕事終わりに保護者が迎えに行けるシステムづくりができないか。学校で習い事をさせてもらえれば安心できるし、仕事と家庭の両立もでき、教育の機会が充実していると移住する人もいると思う。		非ひとり親世帯
義務教育である中学校について、登下校に親が送迎しているという話を聞くが、共働きをしているとそれが難しく感じる。そういう負担がかからないようにしてほしい。		非ひとり親世帯
子どもがいる新しい家族が移り住むくらい魅力ある町にしてほしい。特に未就学児、小中高生にとって、教育環境がいいということを前面に出した支援等を充実させる。		非ひとり親世帯
習い事がいろいろあって、選択肢が豊富であってほしい。学校が終わった後すぐに習い事へ行けるように送迎があると、フルタイムで働けるし、安心もできるので町で運営してほしい。習い事がきっかけで、体も鍛えられ、将来への選択肢も広がると思う。	○	非ひとり親世帯
子どもたちが遊ぶ機会が少なく、働いていないと学童に行けないので、学童へ毎日行く子、行かない子で輪ができてしまっているように見える。同級生で遊ぶ時間を持たないと、クラスで仲良くやっていけるのか、話についていけるのかが心配。		非ひとり親世帯

	貧困線に満たない世帯	家族形態
子育てが終盤になり、子どもが県外や町外へ行くことが多くなっている。学校を卒業後、町に戻れるような仕事があれば、親や祖父母の元で生活し、結婚し、子育てするというサイクルができると思う。通学にも時間がかかり大変なことが多い。中部横断道ができることで、企業誘致などをしないと、ますます人口が減ってしまう。若い親が住みやすいと思える町にしてほしい。空き校舎の利用、コミュニティの場、外国人の宿泊施設、企業研修の場、イベントの開催、郷土料理教室、土地の安売りなど。	○	ひとり親世帯
子どもが夢や希望を持って成長できる環境であるかと言えば、我が家にとってはいい環境とは言えなかった。		非ひとり親世帯
中学校を町の中央に置くべき。保護者が送迎しないと活動できないことが多い。保護者や地域住民が、学校生活にもっと目を向けるような取組があるといい。大人になったときに地元に残ってくれる子どもがいるのかという不安がある。町外から子育て世帯が多く移住してくれるような、魅力ある町づくりをしてほしい。	○	ひとり親世帯
現在の子どもたちへの支援は充実していると思うが、子どもが中学入学時に、入学準備金をもう少し早くもらえればと思う。制服代も高いので、早めの対応をしてほしい。		非ひとり親世帯
子どもが安心して生活できる環境を整えてほしい。歩道や街灯がなく、不審者も出ているため不安。不審者が出た際には情報提供をしてほしい。	○	非ひとり親世帯
学校教職員の資質の向上。役所の担当の専門知識、対応の仕方等の向上。	○	ひとり親世帯
必要以上に資金の援助がある。町内に定住し、働いて税金を納めている人に援助をまわしたほうがいい。定住する人がいなくなり、税収も減り、子どもへの支援もできなくなる。		非ひとり親世帯
近所に子どもがいなくてかわいそう。クラフトパークは大きすぎるので、公園を作ってほしい。月に1度でいいので、身延駅からイオンまでのバスを予約にして出してほしい。中学校への通学が、雨の日や寒い日大変なので、スクールバスを出してほしい。身延高校も駅から遠いので、学生は100円でバスに乗れるようにしてほしい。		非ひとり親世帯
町内に仕事があること、住める家があること、交通手段があること、税金が安いこと。	○	非ひとり親世帯

	貧困線に満たない世帯	家族形態
保育所、学童ともに先生方が信頼できる方ばかり。急なお願いにも快く応じてもらっている。病児保育の体制も整っていると思う。台風のと看など、学童も休みで困ることがあった。祖父母にみてもらえない家のために、ファミリーサポートが必要だと思った。		非ひとり親世帯
教材等、公費で賄ってもらえるものが増え助かっている。家でできないことを、たくさん体験させてもらえたらいいと思う。		ひとり親世帯
インフルエンザ予防接種の無料化。近くにいい病院がなく、遠くまで通うのが大変。身延山病院は時間が限られていて不便。児童館に家にないような大きな遊具を置いてほしい。		非ひとり親世帯
小中学校の廃校を子どもたちに利用できないか。料理教室、レクレーション、体験型の施設など。		非ひとり親世帯
医療についても触れてほしかった。週3日2時間ずつの小児科のみでは、急な高熱やアレルギーなどの救急時に不安を感じる。今使っているお金をもっと小児科開院等に使ってほしい。救える命すら救えないのが今の身延町の小児科体制だと思う。		非ひとり親世帯
教育に関することは全て無料になるといいと思う（給食費等）。保育料も高いので、半額になるとかなり助かる。児童館、中学校が身延は遠いので、下山あたりになるといいと思う。		非ひとり親世帯
以前より子どもにやさしいまちになった。色んな制度があり、町のバスが高校生無料など通学に助かっている。高齢化について子どもも不安に感じているように思う。町内に企業誘致するのが難しければ、交通費を出すなどして通勤しやすくし、町外へ引っ越す人を減らす。文化会館の映画上映をもう少し増やしてほしい。		非ひとり親世帯
若者が住む町ではない。車で1時間近くかけないと買い物もできない。子どもにいろいろな体験をさせてあげられない。子育てするには魅力がなさすぎる。国道52号線しかなく何かあるとすぐ渋滞する。子どもにも身延町で就職しろとは言えない。働く場所が近くにない。現状両親ともに1時間以上かけて仕事に行っている。こんな町には住みたくない。	○	非ひとり親世帯
特大スポーツ公園の建設。生活や就学の経済的支援の充実。		非ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
身延中学校を町の中心に置き、新しくきれいな環境にしてほしい。甲府市内の高校に通って、幅広い地域の友だちと交流ができるように、通学しやすい支援がほしい。		非ひとり親世帯
子どもは、バイクや車の免許をとるまで、交通手段がない。通学、塾、習い事、遊びなど、どれも不自由で、その中での行動となると心配も大きい。	○	ひとり親世帯
医療機関の充実(いろいろな診療科、夜間や休日の対応)。	○	非ひとり親世帯
働いても、町民税や県民税など、税金の支払いが多く生活に支障を来たす。		非ひとり親世帯
自宅近くの小中学校が閉校して残念。小中学校のときは慣れた地域への学校へ通わせてあげたかった。		ひとり親世帯
小児科、産婦人科の設置、企業の誘致、観光誘客、身延山クラフトパーク周辺の商業施設の充実。		非ひとり親世帯
休日、子どもどうして遊ぶことができない(近所に子どもがいない)。休日、子どもどうしがかわれる場所を作ってほしい。		非ひとり親世帯
子どもに対する税金の使い方をもっと考えてほしい。		非ひとり親世帯
中学まではバスがあるが、高校になると交通手段が乏しくなり親の負担が増えるため、先を見据えて町外に転居する方が多い。高校への通学のサポートも必要だと思うが、町内の高校ではレベルが低く感じる。いろいろ諦めて進路を決めるのではなく、自主的にやりたいと思って決められる進路を問題なく歩めるような環境整備をしてほしい。		非ひとり親世帯
医療の面では、病院はないが子どもに対していい環境だと思う。役場に相談したいことがあっても、顔見知りばかりで相談できないと思う。	○	非ひとり親世帯
次世代の転出をどうすべきかを考える。今後、若者への負担が大きくなることが目にみえているため、子どもたちが身延ですっと生活していくことに不安を感じる。核家族が増えているのでファミリーサポートが必要だと思う。安心して子育てできる環境が必要。人が増えることはないと思うので、残された人の負担を減らす施策を考えてほしい。		非ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
定住してもらえそうな環境づくり。中部横断道ができるため、コストコやアウトレットなど集客できる環境を作り、魅力ある町づくりをしてほしい。合併に伴い、旧中高、旧下部地区の子どもには通学バスがあるが、旧身延地区にはなく、親の送迎が必要な状況（子どもが少なく、ひとり歩きをさせるのが不安なので送迎になる）。		ひとり親世帯
人口増加、職場増加、居住整備、道路の安全整備、山間部の利用と整備。		非ひとり親世帯
保育料を無料にしてほしい。		非ひとり親世帯
祝い金制度が充実しているといい町だと思う。この制度を他地域の人に知ってもらい、人口増加につながればいいと思う。妊娠中の母親学級がないので、あると安心すると思う。		非ひとり親世帯
子育て環境がないというより、安定した雇用や収入がない。また、道路環境が悪く、一定量の雨で通行止めになる。交通手段が車しかない状況で不便な地域だと思う。	○	非ひとり親世帯
個人情報や、内緒にしてほしいとお願いしたことがもれて広まってしまうことがよくあり残念。子どものことや家族のことを相談したくても、外にもれたことがあるので相談しづらい。		非ひとり親世帯
塾や病院（小児科）などが充実していない。塾や病院へ行くにも車に乗らなければならないので、道路整備や電車がすぐに止まることがないようにしてもらいたい。		非ひとり親世帯
スポーツ施設があるといい（例えば、南部町のアルカディアのような）。町内にプールがなく、他町まで通うのが大変で続かない。クラフトパークの中に、プールやトレーニングジム等ができればいいと思う。		非ひとり親世帯
教育に関して、大切にしてくれる町だと思う。医療費なども子育て世代としては有り難い。ただ、若者が働ける場所がないので、残りたい若い世代も都会へ行かなければならない。子どもの夢や希望を実現できる場があればいいと思う。		非ひとり親世帯
子どもが大きくなっても、この町に住みたいと思うような魅力的な町にしてほしい。		非ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
参加型のイベントが多いと感じている。ひとり親家庭なので、いろいろな体験ができて助かっている。ただ、両親と同居しているため、手当や控除など全て受けることができない。同居していると言っても、親からの援助があるわけでもないの、生活費などが大変なことがある。同居をやめるには仕事の状況から不安でできない。住みやすい町とは、働く場所のあるところ、買い物しやすいところ、老後のケアがあるところだと思う。	○	ひとり親世帯
学童保育の場を使って、引退した先生、塾の講師などお願いして、放課後塾を希望者に無償提供してほしい。塾の時間に合わせてお迎えに行くことも可能にしてほしい。しっかりしたカリキュラムを組み、身延町全体の学力を上げてほしい。		非ひとり親世帯
手厚く支援してくれる町だと思うが、将来のことなど不安なこともあり、さらに多様に充実させてほしい。	○	非ひとり親世帯
子育ての援助や支援があまり知られていないので、広報への掲載、子どもの支援に関する制度をまとめた紙を配るなどしてほしい。チャイルドシートの貸出しの際、取り付け方がビデオテープで配布され驚いた。もうビデオ再生機器を持っていない家が多いと思う。保育園の運動会のお知らせが来たが、一番近くの保育園にしか行ってはいけないのかと思った。お知らせが来ていない家もある。送る先、送らない先があるのは不平等に感じる。図書館と児童館が遠くて行きづらい。旧中富や旧下部どちらかに児童館を開放してほしい。また、お話会と児童館はなぜかイベント時間がかぶっていることが多い。誘ってもらっても片方しか行けず、申し訳なく感じる。		非ひとり親世帯
学校以外での社会とのつながりの場、趣味（校外学習）、勉強以外での体験教室。		非ひとり親世帯
公共交通機関の充実。		非ひとり親世帯
医療費の助成や児童扶養手当など、18歳までではなく大学卒業まで援助してほしい。また、児童扶養手当の支給額の減額を決める年収額の見直しをしてほしい。満額支給される年収額が58万なのは余りにも低いと思う。貧困の連鎖を少しでもなくすために、十分な教育が受けられるように、高校、大学と進めるよう支援してほしい。	○	ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
<p>峡南地域に就労できる会社があること。町内や近いところに働く場がなければ、将来の家庭や自分自身について夢を描きにくい。両親だけでの子育ては大変で、落ち着いた子育てをするのは難しい。安定した家庭を築ける地域環境が大切だと思う。田舎でも不自由なく、田舎だからいいと思える環境が作れるといいと思う。</p>		非ひとり親世帯
<p>地域の子どもたちが雨天でも安心して遊べる場所（体を動かせる場所）等があればいいと思う。体育館やプール等、町内の子どもが休日に利用できる場所がほしい。</p>	○	ひとり親世帯
<p>学校までの交通の便が悪い。高校、その上の学校に行くときに不安がある（スクールバスなし、駅まで遠い等）。子どもが学びたいことが近くで学べない。習い事をするために町外に行く必要があり、大きな市との違いがある。このようなことが支援してもらえ環境になってほしい。</p>		非ひとり親世帯
<p>無理な自然保護はやめ、スモールタウン化し、山間の集落を減らし、合理的な町にしてほしい。開発すべき開発はして、天然財産は守るべきだと思う。</p>		非ひとり親世帯
<p>国保が高い。もう少し安くなったら、もう少し子どものことに使えるのと思う。</p>		非ひとり親世帯
<p>何でもいいので全国一位のものを作る（合唱、スポーツなど）。それを目当てに移住してくる人がいればと思う。学校教育に特色を出す。少人数なので英会話など力を入れやすいのではと思うので、交換留学などを積極的に行い、費用を援助する。学校の校舎を建設するのもいいが、ひとり一台楽器を無料で支給し、授業として行えば習い事をさせられない家庭でも、子どもの可能性を伸ばせるのではと思う。また、家庭での会話も増えると思う。若い人が住むには安い借家が必要だと思う。中部横断道が開通すれば、通勤圏が広がるので、町外に向けて安価な住宅をアピールしたらいいと思う。</p>		非ひとり親世帯
<p>就職する企業数が少ない。働く場所がなければ、地域に根付くことができない。自分の住む地域は、周りの近所の人たちがみんな子育てに参加してくれるので、とても助かっている。</p>		非ひとり親世帯

	貧困線に 満たない世帯	家族形態
地域のつながりはあると思うが、子どもが少ないため社会性を育むことのための活動が様々あったらいいと思う。なるべく地域や行政のイベントに参加するようにしているが、関心のない人にも参加してもらえよう働きかけが必要だと感じる。		非ひとり親世帯
身延山病院の小児科が毎日じゃなくなったことがとても不便。		非ひとり親世帯
今の身延町には若者が喜ぶものも、移住したくなる何かもない。もう少し考えてほしい。		非ひとり親世帯
無料で遊べるところ(クラフトパーク等)がありすごくいいと思う。スイミングスクール等があればいいと思う。身延の自然を生かし、子どもにいろいろ吸収してほしい。親子でお風呂に入れるように、町営のお風呂を作って地域全体で子どもの成長を見守っていけるといいと思う(自然と会話も生まれると思う)。		非ひとり親世帯